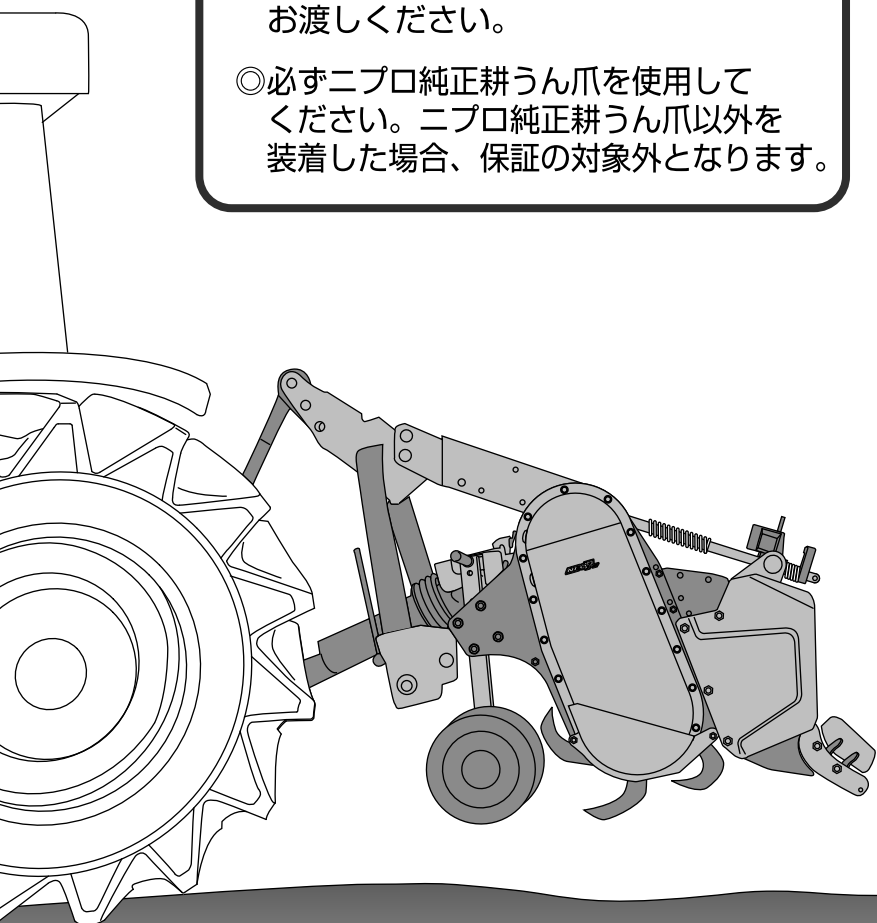


ニプロ NEO

ロータリー

MXR/LXR/DXR-10 シリーズ

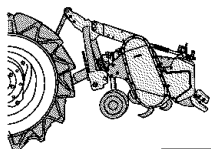
- ◎ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みになり、使用後は大切に保管してください。
- ◎取扱説明書は、必ず使用される方へお渡しください。
- ◎必ずニプロ純正耕うん爪を使用してください。ニプロ純正耕うん爪以外を装着した場合、保証の対象外となります。



Niplo

取扱説明書

- 1 安全について
- 2 概要と各部の名称
- 3 解梱と組立て
- 4 取付ける前に
- 5 取付けについて
- 6 調整について
- 7 作業前の点検
- 8 移動・ほ場への出入りと作業
- 9 取外しについて
- 10 保守・点検
- 11 格納について
- 12 アタッチメント一覧表 (オプション)
- 13 保証とサービスについて
- 14 用語と解説



はじめに

このたびは、ニプロロータリーをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の取扱方法や操作手順、使用上の注意事項等を説明したものです。ご使用前に必ずよく読み十分理解されてから、正しくお取扱ください。

使用目的・用途について

- 本ロータリー（以下作業機と記す）は、トラクタに取付け、水田や畑の耕うん、碎土、整地作業に使用してください。使用目的以外の作業には、決して使わないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象になりません。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

国外への持ち出し（輸出）について

- 本作業機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。本作業機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

安全対策について

- 当社は、本作業機に関する危険をすべて予測することができません。また、取扱説明書や警告ラベルでその危険をすべて伝えることができません。したがって、作業機の運転、保守作業については、一般的に求められる安全対策の配慮が必要です。
- 日本語を母国語としない人が本作業機を取扱う場合は、お客様において取扱者に対して取扱指導および安全指導を実施してください。
更に、取扱者の母国語で、警告ラベル記載文言に相当する文言を貼付・記載してください。
- この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「1.3 安全に作業をするために」（2 ページ）を記載しています。ご使用前に必ず読み、理解してください。

廃棄処理に関する注意事項

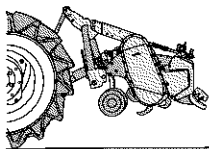
- 本作業機や消耗部品の廃棄については、各地方の条例に従ってください。

この取扱説明書の取扱いおよびお問い合わせ

- この取扱説明書は、当社の著作物です。無断でこの取扱説明書のすべて、もしくは部分的に関わらず、当社の同意なしに複写・複製をすることを禁じます。
- 品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合には、取扱説明書の内容およびイラストなどの一部が本作業機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- お読みになった後は、必ず作業機の近くに保管し、必要になった時に読めるようにしてください。
- 作業機を他人に貸したり、譲り渡される場合は、この取扱説明書を作業機に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、速やかにお買い上げいただきました購入先へご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただきました購入先へご相談ください。

型式と区分について

- この取扱説明書では、型式・区分の異なる作業機を併記しています。
お買い上げいただいた作業機の型式・区分を、作業機に貼付してあるネームプレートで確認し（「1.4 警告ラベルの種類と位置」（10 ページ）を参照）、該当箇所をお読みください。



目次

はじめに	i
目次	1

1 安全について

1.1 警告文の定義	2
1.2 その他の注意補足等	2
1.3 安全に作業をするために	2
1.3.1 一般的な注意事項	2
1.3.2 解梱の注意事項	4
1.3.3 取付け・取外しの注意事項	5
1.3.4 移動・作業時の注意事項	5
1.3.5 保守・点検・調整時の注意事項	8
1.3.6 格納時の注意事項	9
1.4 警告ラベルの種類と位置	10
1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置	11

2 概要と各部の名称

2.1 概要	12
2.2 トラクタとの関係	12
2.3 主要諸元	13
2.4 各部の名称	25

3 解梱と組立て

3.1 梱包品の確認	26
3.2 解梱・組立て	26

4 取付ける前に

4.1 トラクタの規格	28
4.2 トラクタの準備	29
4.2.1 4S/3S/0S シリーズ 4L/3L/3LB/0L シリーズ	29
4.3 装着姿勢	29
4.4 カブラの準備	30

5 取付けについて

5.1 取付けに関する注意	31
5.2 カブラの取付け	32
5.2.1 4S/3S/0S シリーズ 4L/3L/3LB/0L シリーズ	32
5.2.2 2L シリーズ	34
5.3 ジョイントの取付け	35
5.3.1 4S シリーズ 4L シリーズ	36
5.3.2 3S シリーズ 3L シリーズ	37
5.3.3 3LB シリーズ	38
5.3.4 2L シリーズ	39
5.3.5 1L シリーズ	40
5.3.6 切断方法	40
5.4 トラクタへの取付け	41
5.4.1 4S/3S シリーズ	41
5.4.2 4L/3L シリーズ	43
5.4.3 3LB シリーズ	45
5.4.4 2L シリーズ	46
5.4.5 1L シリーズ	48

6 調整について

6.1 調整時の注意事項	49
6.2 水平調整	50
6.2.1 自動水平装置付トラクタ	50
6.2.2 自動水平装置のないトラクタ	50
6.3 チェックチェーンの調整	50
6.4 最上げ位置の調節	50
6.5 前後角度調整	51
6.5.1 MXR/LXR	51
6.5.2 DXR	51
6.6 ゲージ輪の幅調節	51

7 作業前の点検

	52
--	----

8 移動・ほ場への出入りと作業

8.1 移動・作業時の注意事項	52
8.2 移動のしかた	54
8.3 作業姿勢	55
8.3.1 MXR	55
8.3.2 LXR	55
8.3.3 DXR	55
8.4 作業のしかた	56
8.4.1 耕うん方法	56
8.5 上手な作業のしかた	56
8.5.1 作業速度と回転速度	56
8.5.2 耕うん軸回転の変速	57
8.5.3 作業深さの調整	59
8.5.4 均平板の調節	59
8.5.5 均平板のはね上げ	60
8.5.6 延長均平板の操作	62
8.5.7 補助側板の調整	62
8.5.8 傾斜地での作業	62
8.5.9 逆転 PTO について	62

9 取外しについて

9.1 取外しの注意事項	63
9.2 4S/3S シリーズ	63
9.3 4L/3L シリーズ	64
9.4 3LB シリーズ	65
9.5 2L シリーズ	67
9.6 1L シリーズ	68

10 保守・点検

10.1 保守・点検時の注意事項	70
10.2 ボルト・ナットのゆるみ点検	70
10.3 ジョイントの給油	70
10.4 オイル量の点検と交換	71
10.4.1 ミッションケース	71
10.4.2 チェーンケース	72
10.4.3 ブラケット側軸受部	72
10.5 グリースの補充	73
10.6 消耗部品の交換	73
10.7 耕うん爪について	76
10.8 耕うん爪配列方法	77
10.9 点検整備チェックリスト	80
10.10 異常と処置一覧表	81

11 格納について

	82
--	----

12 アタッチメント一覧表 (オプション)

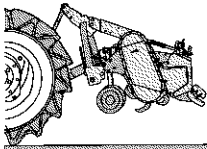
	83
--	----

13 保証とサービスについて

13.1 保証について	84
13.2 アフターサービスについて	84
13.3 補修部品と供給年限について	84

14 用語と解説

	85
--	----



1 安全について

1.1 警告文の定義

この取扱説明書で使用している表示を以下に示します。

危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。

表示の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

◆表示の説明

 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高い状態を示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことがあり得る状態を示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、軽傷または中程度の傷害を負うかもしれない状態を示します。

1.2 その他の注意補足等

◆注意補足の説明

重要	その警告文に従わなかった場合、作業機やトラクタの損傷、故障のおそれがあるものを示します。
環境	環境保護のために知っておいていただきたいことや、守っていただきたいことを記載しています。
注記	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

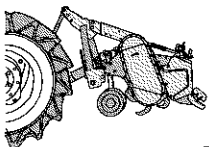
1.3 安全に作業をするために

ここに記載している警告文を守らないと、死亡・傷害事故や、作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。よく読んで、作業を行う場合は十分注意してください。

1.3.1 一般的な注意事項

 警告	
こんなときは運転しない	
● 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき ● 酒を飲んだとき ● 妊娠しているとき ● 年少者や運転の未熟な人	
【守らないと】 傷害事故をまねくおそれがあります。	





警告

作業に適した服装をする

ヘルメット・すべり止めのついた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。

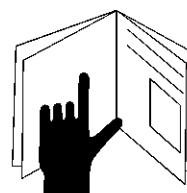
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



本作業機を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、必ず使用前に取扱説明書を読むように指導してください。

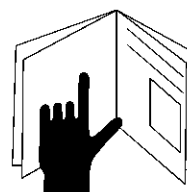
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



本作業機を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

本作業機と一緒に取扱説明書を渡し、必ず読むように指導してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

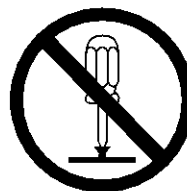


作業機の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象になりません。

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

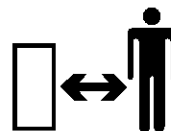
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



トラクタと作業機の周りに人（特に子供）を近づけない

トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



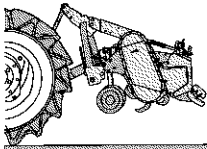
重量バランスの調整をする

・トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の25%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。

・トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。





⚠ 注意

交通法規を順守する

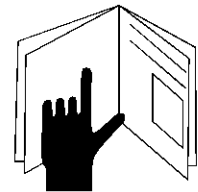
トラクタに作業機を装着した状態では、「道路運送車両法の保安基準」を満たしていません。トラクタと作業機の組み合わせごとに「保安基準」を満たしていることの確認が必要です。

【守らないと】道路運送車両法違反となります。また、事故を引き起こすおそれがあります。

トラクタの取扱説明書をよく読む

必ずトラクタの取扱説明書をよく読み、理解してください。

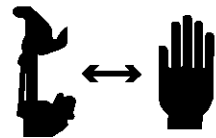
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。



カプラのハンドルには絶対に手を触れない（カプラ仕様）

作業機の取付け・取外しのとき以外は、絶対にカプラのハンドルには手を触れないでください。また、必ずロックピン（ストッパー）をかけ、カプラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。



1.3.2 解梱の注意事項

⚠ 警告

梱包用スタンドの取外しや番線を切断するときは、十分注意する

【守らないと】フレームの重みで作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故、作業機の損傷につながるおそれがあります。



⚠ 注意

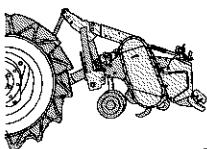
梱包を解体するときは、厚手の手袋を着用し、手を保護する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



パイプのフック、鉄棒の突起部などには十分注意する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



1.3.3 取付け・取外しの注意事項

⚠ 危険

カバー類を元どおりに取付ける

取外したトラクタのPTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 警告

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を取付け・取外しは、平らな場所で行う

平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

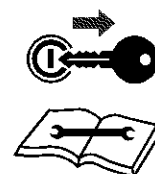
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を取付け・取外しは、エンジンを停止して行う

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

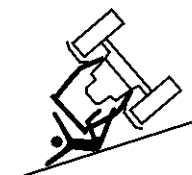


1.3.4 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしない

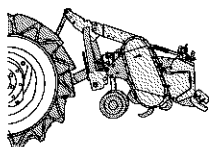
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。





⚠ 警告

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしない

作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



周囲の人や物に注意して走行する

トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人や物に注意して走行してください。

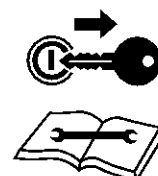
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



積込み、積降しは、サイドブレーキをかけ、車止めをして行う

積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用する

あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの4倍、またはあぜや段差の4倍です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。

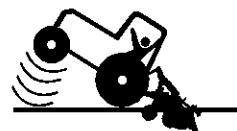


重量バランスの調整をする

・急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の25%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。

・トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

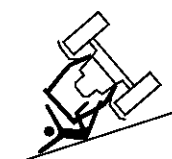
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

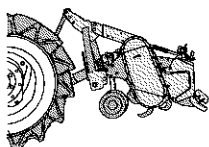


両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意する

軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

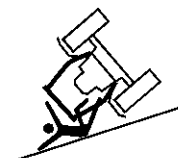




⚠ 警告

ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行う

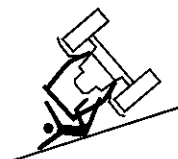
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



傾斜地では作業走行しない

作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



ロータリー耕では、ダッシングに注意する

固いほ場や、石の多いところでは、作業機をゆっくり下ろしてください。回転する爪の勢いでトラクタを押し、飛び出す（ダッシング）ことがあります。

【守らないと】傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業機は、絶対に素手で触れたり、足で踏めない

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。

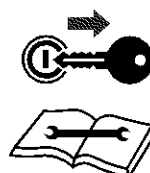


作業機やトラクタに巻き付いた草などを取るときはエンジンを停止する

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

- ・回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。



作業機の調整はエンジンを停止して行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

- ・回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

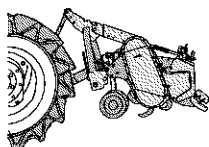


移動時は、必ずトラクタの PTO 変速レバーを「中立」の位置にする

移動（前進・後進）するときは、必ずトラクタの PTO 変速レバーを「中立」の位置にしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。





⚠ 注意

異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- ・回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

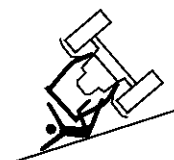
【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。



あぜ際での作業は、低速で余裕をもって運転する

あぜに作業機をぶつけないように、低速で余裕をもって運転してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。



草やゴミを路上に落とさない

作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

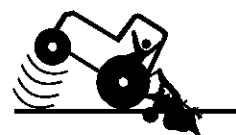
1.3.5 保守・点検・調整時の注意事項

⚠ 警告

作業は、平らで安定した場所で行う

- ・交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- ・作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- ・トラクタの車輪には車止めをしてください。

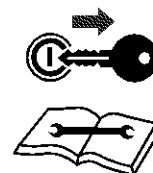
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業は、エンジンを停止して行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- ・回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

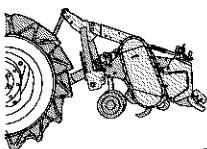


トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックする

作業機が下がるのを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。





⚠ 警告

異常を見つけたら、速やかに修理する

変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



取外したカバー類は元どおりに取付ける

保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

目的に合った工具を正しく使用する

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



作業時は、厚手の手袋を着用し、手を保護する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



1.3.6 格納時の注意事項

⚠ 注意

平らで固い場所に格納する

雨や風があたりず、平らで固い場所を選んでください。

【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。



作業機単体の転倒防止をする

ゲージ輪止めピン、連結ロットのスプリングエンドを所定の位置で止め、転倒を防止してください。

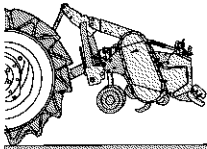
【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。



トラクタから取外したカプラを作業機に取付けて格納しない(カプラ仕様)

カプラをトラクタから取外した場合、取外したカプラを作業機に取付けて格納しないでください。

【守らないと】カプラが落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

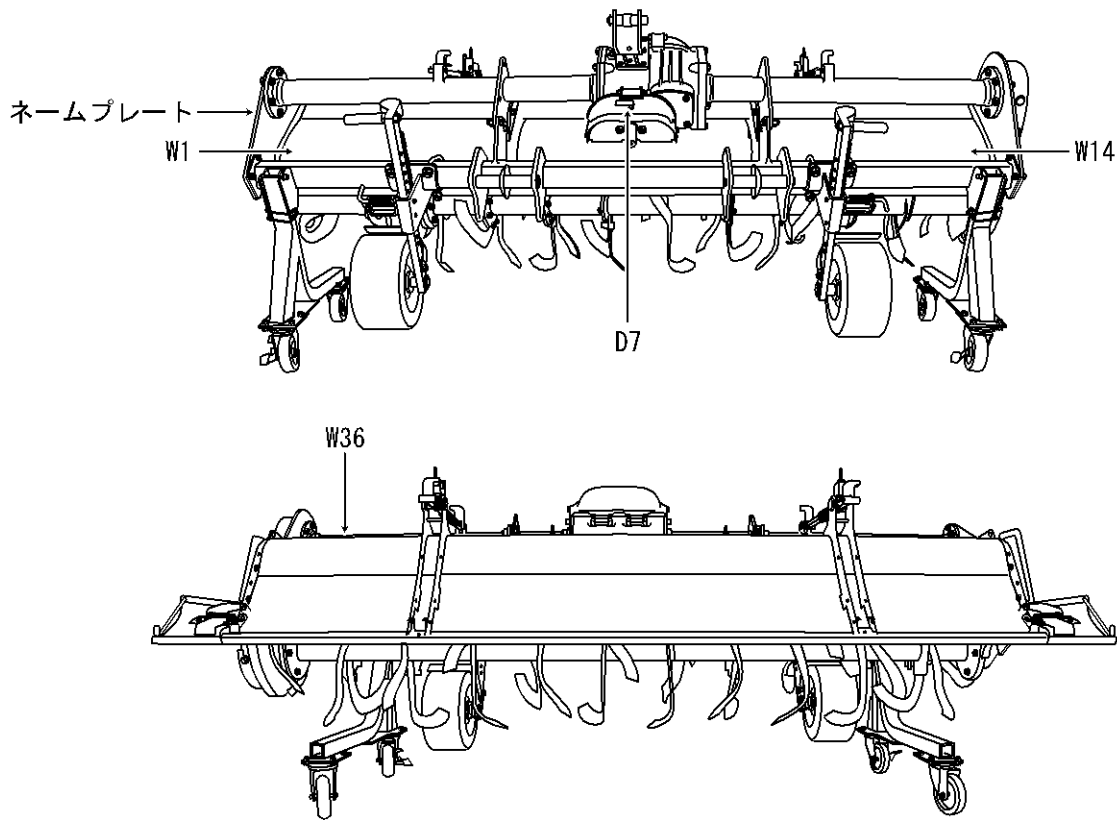


1.4 警告ラベルの種類と位置

- 警告ラベルはイラストの位置に貼ってあります。よくお読みになり安全に作業を行ってください。
- 警告ラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 警告ラベルを紛失または損傷された場合には、お買い上げいただいた購入先へ下記型式、および部品番号で注文してください。

注 記

- ・ イラストは MXR です。LXR/DXR にはスタンドが付いていません。



D7

8750-344000



W1 8750-316000

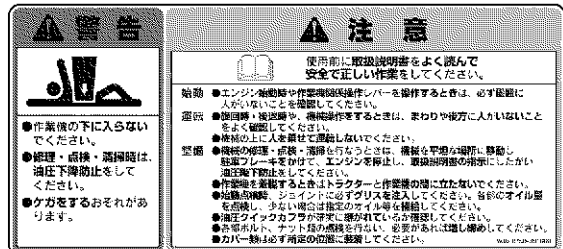


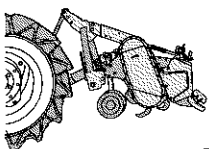
W14 8750-348000



W36

8750-391000



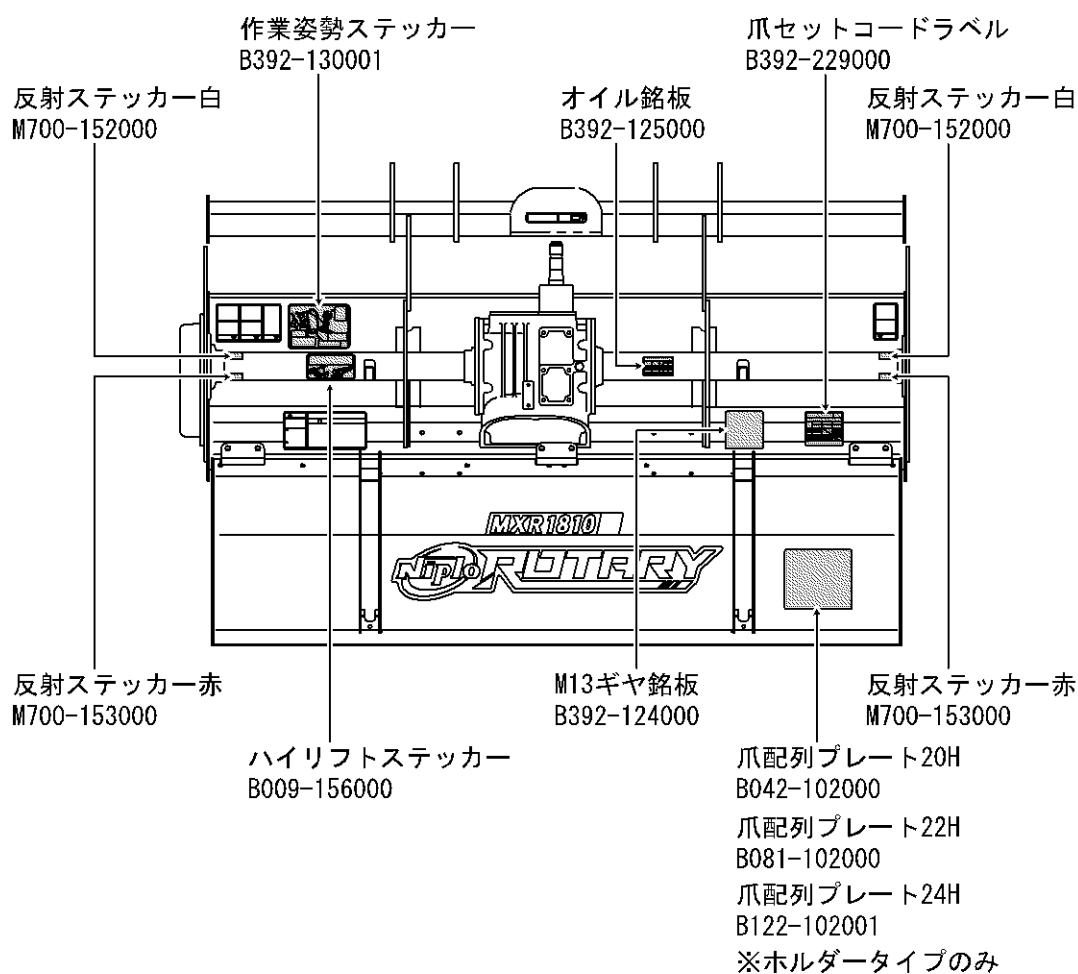


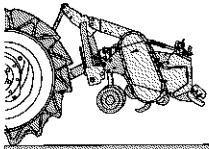
1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置

- 注意銘板とその他のラベルはイラストの位置に貼ってあります。
- 注意銘板とその他のラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 注意銘板とその他のラベルを紛失または損傷された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。

注 記

- ・ イラストは MXR です。



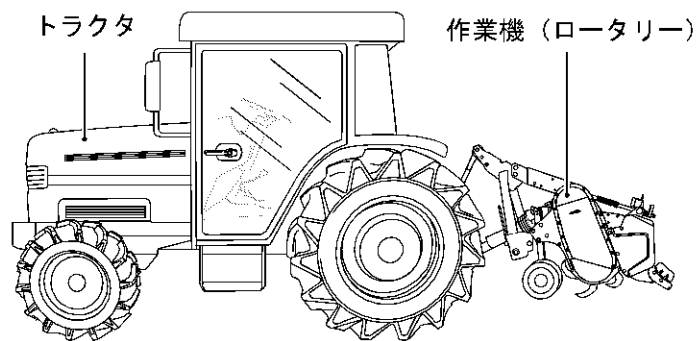


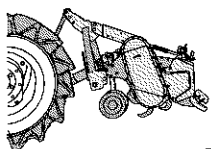
2 概要と各部の名称

2.1 概要

- 本作業機は、水田や畑の耕うん、碎土、整地作業に使用してください。
- 本作業機は、「標準3点リンク」で設計しています。他の規格では取付けができません。
- 本作業機は、決められた適応馬力で設計しています。適応トラクタ馬力の範囲内で使用してください。

2.2 トラクタとの関係





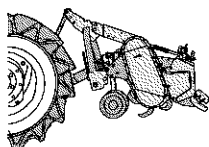
2.3 主要諸元

型式・区分		MXR1810			MXR1910			MXR2010 (H)		
		-4S	-3S	-0S	-4S	-3S	-0S	-4S	-3S	-0S
駆動方式		サイドドライブ								
機体寸法	全 長 (mm)	1155								
	全 幅 (mm)	1990			2090			2190		
	全 高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1040)								
機体質量 (kg)		520		485	530		495	540		505
適応トラクタ [kW (ps)]		29.4~40.5 (40~55)			33.1~44.1 (45~60)			33.1~44.1 (45~60)		
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (O・I)								
ジョイント型式		CLCV-Z	CLCV	—	CLCV-Z	CLCV	—	CLCV-Z	CLCV	—
標準耕幅 (cm)		180			190			200		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16								
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整								
標準作業速度 (km/h)		1.5~2.5								
入力軸回転数 (rpm)		540								
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)	標準	163 (25:18)		197 (23:20)	260 (20:23)		314 (18:25)			
	オプション	179 (24:19)		216 (22:21)	237 (21:22)					
		286 (19:24)		346 (17:26)	382 (16:27)					
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)								
標準爪の種類と 本数		A251G L18 本 A251G R18 本			A251G L20 本 A251G R20 本			A251G L20 本 A251G R20 本 (H141G L20 本 H141G R20 本) (A273G L2 本 A273G R2 本)		
標準爪の外径 (cm)		51								
作業能率 (分/10a)		18~30			17~28			16~27		

型式・区分		MXR1810			MXR1910			MXR2010 (H)		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ								
機体寸法	全 長 (mm)	1155								
	全 幅 (mm)	1990			2090			2190		
	全 高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1040)								
機体質量 (kg)		520		485	530		495	540		505
適応トラクタ [kW (ps)]		33.1~40.5 (45~55)			33.1~44.1 (45~60)			33.1~47.8 (45~65)		
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)								
ジョイント型式		CRCV-Z	BD-CV	—	CRCV-Z	BD-CV	—	CRCV-Z	BD-CV	—
標準耕幅 (cm)		180			190			200		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16								
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整								
標準作業速度 (km/h)		1.5~2.5								
入力軸回転数 (rpm)		540								
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)	標準	163	(25:18)	197	(23:20)	260	(20:23)	314	(18:25)	
	オプション	179	(24:19)	216	(22:21)	237	(21:22)			
		286	(19:24)	346	(17:26)	382	(16:27)			
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)								
標準爪の種類と 本数		A251G L18 本 A251G R18 本			A251G L20 本 A251G R20 本			A251G L20 本 A251G R20 本 (H141G L20 本 H141G R20 本) (A273G L2 本 A273G R2 本)		
標準爪の外径 (cm)		51								
作業能率 (分/10a)		18~30			17~28			16~27		

※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※ 機体質量にはキャスター付スタンドは含まれていません。

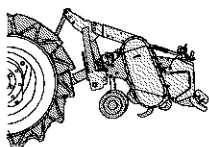


型式・区分		MXR1810	MXR1910	MXR2010 (H)
		-1L	-1L	-1L
駆動方式		サイドドライブ		
機体寸法	全 長 (mm)	1155		
	全 幅 (mm)	1990	2090	2190
	全 高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1060)		
機体質量 (kg)		500	510	520
適応トラクタ [kW (ps)]		33.1~40.5 (45~55)	33.1~44.1 (45~60)	33.1~47.8 (45~65)
装着方法の種類		標準 3 点リンク直装 (JIS 1 形)		
ジョイント型式		BD	BD	BD
標準耕幅 (cm)		180	190	200
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16		
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整		
標準作業速度 (km/h)		1.5~2.5		
入力軸回転数 (rpm)		540		
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	163 (25:18)	197 (23:20) 260 (20:23) 314 (18:25)
		オプション	179 (24:19)	216 (22:21) 237 (21:22)
		286 (19:24)	346 (17:26) 382 (16:27)	
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)		
標準爪の種類と 本数		A251G L18 本 A251G R18 本	A251G L20 本 A251G R20 本	A251G L20 本 A251G R20 本 (H141G L20 本 H141G R20 本) (A273G L2 本 A273G R2 本)
標準爪の外径 (cm)		51		
作業能率 (分/10a)		18~30	17~28	16~27

型式・区分		MXR2210 (H)			MXR2410 (H)		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ					
機体寸法	全 長 (mm)	1155					
	全 幅 (mm)	2390			2590		
	全 高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1040)					
機体質量 (kg)		560		525	580		545
適応トラクタ (kW (ps))		33.1～55.2 (45～75)			36.8～55.2 (50～75)		
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)					
ジョイント型式		CRCV-Z	BD-CV	—	CRCV-Z	BD-CV	—
標準耕幅 (cm)		220			240		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16					
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整					
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5					
入力軸回転数 (rpm)		540					
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	163 (25:18)	197 (23:20)	260 (20:23)	314 (18:25)	
		オプション	179 (24:19)	216 (22:21)	237 (21:22)		
		286 (19:24)	346 (17:26)	382 (16:27)			
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)					
標準爪の種類と 本数		A251G L22 本 A251G R22 本 (H141G L22 本 H141G R22 本) (A273G L2 本 A273G R2 本)			A251G L24 本 A251G R24 本 (H141G L24 本 H141G R24 本) (A273G L2 本 A273G R2 本)		
標準爪の外径 (cm)		51					
作業能率 (分/10a)		15～24			13～22		

※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※ 機体質量にはキャスター付スタンドは含まれていません。

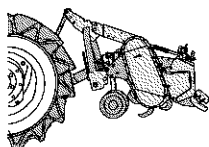


型式・区分		MXR2210 (H)		MXR2410 (H)	
		-2L	-1L	-2L	-1L
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全 長 (mm)	1155			
	全 幅 (mm)	2390		2590	
	全 高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1060)			
機体質量 (kg)		550	540	570	560
適応トラクタ [kW (ps)]		33.1～55.2 (45～75)		36.8～55.2 (50～75)	
装着方法の種類		2点クイックヒッチ	標準 3点リンク直装 (JIS 1形)	2点クイックヒッチ	標準 3点リンク直装 (JIS 1形)
ジョイント型式		BD			
標準耕幅 (cm)		220		240	
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16			
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5			
入力軸回転数 (rpm)		540			
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	163 (25:18)	197 (23:20)	260 (20:23) 314 (18:25)
		オプション	179 (24:19)	216 (22:21)	237 (21:22)
		286 (19:24)	346 (17:26)	382 (16:27)	
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と 本数		A251G L22本 A251G R22本 (H141G L22本 H141G R22本) (A273G L2本 A273G R2本)		A251G L24本 A251G R24本 (H141G L24本 H141G R24本) (A273G L2本 A273G R2本)	
標準爪の外径 (cm)		51			
作業能率 (分/10a)		15～24		13～22	

型式・区分		MXR1710M			MXR1810M			MXR2010M		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ								
機体寸法	全 長 (mm)	1155								
	全 幅 (mm)	1890			1990			2190		
	全 高 (mm)	1050 (スタンド装着時 1070)								
機体質量 (kg)		530		495	540		505	560		525
適応トラクタ [kW (ps)]		30.2~33.1 (40~45)			30.2~40.5 (40~55)			33.1~55.2 (45~75)		
装着方法の種類		日農エオートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)								
ジョイント型式		CRCV-Z	BD-CV	—	CRCV-Z	BD-CV	—	CRCV-Z	BD-CV	—
標準耕幅 (cm)		170			180			200		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16								
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整								
標準作業速度 (km/h)		1.0~2.0								
入力軸回転数 (rpm)		540								
耕うん軸回転数 (rpm)		標準 197 (23:20) 216 (22:21) 237 (21:22) 260 (20:23)								
(変速軸・入力軸)		オプション 163 (25:18) 179 (24:19) 286 (19:24) 314 (18:25) 346 (17:26) 382 (16:27)								
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)								
標準爪の種類と 本数		M1G L21 本 M1G R21 本			M1G L21 本 M1G R21 本			M1G L24 本 M1G R24 本		
標準爪の外径 (cm)		53								
作業能率 (分/10a)		24~47			22~44			20~40		

※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

※ 機体質量にはキャスター付スタンドは含まれていません。

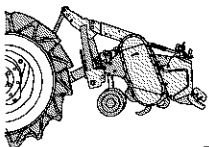


型式・区分		MXR1810 -3LB	MXR1910 -3LB	MXR2010 -3LB
駆動方式		サイドドライブ		
機体寸法	全長 (mm)	1155		
	全幅 (mm)	1990	2090	2190
	全高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1040)		
機体質量 (kg)		520	530	540
適応トラクタ [kW (ps)]		29.4~40.5 (40~55)	33.1~44.1 (45~60)	33.1~44.1 (45~60)
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (O・I)		
ジョイント型式		BD-CV		
標準耕幅 (cm)		180	190	200
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16		
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整		
標準作業速度 (km/h)		1.5~2.5		
入力軸回転数 (rpm)		540		
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)	標準	163 (25:18)	197 (23:20)	260 (20:23) 314 (18:25)
	オプション	179 (24:19)	216 (22:21)	237 (21:22)
		286 (19:24)	346 (17:26)	382 (16:27)
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)		
標準爪の種類と本数		A251G L18 本 A251G R18 本	A251G L20 本 A251G R20 本	A251G L20 本 A251G R20 本
標準爪の外径 (cm)		51		
作業能率 (分/10a)		18~30	17~28	16~27

型式・区分		MXR2210 -3LB	MXR2410 -3LB
駆動方式		サイドドライブ	
機体寸法	全長 (mm)	1155	
	全幅 (mm)	2390	2590
	全高 (mm)	1100 (スタンド装着時 1040)	
機体質量 (kg)		560	580
適応トラクタ [kW (ps)]		33.1~55.2 (45~75)	36.8~55.2 (50~75)
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (I・II)	
ジョイント型式		BD-CV	
標準耕幅 (cm)		220	240
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16	
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整	
標準作業速度 (km/h)		1.5~2.5	
入力軸回転数 (rpm)		540	
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)	標準	163 (25:18)	197 (23:20) 260 (20:23) 314 (18:25)
	オプション	179 (24:19)	216 (22:21) 237 (21:22)
		286 (19:24)	346 (17:26) 382 (16:27)
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)	
標準爪の種類と本数		A251G L22 本 A251G R22 本	A251G L24 本 A251G R24 本
標準爪の外径 (cm)		51	
作業能率 (分/10a)		15~24	13~22

※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

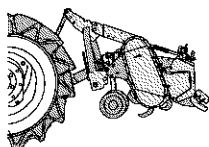
※ 機体質量にはキャスター付スタンドは含まれていません。



型式・区分		LXR2010			LXR2210			LXR2210H		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ								
機体寸法	全 長 (mm)	1150								
	全 幅 (mm)	2200			2400					
	全 高 (mm)	1150								
機体質量 (kg)		605		570	630		595	620		595
適応トラクタ (kW(ps))		36.8～55.2 (50～75)			40.5～62.5 (55～85)			40.5～69.9 (55～95)		
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)								
ジョイント型式		CRCV-Z	CRCV	—	CRCV-Z	CRCV	—	CRCV-Z	CRCV	—
標準耕幅 (cm)		200			220					
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16			12 (最大) 15					
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整								
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5								
入力軸回転数 (rpm)		540								
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸：入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25)	310 (20:27)				
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23)	239 (23:24)				
			284 (21:26)	338 (19:28)						
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)								
標準爪の種類と 本数		BA1G L20 本 BA1G R20 本			BA1G L22 本 BA1G R22 本			H142G L, R 各 22 本 A273G L, R 各 2 本		
標準爪の外径 (cm)		54			52					
作業能率 (分/10a)		16～27			15～24					

型式・区分		LXR2410			LXR2410H			LXR2610			LXR2610H		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ											
機体寸法	全 長 (mm)	1150											
	全 幅 (mm)	2600						2800					
	全 高 (mm)	1150											
機体質量 (kg)		655		620	645		620	680		645	670		645
適応トラクタ [kW(ps)]		47.8～69.9 (65～95)			40.5～69.9 (55～95)			51.5～69.9 (70～95)			47.8～69.9 (65～95)		
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)											
ジョイント型式		CRCV-Z	CRCV	—	CRCV-Z	CRCV	—	CRCV-Z	CRCV	—	CRCV-Z	CRCV	—
標準耕幅 (cm)		240						260					
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16			12 (最大) 15			12 (最大) 16			12 (最大) 15		
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整											
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5											
入力軸回転数 (rpm)		540											
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸：入力軸)		標準	170 (27:20)		202 (25:22)		261 (22:25)		310 (20:27)				
		オプション	156 (28:19)		185 (26:21)		220 (24:23)		239 (23:24)				
		284 (21:26)		338 (19:28)									
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)											
標準爪の種類と 本数		BA1G L24 本 BA1G R24 本			H142G L, R 各 24 本 A273G L, R 各 2 本			BA1G L26 本 BA1G R26 本			H142G L, R 各 28 本 A273G L, R 各 2 本		
標準爪の外径 (cm)		54			52			54			52		
作業能率 (分/10a)		13～22						12～20					

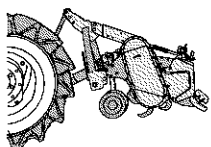
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		LXR2010				
		-2L		-1L		
駆動方式		サイドドライブ				
機体寸法	全 長 (mm)	1150				
	全 幅 (mm)	2200				
	全 高 (mm)	1150				
機体質量 (kg)		595		585		
適応トラクタ [kW (ps)]		36.8～55.2 (50～75)				
装着方法の種類		2点クイックヒッチ		標準3点リンク直装 (catⅡ)		
ジョイント型式		CR				
標準耕幅 (cm)		200				
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16				
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整				
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5				
入力軸回転数 (rpm)		540				
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25)	310 (20:27)
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23)	239 (23:24)
			284 (21:26)	338 (19:28)		
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)				
標準爪の種類と 本数		BA1G L20本 BA1G R20本				
標準爪の外径 (cm)		54				
作業能率 (分/10a)		16～27				

型式・区分		LXR2210		LXR2210H	
		-2L	-1L	-2L	-1L
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全 長 (mm)	1150			
	全 幅 (mm)	2400			
	全 高 (mm)	1150			
機体質量 (kg)		620	610	620	610
適応トラクタ [kW (ps)]		40.5～69.9 (55～95)			
装着方法の種類		2点クイックヒッチ	標準3点リンク直装 (catⅡ)	2点クイックヒッチ	標準3点リンク直装 (catⅡ)
ジョイント型式		CR			
標準耕幅 (cm)		220			
標準耕深 (cm)		12 (最大) 15			
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5			
入力軸回転数 (rpm)		540			
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25) 310 (20:27)
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23) 239 (23:24)
			284 (21:26)	338 (19:28)	
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と 本数		BA1G L22本 BA1G R22本		H142G L,R 各22本 A273G L,R 各2本	
標準爪の外径 (cm)		52			
作業能率 (分/10a)		15～24			

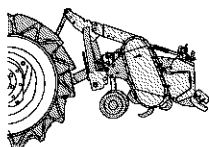
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		LXR2410		LXR2410H	
		-2L	-1L	-2L	-1L
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全 長 (mm)	1150			
	全 幅 (mm)	2600			
	全 高 (mm)	1150			
機体質量 (kg)		645	635	645	635
適応トラクタ [kW (ps)]		47.8～69.9 (65～95)		40.5～69.9 (55～95)	
装着方法の種類		2点クイックヒッチ	標準 3点リンク直装 (catⅡ)	2点クイックヒッチ	標準 3点リンク直装 (catⅡ)
ジョイント型式		CR			
標準耕幅 (cm)		240			
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16		12 (最大) 15	
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5			
入力軸回転数 (rpm)		540			
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸：入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25) 310 (20:27)
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23) 239 (23:24)
			284 (21:26)	338 (19:28)	
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と本数		BA1G L24本 BA1G R24本		H142G L,R 各24本 A273G L,R 各2本	
標準爪の外径 (cm)		54		52	
作業能率 (分/10a)		13～22			

型式・区分		LXR2610		LXR2610H	
		-2L	-1L	-2L	-1L
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全 長 (mm)	1150			
	全 幅 (mm)	2800			
	全 高 (mm)	1150			
機体質量 (kg)		680	670	680	670
適応トラクタ [kW (ps)]		51.5～69.9 (70～95)		47.8～69.9 (65～95)	
装着方法の種類		2点クイックヒッチ	標準 3点リンク直装 (cat II)	2点クイックヒッチ	標準 3点リンク直装 (cat II)
ジョイント型式		CR			
標準耕幅 (cm)		240		260	
標準耕深 (cm)				12 (最大) 16	12 (最大) 15
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5			
入力軸回転数 (rpm)		540			
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸：入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25) 310 (20:27)
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23) 239 (23:24)
			284 (21:26)	338 (19:28)	
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と本数		BA1G L26本 BA1G R26本		H142G L,R 各28本 A273G L,R 各2本	
標準爪の外径 (cm)		54		52	
作業能率 (分/10a)		12～20			

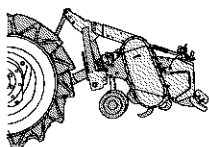
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		LXR2010M			LXR2210M		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ					
機体寸法	全 長 (mm)	1150					
	全 幅 (mm)	2200			2400		
	全 高 (mm)	1150					
機体質量 (kg)		635		600	670		635
適応トラクタ [kW(ps)]		36.8～55.2 (50～75)			40.5～62.5 (55～85)		
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)					
ジョイント型式		CRCV-Z	CR-CV	—	CRCV-Z	CR-CV	—
標準耕幅 (cm)		200			220		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16					
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整					
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5					
入力軸回転数 (rpm)		540					
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	202 (25:22)	220 (24:23)	239 (23:24)	261 (22:25)	
		オプション	156 (28:19)	170 (27:20)	185 (26:21)	284 (21:26)	
			310 (20:27)	338 (19:28)			
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)					
標準爪の種類と 本数		BM6G L27 本 BM6G R27 本			BM6G L30 本 BM6G R30 本		
標準爪の外径 (cm)		54					
作業能率 (分/10a)		16～27			15～24		

型式・区分		LXR2010M -2L		LXR2210M -2L		
駆動方式		サイドドライブ				
機体寸法	全 長 (mm)	1150				
	全 幅 (mm)	2200		2400		
	全 高 (mm)	1150				
機体質量 (kg)		625		645		
適応トラクタ [kW (ps)]		36.8～55.2 (50～75)		40.5～62.5 (55～85)		
装着方法の種類		2 点クイックヒッチ				
ジョイント型式		CR				
標準耕幅 (cm)		200		220		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16				
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整				
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5				
入力軸回転数 (rpm)		540				
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	202 (25:22)	220 (24:23)	239 (23:24)	261 (22:25)
		オプション	156 (28:19)	170 (27:20)	185 (26:21)	284 (21:26)
			310 (20:27)	338 (19:28)		
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)				
標準爪の種類と 本数		BM6G L27 本 BM6G R27 本		BM6G L30 本 BM6G R30 本		
標準爪の外径 (cm)		54				
作業能率 (分/10a)		16～27		15～24		

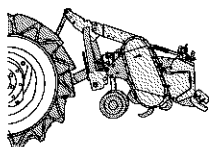
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		LXR2410VM			LXR2610VM		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ					
機体寸法	全 長 (mm)	1150					
	全 幅 (mm)	2600			2800		
	全 高 (mm)	1150					
機体質量 (kg)		695		660	710		675
適応トラクタ [kW (ps)]		47.8～69.9 (65～95)			51.5～69.9 (70～95)		
装着方法の種類		日農エオートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)					
ジョイント型式		CRCV-Z	CR-CV	—	CRCV-Z	CR-CV	—
標準耕幅 (cm)		240			260		
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16					
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整					
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5					
入力軸回転数 (rpm)		1000					
耕うん軸回転数 (rpm)		標準 241 (30:17) 288 (28:19)					
(変速軸・入力軸)		オプション 199 (32:15) 219 (31:16) 264 (29:18) 315 (27:20) 343 (26:21)					
変速の有無と変速方法		有(平歯車の交換)					
標準爪の種類と 本数		BM6G L33 本 BM6G R33 本			BM6G L36 本 BM6G R36 本		
標準爪の外径 (cm)		54					
作業能率 (分/10a)		13～22			12～20		

型式・区分		LXR2410VM	LXR2610VM	LXR2410VME	LXR2610VME
		-2L	-2L	-2L	-2L
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全長 (mm)	1270			
	全幅 (mm)	2600	2800	2600	2800
	全高 (mm)	1170			
機体質量 (kg)		660	675	650	675
適応トラクタ [kW (ps)]		47.8~69.9 (65~95)	51.5~69.9 (70~95)	47.8~69.9 (65~95)	51.5~69.9 (70~95)
装着方法の種類		2点クイックヒッチ			
ジョイント型式		CR			
標準耕幅 (cm)		240	260	240	260
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16			
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5~2.5			
入力軸回転数 (rpm)		1000			
耕うん軸回転数 (rpm)		標準 199 (32:15) 241 (30:17)			
(変速軸: 入力軸)		オプション 219 (31:16) 264 (29:18) 288 (28:19) 315 (27:20) 343 (26:21)			
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と本数		BM6G L33 本 BM6G R33 本	BM6G L36 本 BM6G R36 本	BM6G L30 本 BM6G R30 本	BM6G L33 本 BM6G R33 本
標準爪の外径 (cm)		54			
作業能率 (分/10a)		13~22	12~20	13~22	12~20

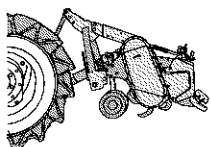
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		LXR2810K			LXR3010K			LXR3310K		
		-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L	-4L	-3L	-0L
駆動方式		サイドドライブ								
機体寸法	全 長 (mm)	1150								
	全 幅 (mm)	3000			3200			3500		
	全 高 (mm)	1150								
機体質量 (kg)		685		650	715		680	760		725
適応トラクタ (kW(ps))		47.8～69.9 (65～95)								
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)								
ジョイント型式		CRCV-Z	CR-CV	—	CRCV-Z	CR-CV	—	CRCV-Z	CR-CV	—
標準耕幅 (cm)		280			300			330		
標準耕深 (cm)		11 (最大) 14								
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整								
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5								
入力軸回転数 (rpm)		540								
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25)	310 (20:27)				
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23)	239 (23:24)				
			284 (21:26)	338 (19:28)						
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)								
標準爪の種類と 本数		A13 L2 本 A13 R2 本 S3351 L34 本 S3351 R34 本			A13 L2 本 A13 R2 本 S3351 L37 本 S3351 R37 本			A13 L2 本 A13 R2 本 S3351 L41 本 S3351 R41 本		
標準爪の外径 (cm)		53.5								
作業能率 (分/10a)		11～19			11～18			10～16		

型式・区分		LXR2010	LXR2210	LXR2410	LXR2610
		-3LB	-3LB	-3LB	-3LB
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全 長 (mm)	1150			
	全 幅 (mm)	2200	2400	2600	2800
	全 高 (mm)	1150			
機体質量 (kg)		605	630	655	680
適応トラクタ [kW (ps)]		36.8～55.2 (50～75)	40.5～62.5 (55～85)	47.8～69.9 (65～95)	51.5～69.9 (70～95)
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (Ⅰ・Ⅱ)			
ジョイント型式		CR-CV			
標準耕幅 (cm)		200	220	240	260
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16			
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5			
入力軸回転数 (rpm)		540			
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	170 (27:20)	202 (25:22)	261 (22:25) 310 (20:27)
		オプション	156 (28:19)	185 (26:21)	220 (24:23) 239 (23:24)
			284 (21:26)	338 (19:28)	
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と 本数		BA1G L20 本 BA1G R20 本	BA1G L22 本 BA1G R22 本	BA1G L24 本 BA1G R24 本	BA1G L26 本 BA1G R26 本
標準爪の外径 (cm)		54			
作業能率 (分/10a)		16～27	15～24	13～22	12～20

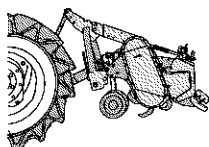
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		DXR2210				DXR2410			
		-4L	-3L	-2L	-0L	-4L	-3L	-2L	-0L
駆動方式		サイドドライブ							
機体寸法	全 長 (mm)	1250							
	全 幅 (mm)	2410				2610			
	全 高 (mm)	1155							
機体質量 (kg)		725	715	690		765	755	730	
適応トラクタ [kW (ps)]		55.2～69.9 (75～95)				62.5～73.6 (85～100)			
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (catⅡ)							
ジョイント型式		CRCV-Z	CRCV	CR	—	CRCV-Z	CRCV	CR	—
標準耕幅 (cm)		220				240			
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16							
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整							
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5							
入力軸回転数 (rpm)		540							
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸：入力軸)		標準	164 (29:24)	191 (27:26)	206 (26:27)	240 (24:29)			
		オプション	130 (32:21)	141 (31:22)	152 (30:23:30)	177 (28:25)			
			222 (25:28)	259 (23:30)					
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)							
標準爪の種類と 本数		BA1G L22 本 BA1G R22 本				BA1G L24 本 BA1G R24 本			
標準爪の外径 (cm)		54							
作業能率 (分/10a)		14.6～24.2				13.3～22.2			

型式・区分		DXR2610				DXR2810			
		-4L	-3L	-2L	-0L	-4L	-3L	-2L	-0L
駆動方式		サイドドライブ							
機体寸法	全 長 (mm)	1250							
	全 幅 (mm)	2810				3010			
	全 高 (mm)	1155							
機体質量 (kg)		805		795	770	845		835	810
適応トラクタ (kW (ps))		62.5～77.2 (85～105)				62.5～77.2 (85～105)			
装着方法の種類		日農工オートヒッチ (catⅡ)							
ジョイント型式		CRCV-Z	CRCV	CR	—	CRCV-Z	CRCV	CR	—
標準耕幅 (cm)		260				280			
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16							
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整							
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5							
入力軸回転数 (rpm)		540							
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸：入力軸)		標準	164 (29:24)	191 (27:26)	206 (26:27)	240 (24:29)			
		オプション	130 (32:21)	141 (31:22)	152 (30:23:30)	177 (28:25)			
			222 (25:28)	259 (23:30)					
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)							
標準爪の種類と 本数		BA1G L26 本 BA1G R26 本				BA1G L28 本 BA1G R28 本			
標準爪の外径 (cm)		54							
作業能率 (分/10a)		12.3～20.5				11.4～19.1			

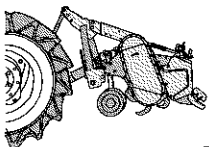
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。



型式・区分		DXR2410VM				DXR2610VM			
		-4L	-3L	-2L	-0L	-4L	-3L	-2L	-0L
駆動方式		サイドドライブ							
機体寸法	全 長 (mm)	1250							
	全 幅 (mm)	2610				2810			
	全 高 (mm)	1155							
機体質量 (kg)		780		770	745	820		810	785
適応トラクタ [kW (ps)]		62.5～73.6 (85～100)				62.5～77.2 (85～105)			
装着方法の種類		日農エオートヒッチ (catⅡ)							
ジョイント型式		CRCV-Z	CRCV	CR	—	CRCV-Z	CRCV	CR	—
標準耕幅 (cm)		240				260			
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16							
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整							
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5							
入力軸回転数 (rpm)		1000							
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準		241.3 (32:21) 202.9 (29:16)					
		オプション		183.8 (30:15) 281.9 (30:23) 328.3 (28:25)					
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)							
標準爪の種類と 本数		BM6G L33 本				BM6G L36 本			
		BM6G R33 本				BM6G R36 本			
標準爪の外径 (cm)		54							
作業能率 (分/10a)		13.3～22.2				12.3～20.5			

型式・区分		DXR2810VM			
		-4L	-3L	-2L	-0L
駆動方式		サイドドライブ			
機体寸法	全 長 (mm)	1250			
	全 幅 (mm)	3010			
	全 高 (mm)	1155			
機体質量 (kg)		860		850	825
適応トラクタ [kW (ps)]		62.5～77.2 (85～105)			
装着方法の種類		日農エオートヒッチ (catⅡ)			
ジョイント型式		CRCV-Z	CRCV	CR	—
標準耕幅 (cm)		280			
標準耕深 (cm)		12 (最大) 16			
耕深調節方法		ゲージ輪・トップリンク調整			
標準作業速度 (km/h)		1.5～2.5			
入力軸回転数 (rpm)		1000			
耕うん軸回転数 (rpm) (変速軸・入力軸)		標準	241.3 (32:21)	202.9 (29:16)	
		オプション	183.8 (30:15)	281.9 (30:23)	328.3 (28:25)
変速の有無と変速方法		有 (平歯車の交換)			
標準爪の種類と 本数		BM6G L39 本			
		BM6G R39 本			
標準爪の外径 (cm)		54			
作業能率 (分/10a)		11.4～19.1			

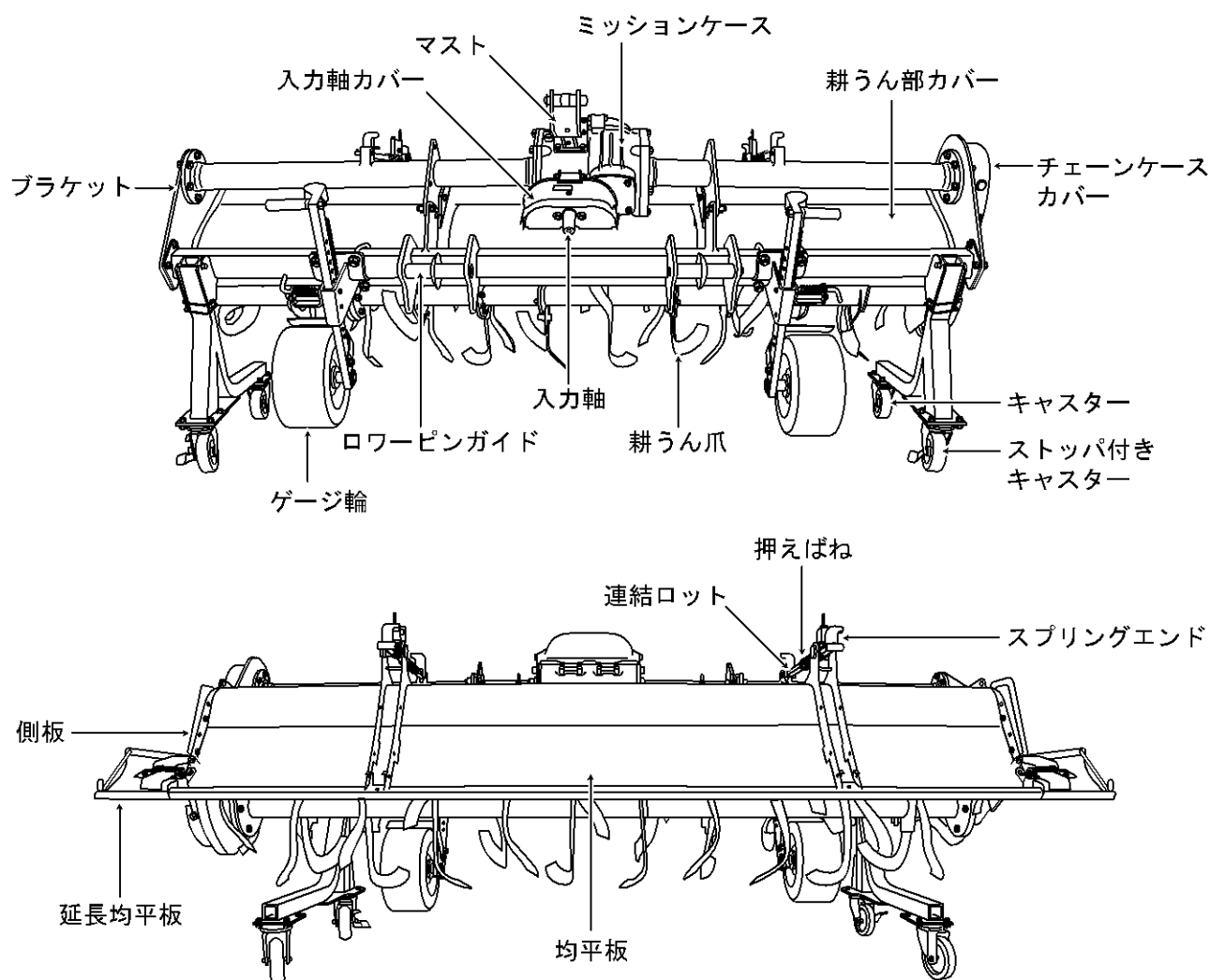
※ 本主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

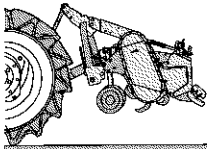


2.4 各部の名称

注 記

- ・ イラストはMXR です。LXR/DXR にはスタンドが付いていません。





3 解梱と組立て

3.1 梱包品の確認

1 組ごとに厳重な検査をしたうえで出荷していますが、輸送中の損傷、物品の欠品、およびその他の異常の可能性も皆無ではありません。下表の事項も含めて確認してください。

もし、問題があった場合は、お買い上げの購入先へ連絡してください。

確認箇所	確認方法
ご注文の品物かどうか	ネームプレートで確認
ネームプレート、警告ラベルが剥がれていないか	目視によるチェック
損傷はないか	目視による外観チェック
取扱説明書、保証書、ダンボール箱	目視によるチェック

3.2 解梱、組立て

⚠ 警告

- 梱包用スタンドの取外しや番線を切断するときには、十分注意してください。

【守らないと】フレームの重みで作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故、作業機の損傷につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 梱包を解体するときは、厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
- パイプのフック、鉄棒の突起部などには十分注意してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

1

梱包用ビニールをはがし、番線などを取外します。

2

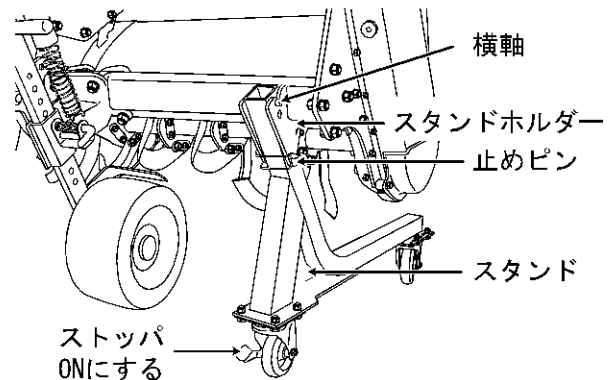
スタンドを梱包より取外します。

3

MXR は、スタンドの横軸をスタンドホルダーに掛け、止めピンを差して固定します。

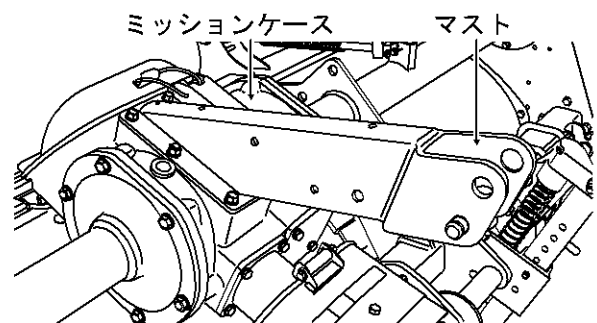
注 記

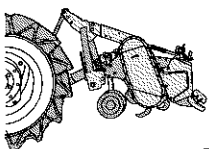
- ・ LXR/DXR にはスタンドが付いていません。



4

マストをミッションケースに取付けます。

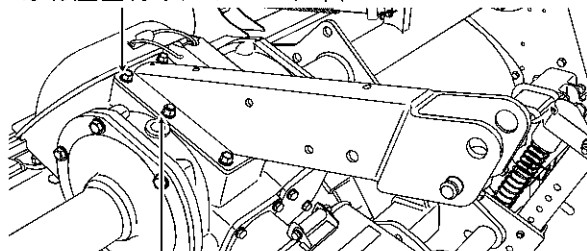




5

マストをばね座金付ボルト M10 (4 本) とナット (2 個)、ばね座金 (2 個) で固定します。

ばね座金付ボルト M10 (4 本)

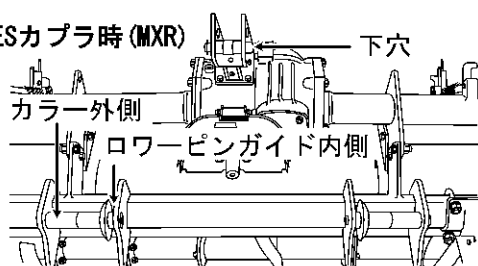


ナット (2 個)、ばね座金 (2 個)

6

ローピンガイド、トップピンの組替え (MXR)

ESカプラ時 (MXR)

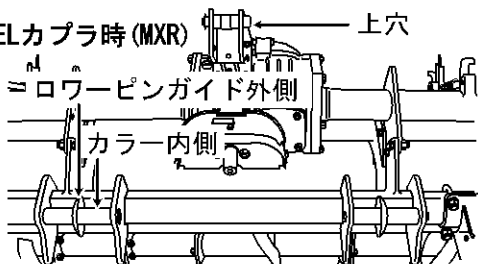


カラー外側

ローピンガイド内側

下穴

ELカプラ時 (MXR)

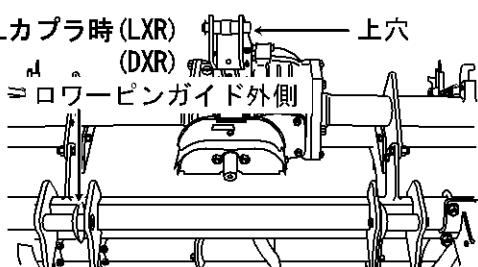


ローピンガイド外側

カラー内側

上穴

ELカプラ時 (LXR)



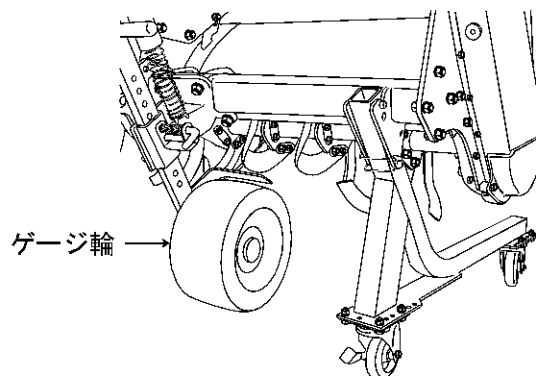
(DXR)

ローピンガイド外側

上穴

◆ゲージ輪の組立

ゲージ輪はトラクタの車輪の後ろになるように、外向きに組付けるのが標準です。スクレッパーは後側になるように組付けてください。(ゲージ輪は内向き・外向きどちらにも組付けができます。)



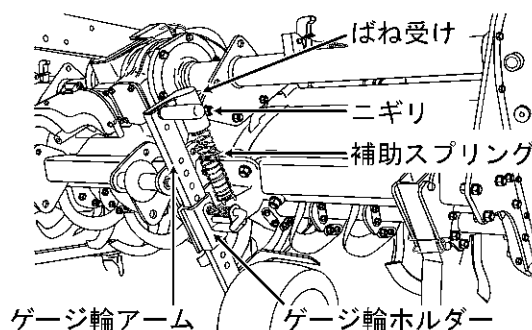
ゲージ輪

注 記

- イラストは MXR です。LXR/DXR にはスタンドが付いていません。

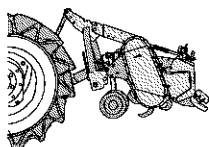
◆補助スプリングとばねの組立

ゲージ輪アームの後方にばね受けとニギリを共締めしてゲージ輪ホルダーの支えパイプの間に補助スプリングを入れて組付けてください。



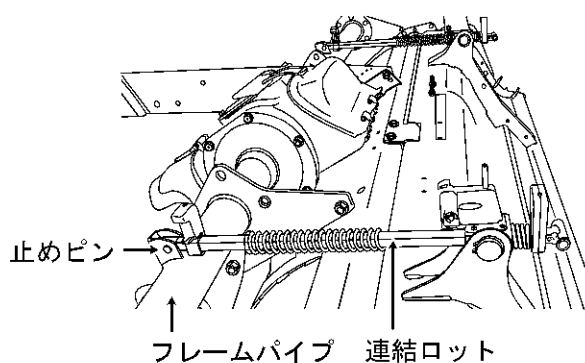
ゲージ輪アーム

ゲージ輪ホルダー



◆連結ロットの組立

連結ロットの上部をフレームパイプに止めピンで止め、ローターピンで抜け止めをしてください。

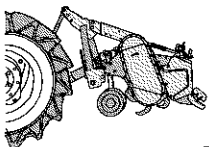


4 取付ける前に

4.1 トラクタの規格

- (a) 作業機の3点リンク規格は、「標準3点リンク規格」を採用しています。
- (b) 「日農工標準オートヒッチ」は、さらに4セット、3セット、0セットの3種類に分かれます。
 - 「4セット」 3点リンクとジョイントが同時に自動で取付けできます。
 - 「3セット」 3点リンクのみ自動で、ジョイントは手で取付けます。
 - 「0セット」 お手持ちの4セットシリーズ作業機と共用するため、カプラおよびジョイントは標準装備していません。
- (c) 3LB仕様は、ELカプラを使い、左右のローワーリンク、トップリンクの3箇所が自動装着です。ジョイントは手で取付けます。
- (d) 2L(2点クイックヒッチ)仕様は、ローワーピンフレームを使いローワーリンクのみ自動装着です。トラクタのトップリンクおよびジョイントは手で取付けます。
- (e) 1Lは、トラクタの左右のローワーリンク、トップリンクおよびジョイントを手で取付けます。
- (f) 3点リンク規格の判別は、型式の末尾で行ってください。

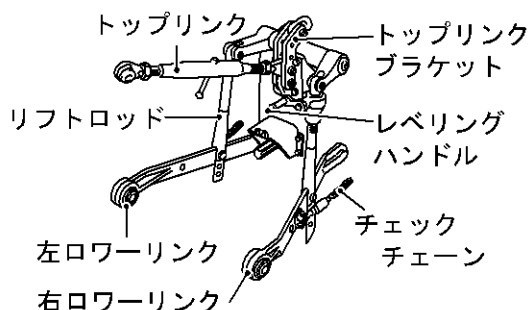
形式末尾	3点リンク規格	呼称
-4S	日農工標準オートヒッチ	4セット
-3S	JIS 0.1 兼用	3セット
-0S	ES カプラ	0セット
-4L	日農工標準オートヒッチ	4セット
-3L	JIS 1.2 兼用	3セット
-0L	EL カプラ	0セット
-3LB		3セット
-2L	2点クイックヒッチ	2セット
-1L	標準3点リンク直装 (cat II)	1セット



4.2 トラクタの準備

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。



4.2.1 4S/3S/OS シリーズ 4L/3L/3LB/OL シリーズ

- カブラは「標準 3 点リンク規格」です。トラクタの 3 点リンクも標準 3 点リンクでないと装着できません。
- トラクタが特殊 3 点リンク規格の場合は、特殊 3 点リンク用 トップリンク ブラケットを外し、トップリンクを標準 3 点リンク用の物に交換してください。両側にねじの付いた物で、長短の調整のできる物を使用してください。リフトロッドの位置は、ロワーリンクの前穴に取付けます。
- 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して、調整してください。
 - ・ 上の穴は上がり量が増えます。
 - ・ 下の穴は下がり量が増えます。

4.3 装着姿勢

カブラで装着できるように、作業機の姿勢を調節します。

⚠ 警告

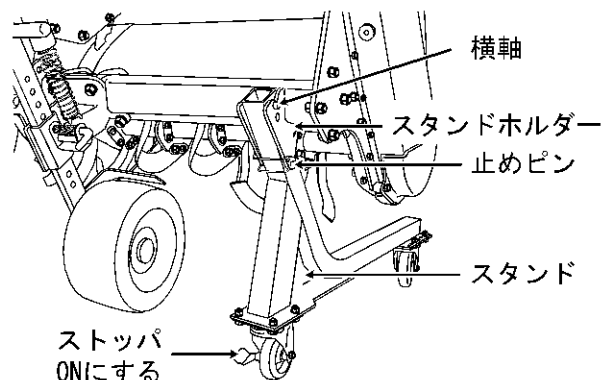
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

◆ スタンド使用時 (MXR のみ)

⚠ 注意

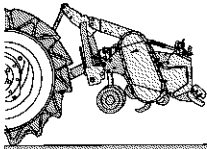
- スタンドを取付けた状態では、作業機をトラックなどに積んでの移動は行わないでください。
【守らないと】振動などにより、スタンドを損傷し、事故につながるおそれがあります。

- 1 スタンドの横軸をスタンドホルダーに掛け、止めピンを差して固定します。



注 記

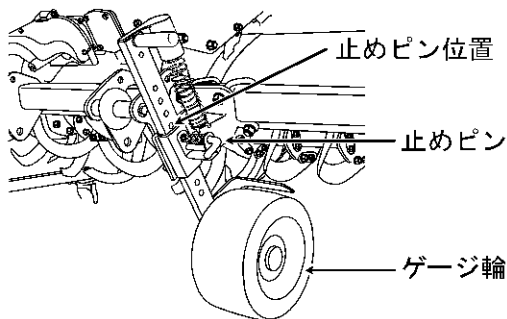
- ・ ストップ付キャスターが入力軸側になるように組付けてください。



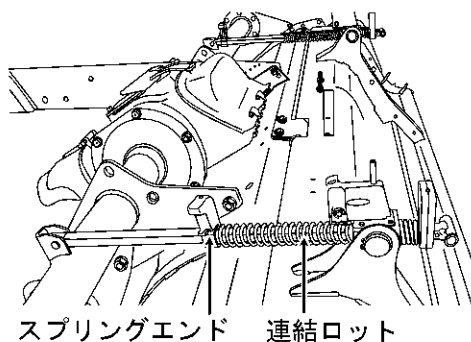
◆スタンド未使用時 (MXR/LXR/DXR)

- 1** ゲージ輪の止めピン位置でロータリーの姿勢を調整します。

ロータリー型式	カブラ	止めピン位置
MXR	4S、4L、3S、3L	ニギリの下に、穴が 5 個半見える位置 (ゲージ輪ホルダー 上穴)
LXR DXR	4L、3L	



- 2** 後方への転倒を防止するため、連結ロットをスプリングエンドで固定し、均平板が動かないようにします。



- 3** トラクタへの取付け(取外し)完了後、スプリングエンドを上げて、均平板が動くようにします。

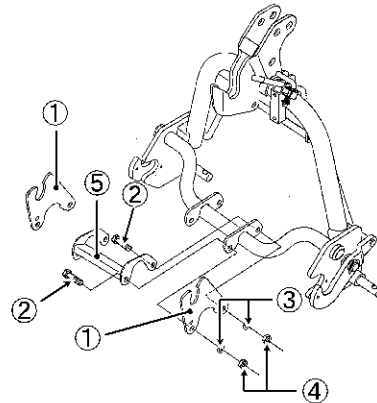
4.4 カブラの準備

◆ES カブラ

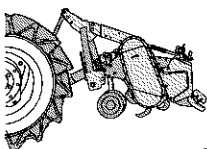
4セットの場合はジョイントのダンボール箱に入っているサポートプレートと連結棒を、次イラストのように取付けます。

注 記

- ・ 3セットの場合、サポートプレートは付いていません。
- ・ 1セットの場合、カブラはありません。



番号	部品名	数量
①	サポートプレート	2
②	ボルト M12×30 7T	4
③	ばね座金 M12	4
④	ナット M12	4
⑤	連結棒	1
サポートプレート ASSY		部品番号 5447 933000

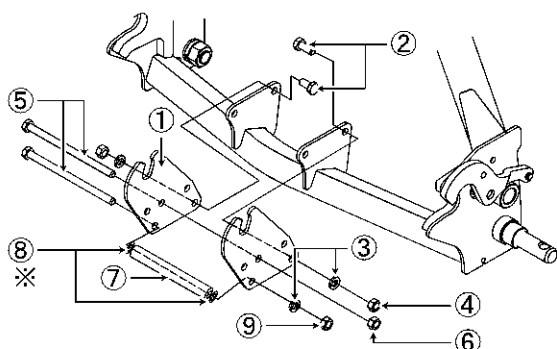


◆EL カプラ

4 セットの場合はジョイントのダンボール箱に入っている、サポートプレートとボルト (M12×200 7T) を次イラストのように取付けます。

注 記

- ・ 3 セットの場合、サポートプレートは付いていません。



※EL51/EL52/EL53カプラに装着する場合、
⑧平座金 M12を入れます。

番号	部品名	数量
①	サポートプレート	2
②	ボルト M12×30 7T	2
③	ばね座金 M12	3
④	ナット M12	2
⑤	ボルト M12×200 7T	2
⑥	センターロックナット M12	1
⑦	カラー156	1
⑧	平座金 M12	2
⑨	ナット M12 3 シュ	1

EL60 サポートプレート ASSY | 部品番号 R726 901000

5 取付けについて

5.1 取付けに関する注意

⚠ 危険

- 取外したトラクタの PTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。
【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

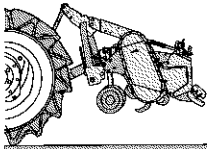
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を取付けるときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の 25% 以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながったりするおそれがあります。



5.2 カブラの取付け

5.2.1 4S/3S/OS シリーズ 4L/3L/3LB/OL シリーズ

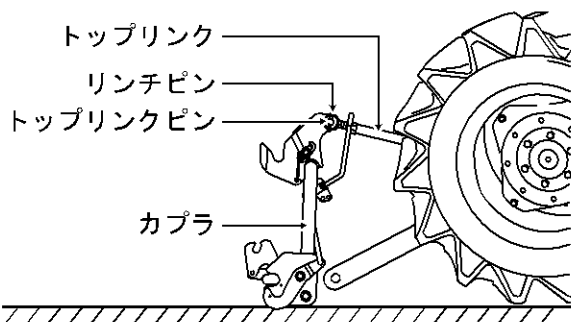
- 1** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ローリンクを最下げにします。



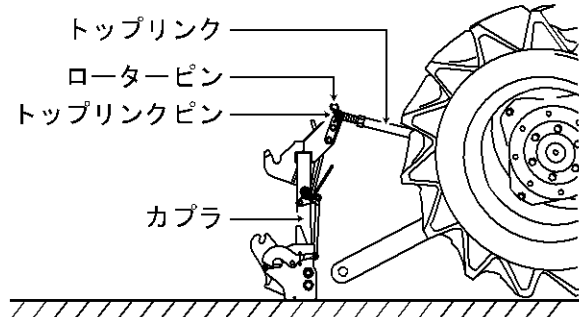
- 2** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 3** トップリンクピン（トラクタ付属）で、カブラをトラクタのトップリンクに取付けます。

■ ES カブラ



■ EL カブラ



⚠ 注意

- 必ずリンチピン（ローターピン）で抜け止めをしてください。

【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 4** 左右のローリンクをカブラのローターピンに取付けます。

⚠ 注意

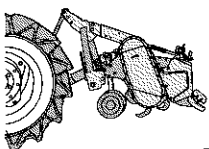
- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。

【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

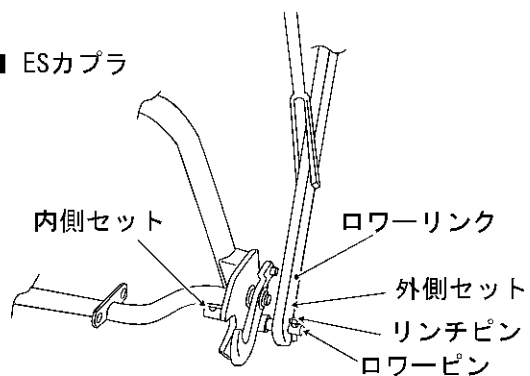
注 記

- ・ 内側セットと外側セットができます。トラクタの3点リンク規格に合わせてください。

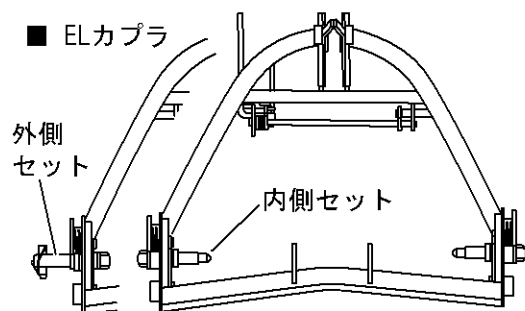
	内側セット	外側セット
ES カブラ	JIS 0 大	JIS 1
EL カブラ	JIS 1	JIS 2



■ ESカプラ



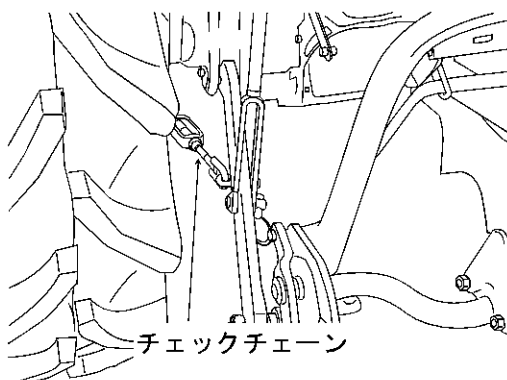
■ ELカプラ



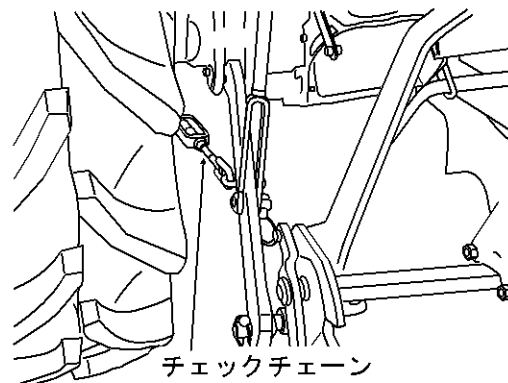
5

トラクタの中心に合わせ、左右均等に10～20mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。

■ ES カプラ



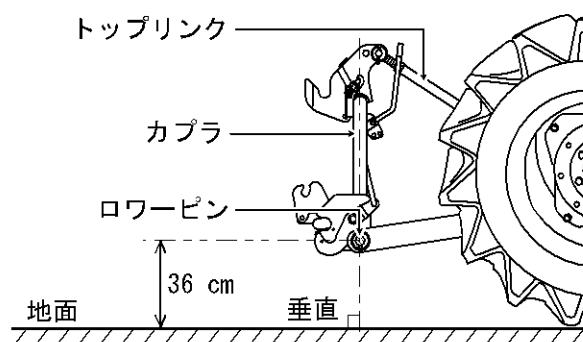
■ EL カプラ



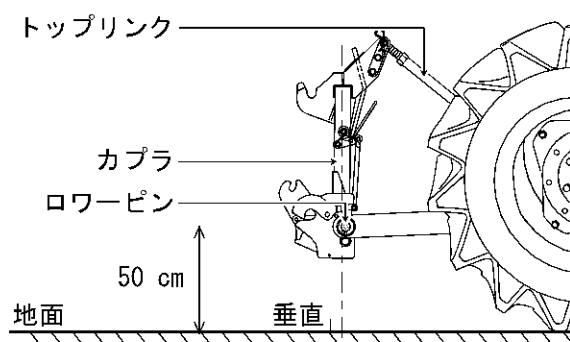
6

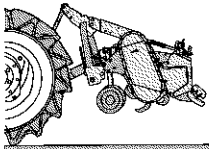
ローピンの地上高が下イラストのとき、カプラが垂直になるようにトップリンクの長さを調整します。

■ ES カプラ



■ EL カプラ





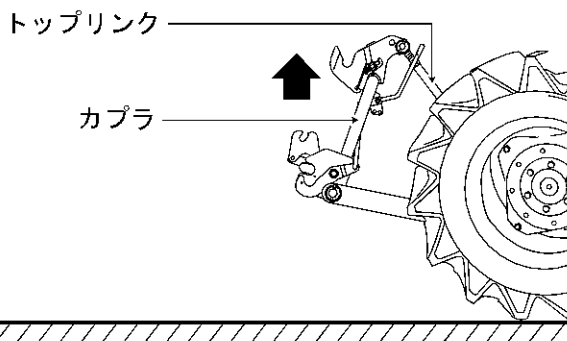
7

取付け終了後、カブラを手で持ち上げてトップリンクなどが干渉しないことを確認します。

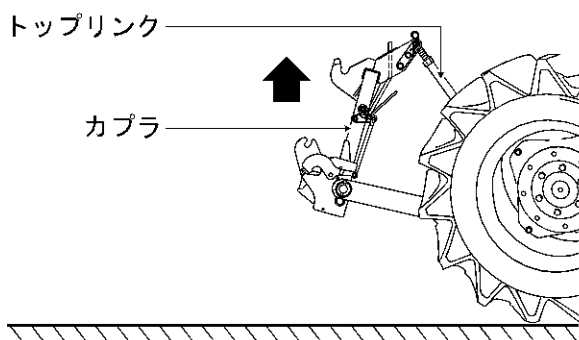
注 記

- ・ 干渉する場合は、トップリンクをトラクタ側は1個ずつ上に、また、作業機側は1個ずつ下に取付けると、少しずつ上がり量が少なくなります。

■ ES カブラ



■ EL カブラ



5.2.2 2L シリーズ

1

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作し、ロワーリンクを最下げにします。



2

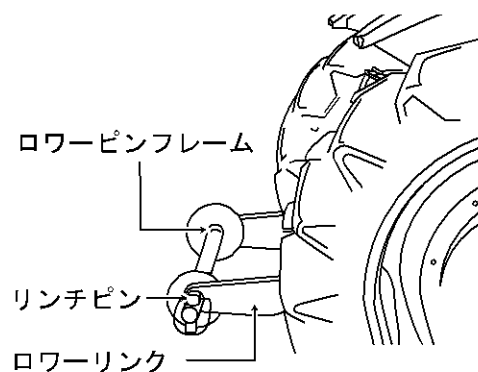
トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

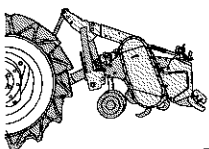
3

左右のロワーリンクにロワーピンフレームを取付けます。

⚠ 注意

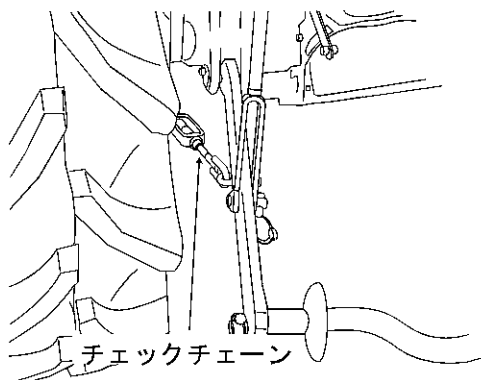
- 必ずリンチピンで抜け止めをしてください。
【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。





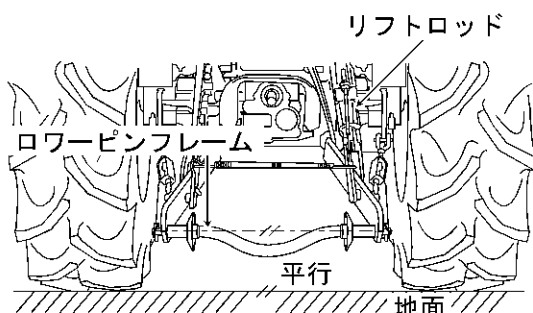
4

トラクタの中心に合わせ、左右均等に10～20mm 振れるように、チェックチェーンで振れ止めをします。



5

ローピンフレームがトラクタと平行になるようにリフトロッドで調整します。



5.3 ジョイントの取付け

⚠ 警告

- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

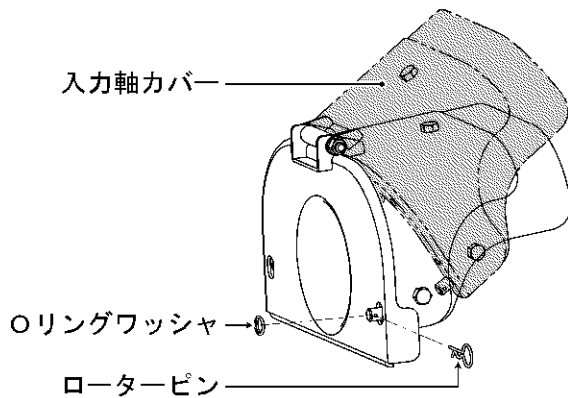
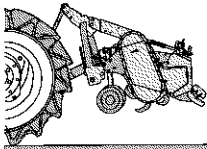
重要

- ・ トラクタの型式に適応した長さのジョイントを使用してください。
長すぎるとトラクタのPTO 軸が作業機の入力軸を突きます。短いと、ジョイントのかみ合いが少なくなり損傷する原因になります。
- ・ 必ず広角側（インナー側）をトラクタ側（PTO 軸）にセットしてください。
反対に装着するとトラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。
もし損傷しても保証の対象にはなりません。
- ・ 出荷時、入力軸には入力軸キャップが取付けてあります。ジョイントを取付ける前に、必ず取外してください。
作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

ジョイントの長さは、装着するトラクタの型式により異なります。ご注文時にトラクタの型式をお知らせいただければ、その型式に適応した長さのジョイントが付属されます。型式が不明な場合は、標準の長さのジョイントが付属されます。

注 記

- ・ ジョイントは、入力軸カバーを外さなくても取付け・取外しができます。
右側1箇所のローターピンを抜き、入力軸カバーを上向きにしてください。
- ・ ジョイントを取付けた後は、入力軸カバーを元に戻してください。



5.3.1 4S シリーズ 4L シリーズ

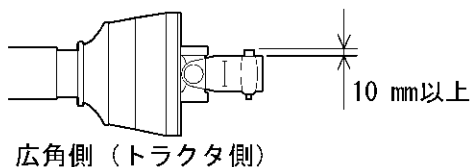
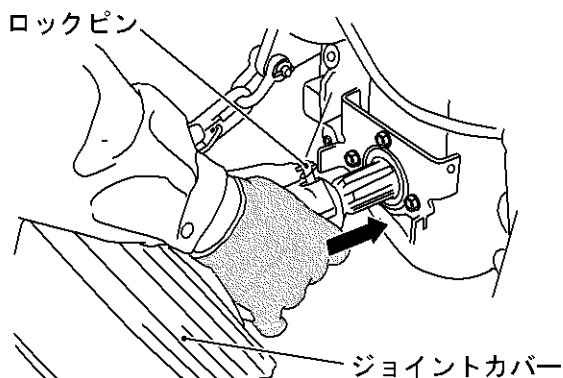
1 ジョイントの4セット側をサポートプレートの上にのせ、反対側のロックピンを押しながら、トラクタ側（PTO 軸）に取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

重要

- ・ ハンマーなどでジョイントをたたき、強引に入れないでください。

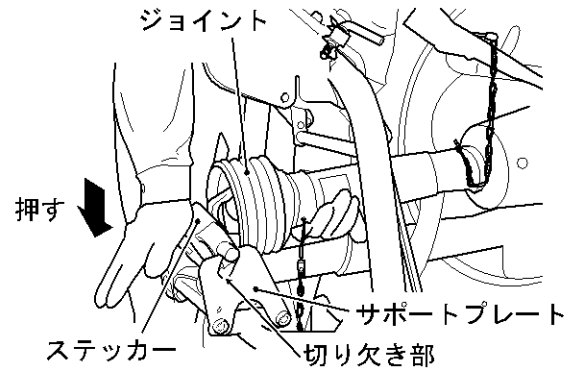
ジョイントを損傷する原因になります。



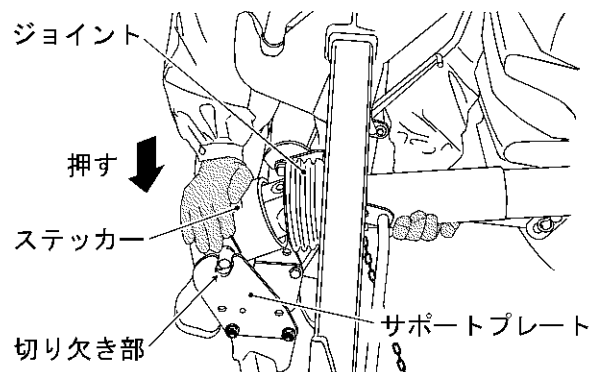
2

ステッカー面を上にして、ジョイントを折りながらサポートプレートの切り欠き部に押し込みます。

■ 4S シリーズ



■ 4L シリーズ



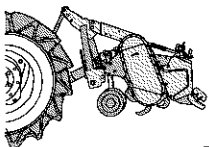
⚠ 注意

- 手は図の位置とし、はさまないように注意してください。

【守らないと】ケガをするおそれがあります。

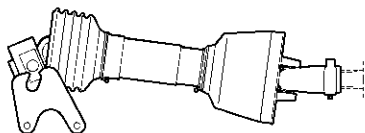
重要

- ・ ジョイントが長くてサポートプレートに取付けできないときは、無理に取付けしないでください。トラクタや作業機を損傷する原因になります。

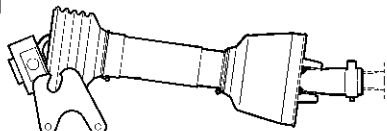


■ 4S シリーズ

■ 良い例

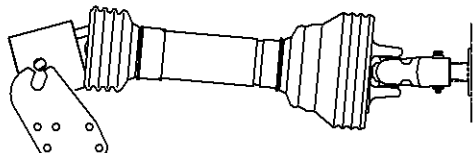


■ 悪い例

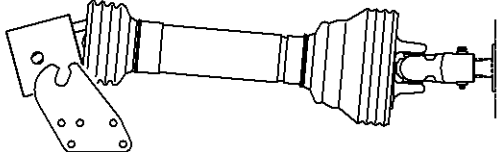


■ 4L シリーズ

■ 良い例



■ 悪い例



ジョイントが長くてサポートプレートに取付けできないときは、長い分を切断します。
「5.3.6 切断方法」(40～41 ページ)を参照してください。

注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ（インナー、アウターの重なり）は CLCV-Z で 80 mm、CRCV-Z で 88 mm 確保しています。
- ・ ジョイントが短い場合は、交換してください。

型式	種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
MXR	4 S	CLCV-Z655	647	647～729
		Z705	697	697～829
		Z755	747	747～929
		Z805	797	797～1029
		Z855	847	847～1129

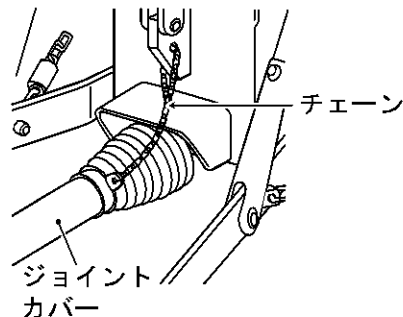
型式	種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
MXR LXR DXR	4 L	CRCV-Z752	750	750～836
		Z802	800	800～936
		Z852	850	850～1036
		Z902	900	900～1136
		Z952	950	950～1236

3

ジョイントカバーのチェーンを、トラクタの3点リンクが上下しても動かない場所になぎます。

注 記

- ・ 3点リンクを上下しても引っ張られないようにたるみを持たせてください。



5.3.2 3S シリーズ 3L シリーズ

1

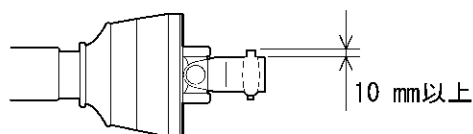
作業機をトラクタに取付けます。

「5.4 トラクタへの取付け」(41～49 ページ)を参照してください。

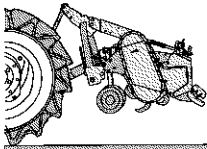
2

ジョイントの広角側（インナー側）を、ロックピンを押しながらトラクタ側（PTO 軸）にはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



広角側（トラクタ側）



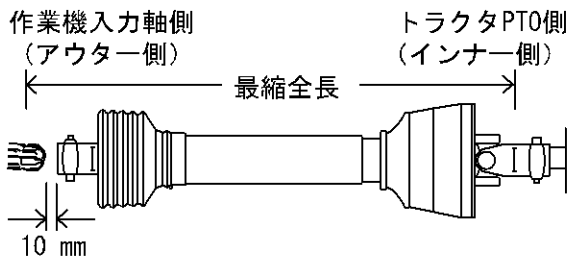
3

ジョイントをいっぱいに縮め、ジョイントの先端と作業機の入力軸との間に 10 mm 以上の隙間があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

ジョイントの先端と入力軸との間に隙間がない場合は、長い分を切断します。

「5.3.6 切断方法」(40～41 ページ)を参照してください。



注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ (インナー、アウターの重なり) は CLCV で 80 mm、BDCV で 98 mm、CRCV で 88 mm 確保しています。

型式	種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
MXR	3 S	CLCV-660	660	660～782
		2	710	710～882
		760	760	760～982
		3	810	810～1082
		4	910	910～1282
MXR	3 L	BDCV-2	706	706～826
		760	756	756～926
		3	806	806～1026
		4	906	906～1226
LXR DXR	3 L	CRCV-2	704	704～826
		760	759	759～926
		3	809	809～1026
		4	909	909～1226

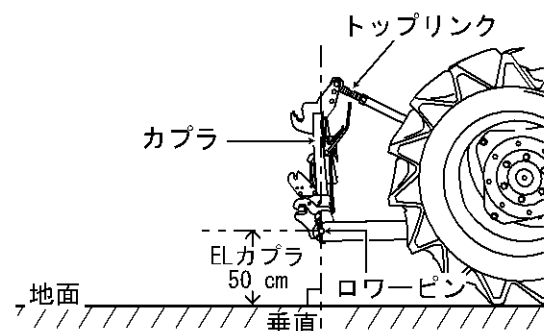
5.3.3 3LB シリーズ

1

3 点リンクにカプラを取付け、装着の姿勢にトップリnkの長さを合わせます。
カプラの取付け方法は、「5.2 カプラの取付け」(32～35 ページ)を参照してください。

2

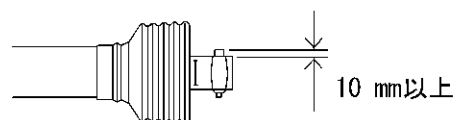
トップリnkの長さは、ローワーピンの地上高が下イラストのとき、カプラが垂直になるように調節します。



3

トラクタ側 (PTO 軸) に、ロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



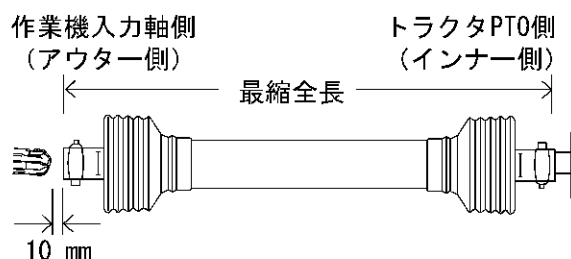
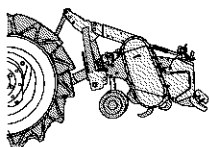
4

ジョイントをいっぱいに縮め、ジョイントの先端と作業機の入力軸との間に 10 mm ほど隙間があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

ジョイントの先端と入力軸との間に隙間がない場合は、長い分を切断します。

「5.3.6 切断方法」(40～41 ページ)を参照してください。



注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ（インナー、アウターの重なり）は 88 mm 確保しています。

型式	種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
MXR	3LB	BDCV-2	706	706~826
		760	756	756~926
		3	806	806~1026
		4	906	906~1226
LXR	3LB	CRCV-2	704	704~826
		760	759	759~926
		3	809	809~1026
		4	909	909~1226

5.3.4 2L シリーズ

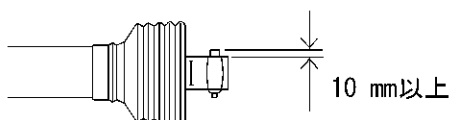
1

ローリンクにローピンフレームを取付けます。
ローピンフレームの取付け方法は、「5.2 カプラの取付け」（32~35 ページ）を参照してください。

2

トラクタ側（PTO 軸）に、ロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



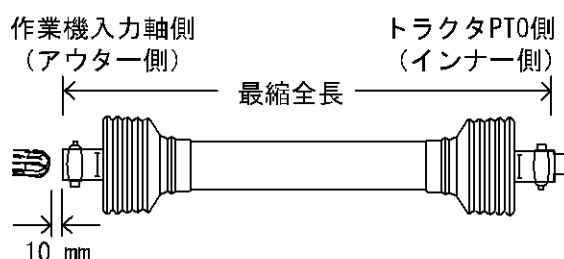
3

ジョイントをいっばいに縮め、ジョイントの先端と作業機の入力軸との間に 10 mm 以上の隙間があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

ジョイントの先端と入力軸との間に隙間がない場合は、長い分を切断します。

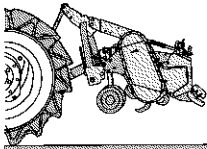
「5.3.6 切断方法」（40~41 ページ）を参照してください。



注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ（インナー、アウターの重なり）は 86 mm 確保しています。

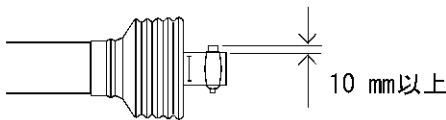
型式	種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
MXR	2L	BD-3	806	806~1106
		4	906	906~1306
LXR DXR	2L	CR-2	714	714~904
		3	814	814~1104
		4	914	914~1304
		5	1014	1014~1504



5.3.5 1L シリーズ

1 トラクタ側（PTO 軸）に、ロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

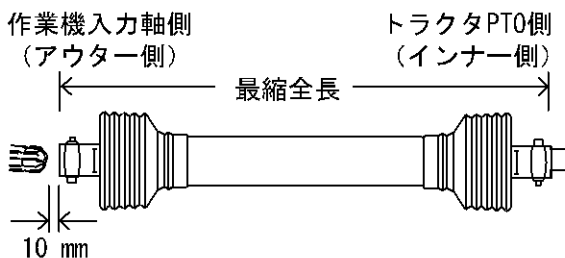


2 ジョイントをいっぱいに縮め、ジョイントの先端と作業機の入力軸との間に 10 mm ほど隙間があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

ジョイントの先端と入力軸との間に隙間がない場合は、長い分を切断します。

「5.3.6 切断方法」（40～41 ページ）を参照してください。



注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ（インナー、アウターの重なり）は 86 mm 確保しています。

型式	種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
MXR	1L	BD-3	806	806～1106
		4	906	906～1306
LXR	1L	CR-2	714	714～904
		3	814	814～1104
		4	914	914～1304
		5	1014	1014～1504

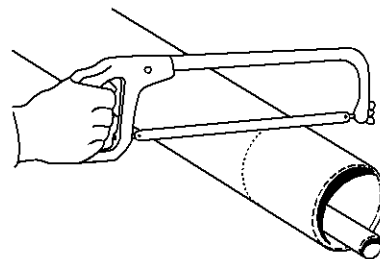
5.3.6 切断方法

⚠ 注意

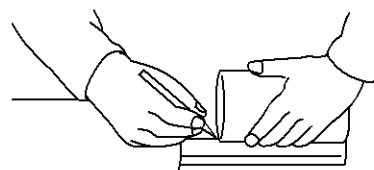
- 高速カッタを使用するときは、十分注意して作業を行ってください。

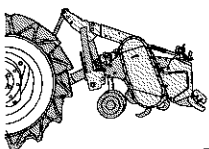
【守らないと】高速カッタは回転が速く、ケガをするおそれがあります。

1 ジョイントカバーを、長い分だけ切り取ります。（インナー側・アウター側両方を切り取ります。）

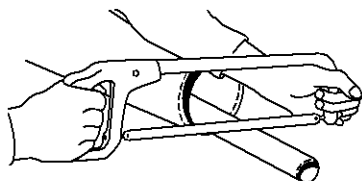


2 切り取ったジョイントカバーと同じ長さを、シャフトの先端から測ります。（インナー側・アウター側両方を、それぞれ切り取った長さで測ります。）





- 3** シャフトを高速カッターや金ノコで切断します。(インナー側・アウター側両方を、それぞれ測った長さで切断します。)



- 4** 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、グリースを塗り、インナー側・アウター側を組み合わせます。

5.4 トラクタへの取付け

重要

- 作業機を装着姿勢にしてください。(「4.3 装着姿勢」(29～30 ページ) を参照してください。)

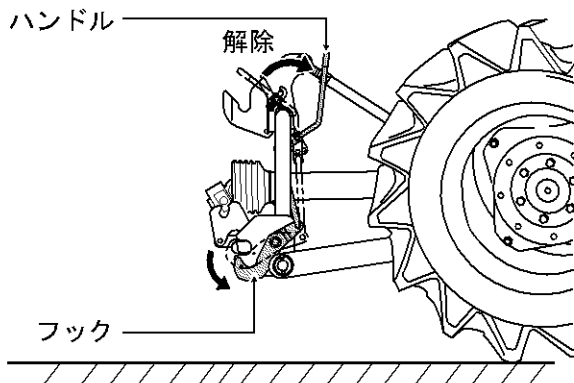
トラクタへの取付けができません。

5.4.1 4S/3S シリーズ

ここでは、4 セットを中心に説明します。

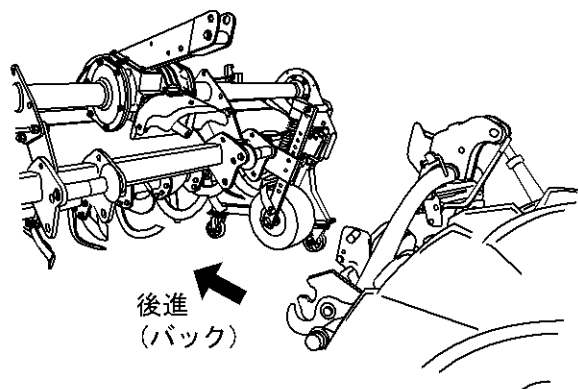
4 セットと 3 セットの違いは、ジョイントの取付けが自動か、手で取付けるかです。

- 1** カプラのハンドルを引き、フックを解除します。



- 2** トラクタのエンジンをかけます。

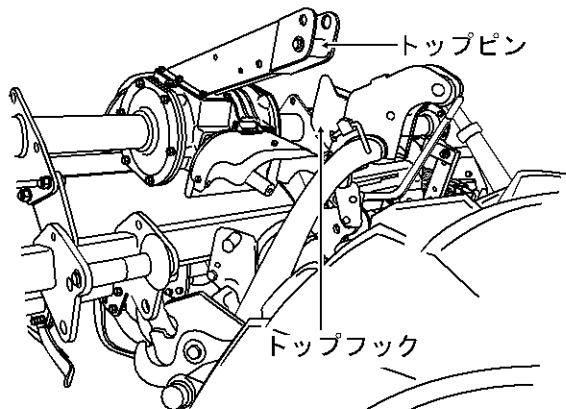
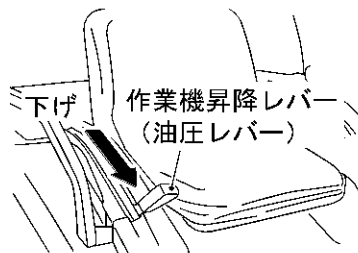
- 3** トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐバックさせます。

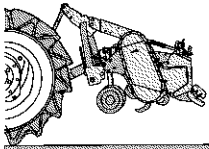


- 4** トラクタの作業機昇降レバー (油圧レバー) を下げて、カプラのトップフックを作業機のトップピンの下へくぐらせます。

注 記

- トラクタと作業機の中心が合うまで繰り返してください。
- 合わせづらいときは、作業機を動かして合わせるのも 1 つの方法です。





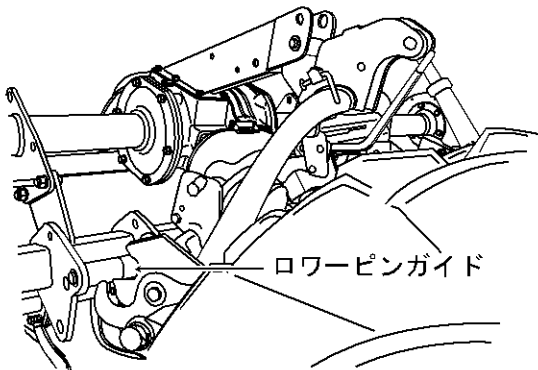
5

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、トップフックでトップピンをすくい上げます。



作業機のローワーピンガイドがカブラに入ります。

- a) 4 セットは同時にジョイントが自動装着されます。
- b) 3 セットは手でジョイントを取付けます。



注 記

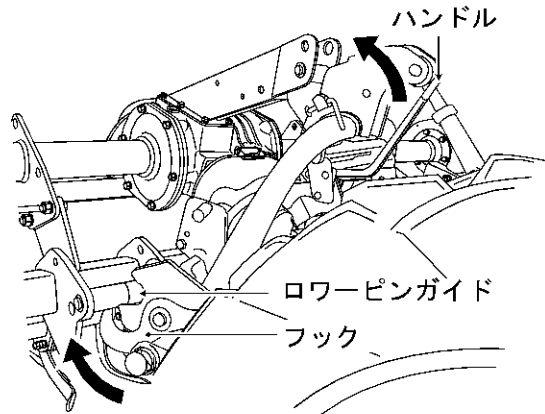
- ・ フックが当たったり、ジョイントが入らない場合は、トラクタの油圧を下げ、作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから取付けを行ってください。

6

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

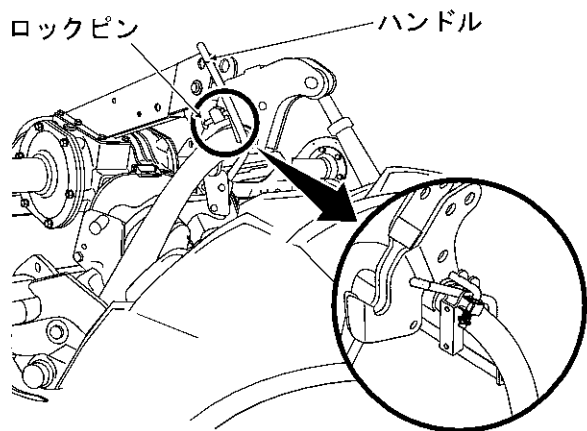
7

カブラのハンドルを押し、ローワーピンガイドをフックで固定します。



8

ロックピンを回転させて、カブラのハンドルをロックします。



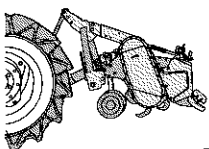
⚠ 注意

- 作業機の実付け・取外し以外は、絶対にカブラのハンドルには手を触れないでください。また、必ずロックピンを掛け、カブラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

9

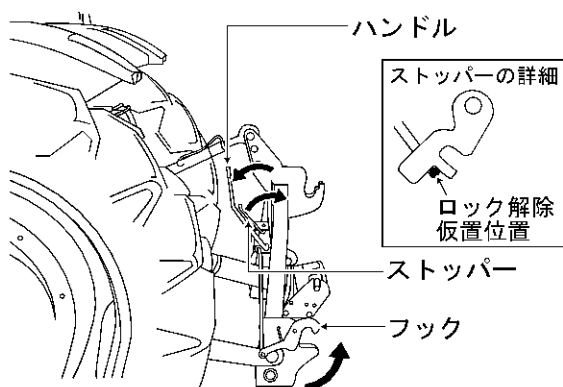
スタンドを取外します。



5.4.2 4L/3L シリーズ

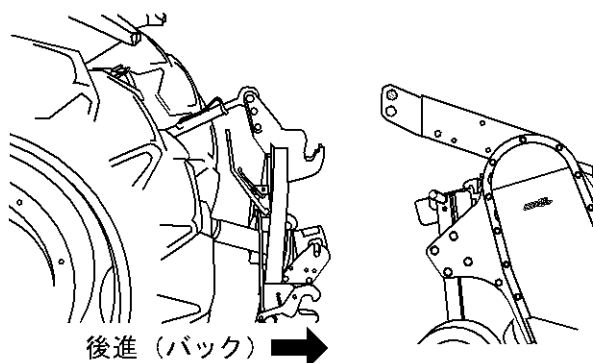
ここでは、4 セットを中心に説明します。
4 セットと 3 セットの違いは、ジョイントの取付けが自動か、手で取付けるかです。

- 1 ストッパーを引き上げてロックを解除し、カプラのハンドルを引いてフックを着脱の状態にします。



- 2 トラクタのエンジンをかけます。

- 3 トラクタを作業機の中心に合わせ、まっすぐバックさせます。

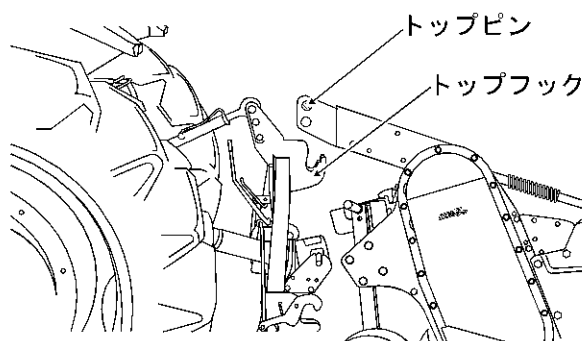
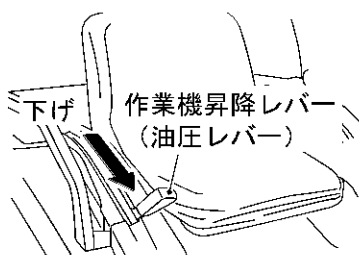


4

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、カプラのトップフックを作業機のトップピンの下へくぐらせます。

注 記

- ・ トラクタと作業機の中心が合うまで繰り返してください。
- ・ 合わせづらいときは、作業機を動かして合わせるのも 1 つの方法です。

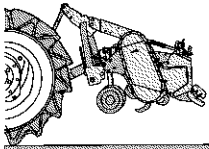


5

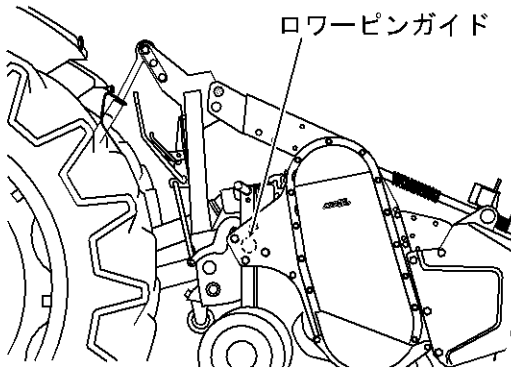
トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、トップフックでトップピンをすくい上げます。



作業機のローワーピンガイドがカプラに入ります。



- a) 4 セットは同時にジョイントが自動装着されます。
- b) 3 セットは手でジョイントを取付けます。



注 記

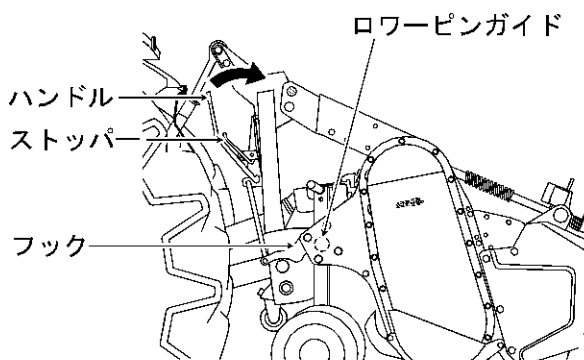
- ・ フックが当たったり、ジョイントが入らない場合は、トラクタの油圧を下げ、作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから取付けを行ってください。

6

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

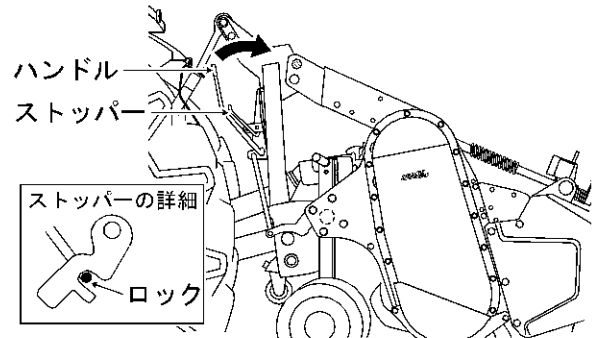
7

ストッパーを引き上げ、カブラのハンドルを押してローワーピンガイドをフックで固定します。



8

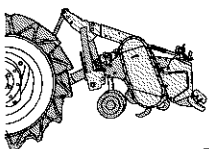
ストッパーでカブラのハンドルをロックします。



⚠ 注意

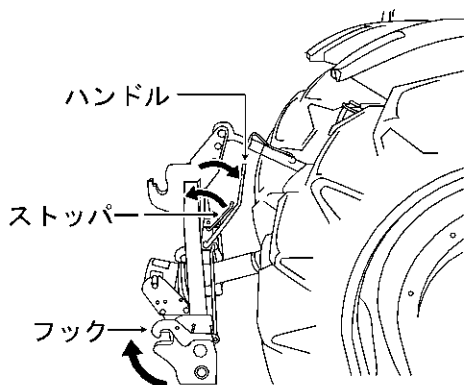
- 作業機を取付け・取外し以外は、絶対にカブラのハンドルには手を触れないでください。また、必ずストッパーをかけ、カブラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。



5.4.3 3LB シリーズ

- 1** ストッパーを引き上げてロックを解除し、カブラのハンドルを引いてフックを着脱の状態にします。

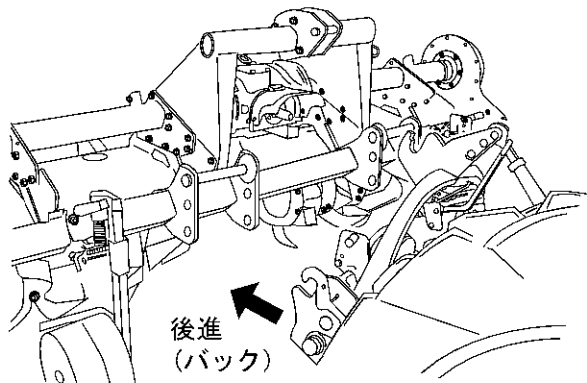


⚠ 注意

- 作業機の取付け・取外し以外は、絶対にカブラのハンドルには手を触れないでください。
【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

- 2** トラクタのエンジンをかけます。

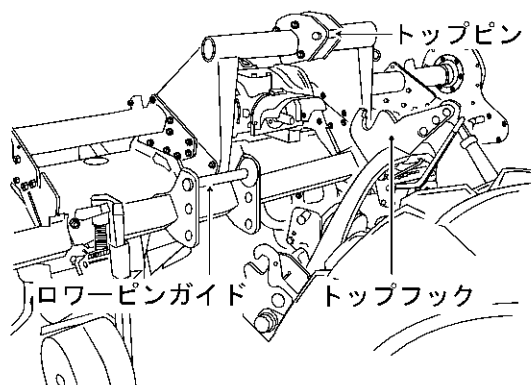
- 3** トラクタを作業機の中心に合わせ、まっすぐバックさせます。



- 4** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、カブラのトップフックを作業機のトップピンの下へくぐらせます。

注 記

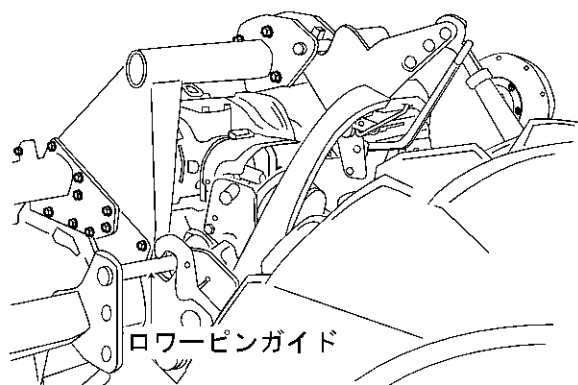
- ・ トラクタと作業機の中心が合うまで繰り返してください。

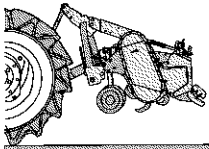


- 5** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、トップフックでトップピンをすくい上げます。



作業機のローワーピンガイドがカブラに入ります。ジョイントは手で装着します。





注 記

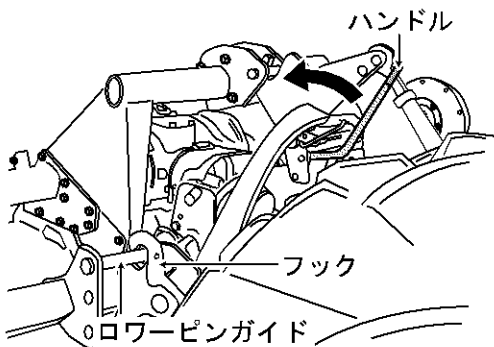
- ・ フックが当たったり、ジョイントが入らない場合は、トラクタの油圧を下げ、作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから装着してください。

6

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業機が持ち上げられます。

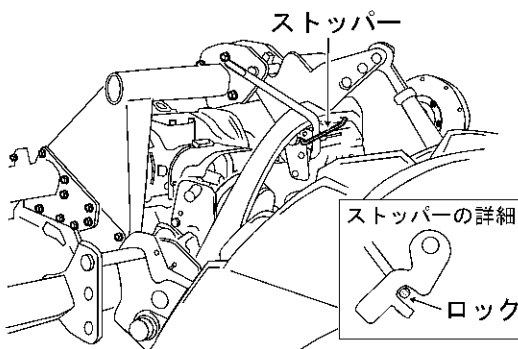
7

ストッパーを引き上げ、カブラのハンドルを押してローピンガイドをフックで固定します。



8

ストッパーでカブラのハンドルをロックします。



⚠ 注意

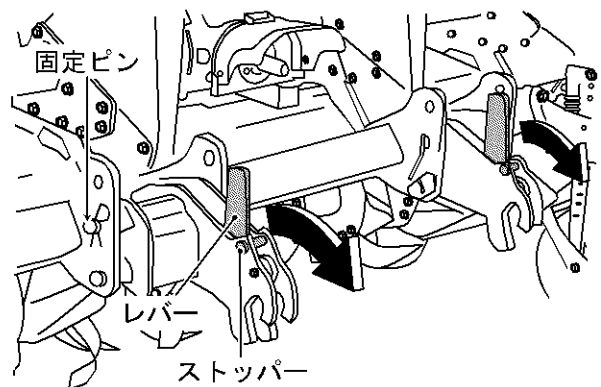
- 作業機を取付け・取外し以外は、必ずストッパーをかけ、カブラのハンドルをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

5.4.4 2L シリーズ

1

ストッパーを取外し、レバーを手前に倒します。固定ピンが下イラストの位置に挿入されているか確認します。



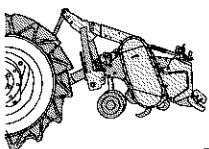
⚠ 注意

- 作業機を取付け・取外し以外は、必ずストッパーをかけ、レバーをロックしてください。

【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

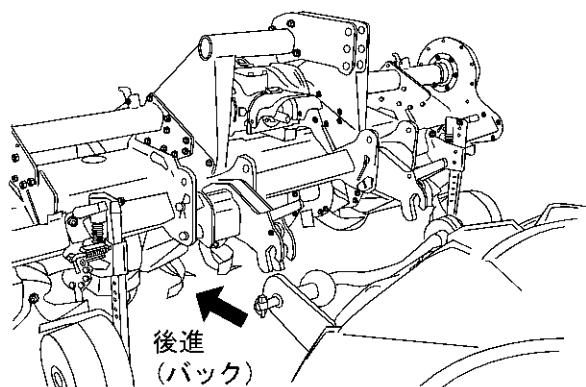
2

トラクタのエンジンをかけます。



3

トラクタを作業機を中心に合わせ、まっすぐバックさせます。

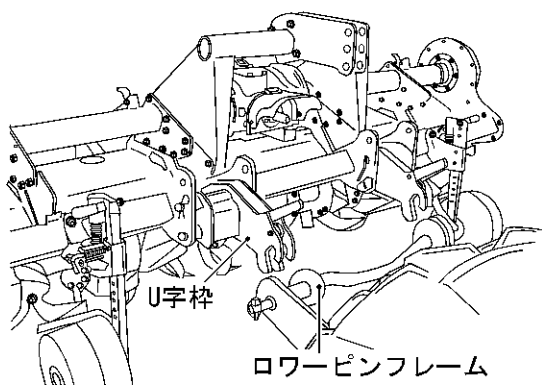


4

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、ローワーピンフレームを左右のU字枠の下へくぐらせます。

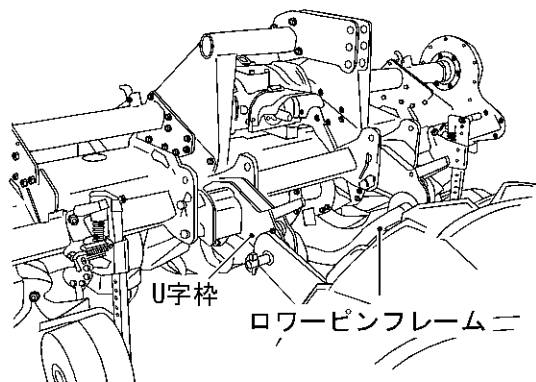
注 記

- ・ トラクタと作業機が合うまで繰り返してください。



5

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）をゆっくり上げて、ローワーピンフレームでU字枠をすくい上げます。



注 記

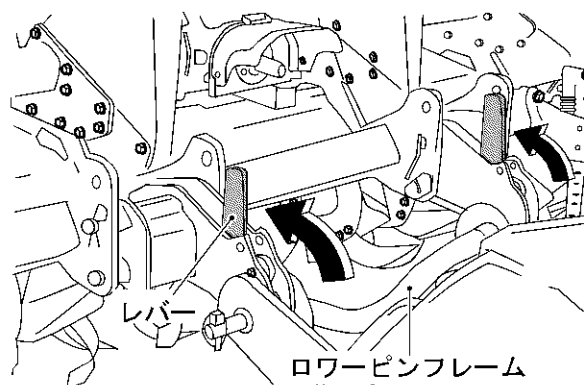
- ・ ゲージ輪が地面より 10~20 mm 浮くようにしてください。
- ・ U字枠が当る場合は、トラクタの油圧を下げて作業機を外し、始めからやり直してください。
- ・ 作業機が左右に傾いているときは、トラクタの右側リフトロッドの長さを調節し、作業機の傾きにカブラの傾きを合わせてから装着してください。

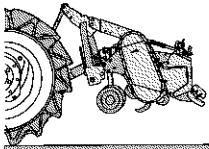
6

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PT0 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

7

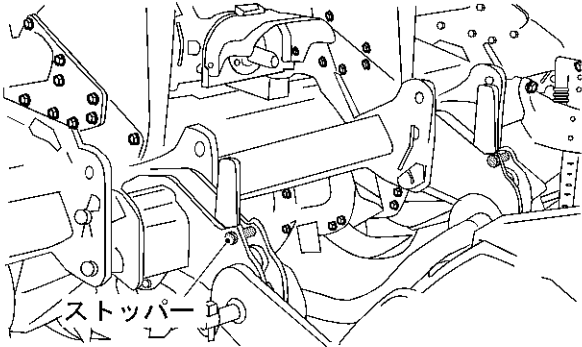
レバーを後方へ倒し、フックでローワーピンフレームを固定します。確実に固定されているか確認します。





8

ストッパーを差し、Rピンで抜け止めをします。
レバーがロックされます。

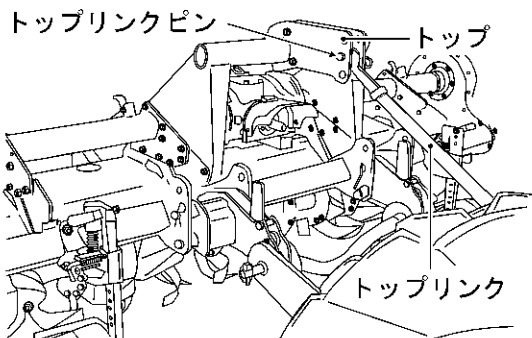


⚠ 注意

- 作業機の取付け・取外し以外は、必ずストッパーをかけ、レバーをロックしてください。
【守らないと】作業機が外れ、傷害事故や作業機の損傷をまねくおそれがあります。

9

トラクタのトップリンクで作業機のトップを連結し、トップリンクピンで固定します。



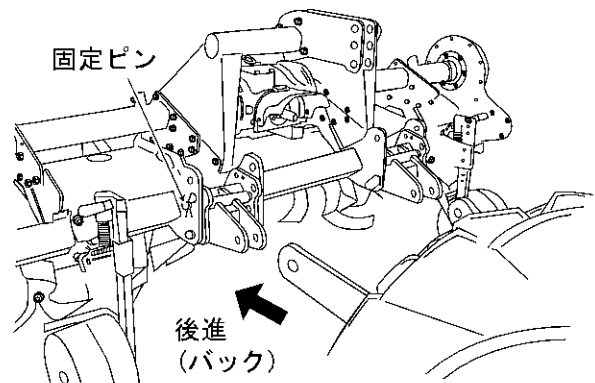
5.4.5 1L シリーズ

1

トラクタのエンジンをかけます。

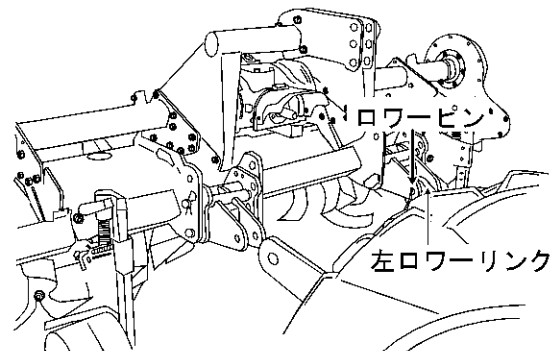
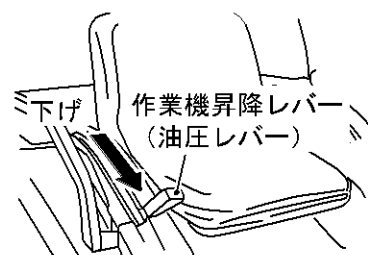
2

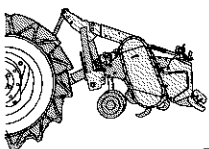
トラクタを作業機の中心に合わせ、まっすぐバックさせます。
固定ピンが下イラストの位置に挿入されているか確認します。



3

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、左ローリンクを作業機の左側のアームにあわせます。

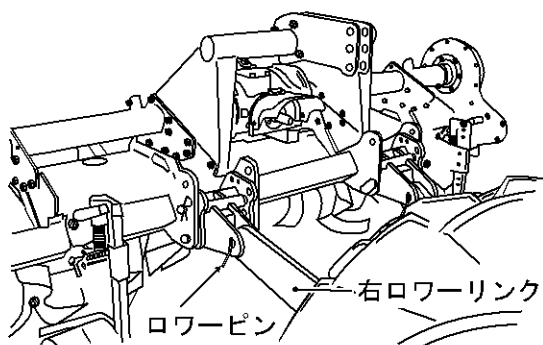




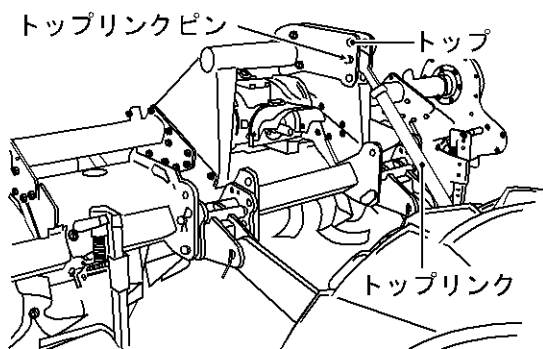
- 4** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 5** 左ローリンクを作業機の左側のアームに、ローピンを差して固定します。

- 6** レベリングハンドルでリフトロッドの長さを調整し、右ローリンクを作業機の右側のアームに、ローピンを差して固定します。



- 7** トラクタのトップリンクで作業機のトップを連結し、トップリンクピンで固定します。



6 調整について

6.1 調整時の注意事項

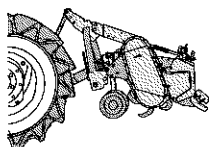
⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 回転部が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。
- 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
- 【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



6.2 水平調整

注 記

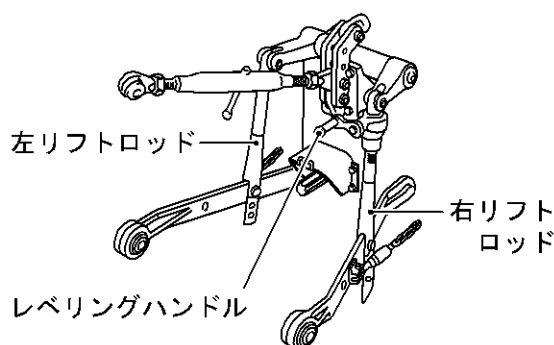
- ・ トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

6.2.1 自動水平装置付トラクタ

作業機の左右がトラクタに対して水平になるように調整します。

6.2.2 自動水平装置のないトラクタ

トラクタのレベリングハンドルを回して、右リフトロッドの長さを調整します。

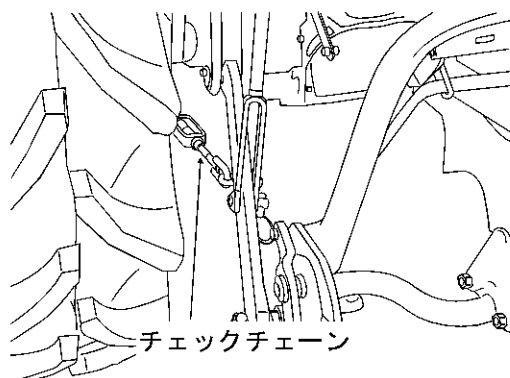


6.3 チェックチェーンの調整

トラクタの中心（PTO 軸）と作業機の中心（入力軸）を一直線に合わせ、左右均等に 10～20 mm 振れるように、チェックチェーンを張ります。

注 記

- ・ 石の多いほ場では、ややゆるく張ってください。



6.4 最上げ位置の調節

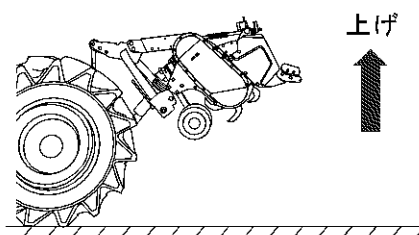
重要

- ・ トラクタによっては、スイッチで最上げまで自動上昇する機種があります。作業機が勢いよく上がるため、トラクタと作業機との間隔を 100 mm 以上開けるように上げ規制をしてください。
- ・ キャビン付きトラクタの場合は、トラクタ背面のガラスを突き上げないように注意してください。
- ・ 最上げ状態で、トラクタの水平装置を手動で操作する場合は、トラクタに干渉しないように注意してください。
- ・ トラクタ背面のガラスを開いたままで作業機を持ち上げないでください。
- ・ 上げ高さ規制をかけた状態であっても、トラクタの水平装置を操作すると、上げ高さ規制よりもさらに上昇する場合があるため、フェンダーなどに注意してください。

トラクタや作業機の損傷につながります。

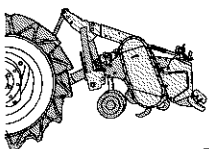
1

トラクタの PTO を回転させながら作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げてゆっくり作業機を上げ、干渉や振動・異音の出ない位置で作業機を止めます。



2

作業機昇降レバー（油圧レバー）を、上げ高さ規制ストッパで固定します。



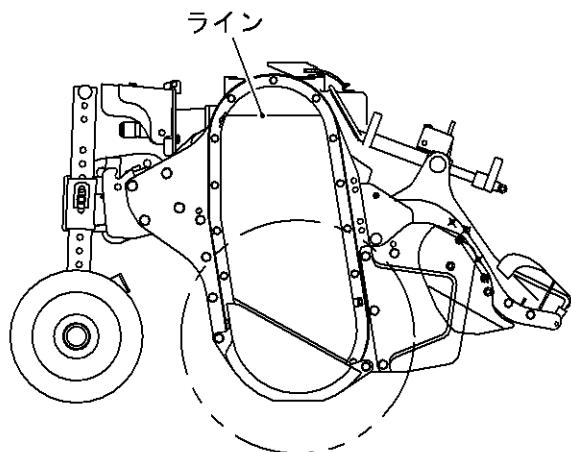
6.5 前後角度調整

注 記

- ・ トラクタによっては、若干の前傾・後傾の調整が必要な場合があります。
- ・ 極端な前傾・後傾は、作業機の振動や異音発生の原因になります。また、作業性能も損なうおそれがあります。
- ・ トップリンクが作業中にゆるむことがないように必ずロックしてください。

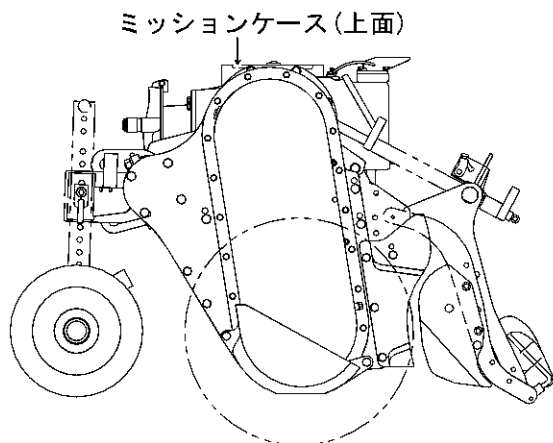
6.5.1 MXR/LXR

所定の耕深時にチェーンケース上側のラインがほぼ水平になるように、作業機の前後の角度をトップリンクで調整します。



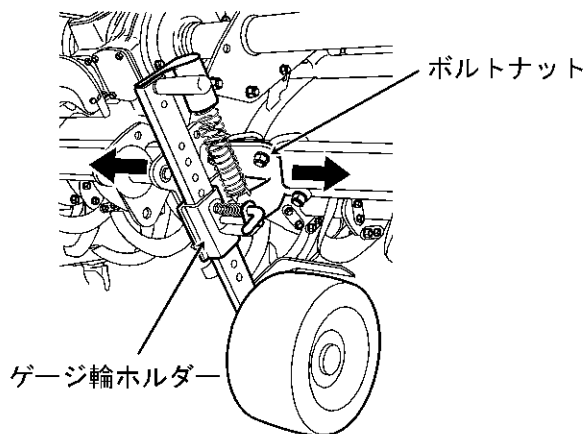
6.5.2 DXR

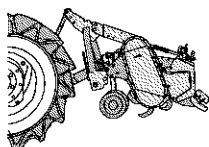
作業姿勢はミッションケースの上面が水平になるようにトップリンクを調整してください。



6.6 ゲージ輪の幅調節

トラクタ後輪タイヤの中央に位置するように、ゲージ輪ホルダーを止めているボルト・ナットをゆるめ、トラクタのタイヤの後ろに合わせてスライドさせ調節します。確実にナットで締付けてください。





7 作業前の点検

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- トラクタの車輪には車止めをしてください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 作業機が下がるのを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。
- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

作業機の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず作業前の始業点検を行ってください。

- (1) ミッションケースのオイル量、オイルもれ点検
- (2) チェーンケースのオイル量、オイルもれ点検
- (3) 各部の損傷、ボルト、ナットのゆるみ点検
- (4) ジョイントへのグリース点検、注入
- (5) グリースニップルへのグリース点検、注入
- (6) 耕うん爪など消耗部品の点検、交換
- (7) 地面から持ち上げ異音、異常の点検
- (8) ピン止め輪(E 形止め輪)・R ピン・割ピンの点検

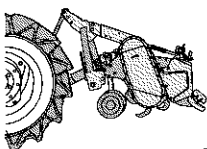
8 移動・ほ場への出入りと作業

8.1 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

- 急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしないでください。
- 運転者以外の人や物をトラクタや作業機に乗せて運ばないでください。
- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人や物に注意して走行してください。
- あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。
- 両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意してください。軟弱な路肩、草の茂った所は通らないでください。
- ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行ってください。
- 作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。
- 固いほ場や、石の多いところでは、作業機をゆっくり下ろしてください。回転する爪の勢いでトラクタを押し、飛び出す(ダッシング)ことがあります。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 回転部が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。
- 移動(前進・後進)するときは、必ずトラクタの PTO 変速レバーを「中立」の位置にしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。

- 積込み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの4倍、またはあぜや段差の4倍です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。

- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の25%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 作業機は、絶対に素手で触れたり、足でけったりしないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。

- 作業機やトラクタに巻き付いた草などを取除くときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

- 回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタに作業機を装着した状態では、「道路運送車両法の保安基準」を満たしていなければ道路走行することはできません。トラクタと作業機の組み合わせごとに「保安基準」を満たしていることの確認が必要です。

【守らないと】道路運送車両法違反となります。また、事故を引き起こすおそれがあります。

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
- 【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

- 異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行ってください。

【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。

- あぜに作業機をぶつけないように、低速で余裕を持って運転してください。

【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。

- 作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

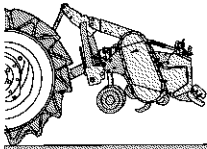
【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

重要

- ・ 移動（前進・後進）する前に、作業機を地表面（または水面）から 30 cm 以上持ち上げてください。
- ・ あぜ際を後進で作業の位置決めを行う場合は、作業機を十分に持ち上げ、あぜにぶつからないようにしてください。

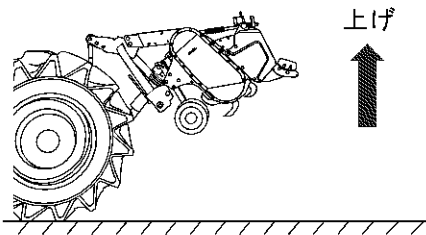
作業機の損傷につながります。

- ・ キャビン付きトラクタの場合は、リアウィンドウを閉めて、作業機の昇降操作を行ってください。トラクタや作業機の損傷につながります。



8.2 移動のしかた

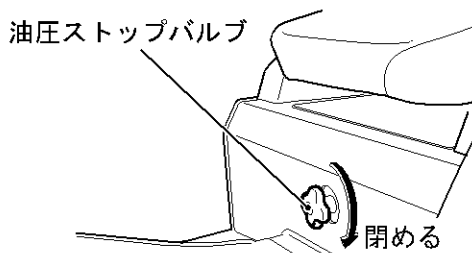
- 1** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）で作業機を最上げにします。
 （「6.4 最上げ位置の調節」（50 ページ）を参照してください。）



- 2** 油圧ストップバルブを完全に閉めます。

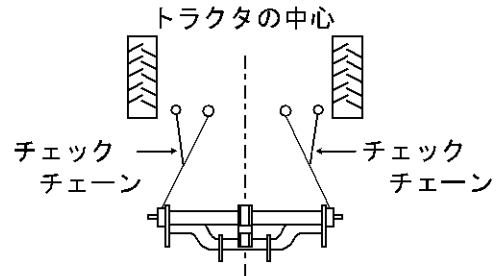
注 記

- 作業機が下がらないようにしてください。



- 3** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 4** 作業機が左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めます。

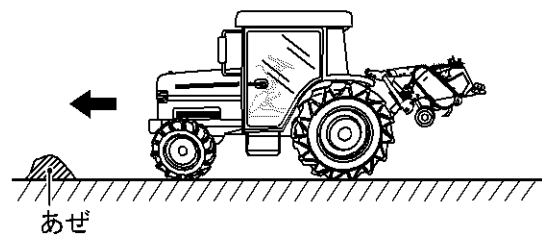


- 5** PTO 変速レバーを「中立」の位置にします。

- 6** トラクタのエンジンをかけ、トラクタをゆっくりと移動させます。

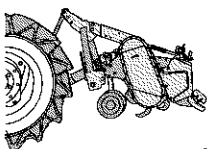
◆ほ場への出入り

ほ場への出入りはあぜと直角に、ゆっくり前進で行います。



注 記

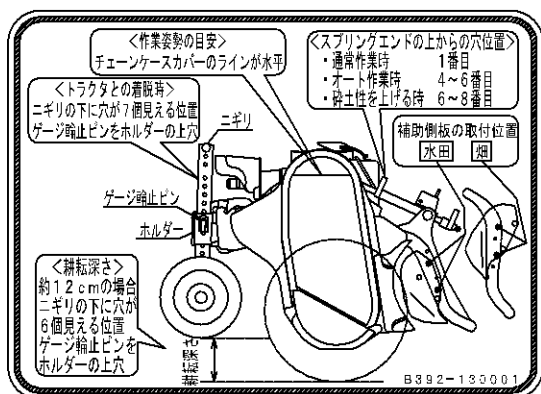
- 勾配がきつい場合は、後進で上り、前進で下りてください。
- 不整地・悪路を歩行する場合は、均平板を固定してください。スプリングエンドをいっぱい下げ、ばねを強めて均平板の動きを止めてください。
- 作業機の地上高が不足する場合は、トップリンクを縮め、地上高を確保してください。作業を行うときは、調整をやり直してください。



8.3 作業姿勢

8.3.1 MXR

下イラストを参考に、各項目確認をしてください。



◆トップリンクの長さ

作業姿勢は、所定の耕深時にチェーンケースカバーの上側のラインが水平になるように、トップリンクを調整します。

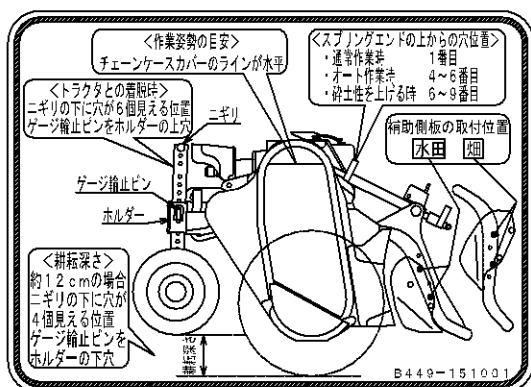
◆ゲージ輪

トラクタとの着脱時は、ニギリの下に穴が7個見える位置で、ゲージ輪止めピンをホルダーの上穴に差し込みます。

〔参考〕ニギリの下に穴が6個見える位置で、ゲージ輪止めピンをホルダーの上穴に差すと、深さ12 cmの耕うんができます。

8.3.2 LXR

下イラストを参考に、各項目確認をしてください。



◆トップリンクの長さ

作業姿勢は、所定の耕深時にチェーンケースカバーの上側のラインが水平になるように、トップリンクを調整します。

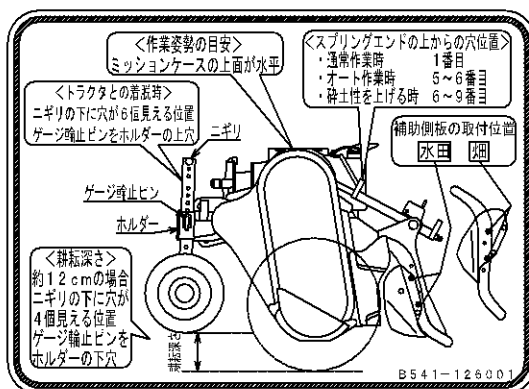
◆ゲージ輪

トラクタとの着脱時は、ニギリの下に穴が6個見える位置で、ゲージ輪止めピンをホルダーの上穴に差し込みます。

〔参考〕ニギリの下に穴が4個見える位置で、ゲージ輪止めピンをホルダーの下穴に差すと、深さ12 cmの耕うんができます。

8.3.3 DXR

下イラストを参考に、各項目確認をしてください。



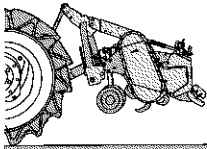
◆トップリンクの長さ

作業姿勢はミッションケースの上面が水平になるようにトップリンクを調整してください。

◆ゲージ輪

トラクタとの着脱時は、ニギリの下に穴が6個見える位置で、ゲージ輪止めピンをホルダーの上穴に差し込みます。

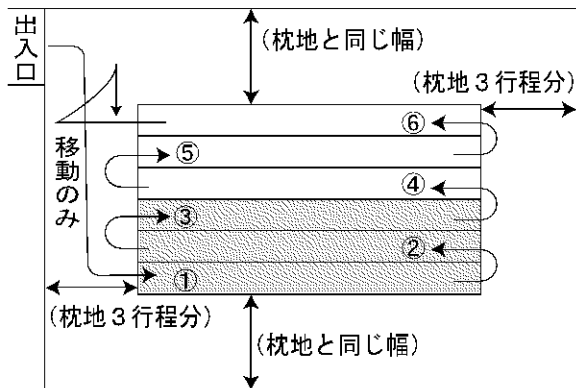
〔参考〕ニギリの下に穴が4個見える位置で、ゲージ輪止めピンをホルダーの下穴に差すと、深さ12 cmの耕うんができます。



8.4 作業のしかた

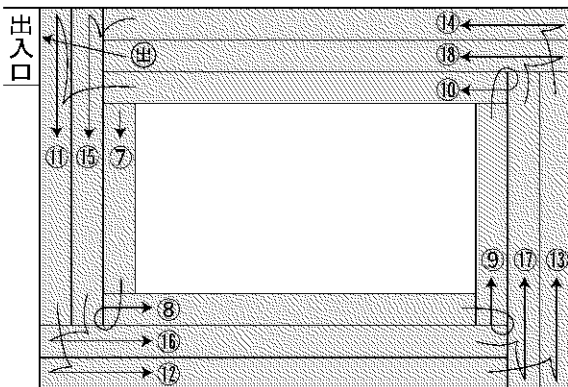
8.4.1 耕うん方法

- 1 旋回用の枕地を3行程分取ります。両側にも枕地と同じ幅を残し、①から作業を始めます。



- 2 ②～⑥は隣接を往復で作業します。

- 3 枕地の内側⑦、そして⑧～⑩を回り作業します。



- 4 あぜ際⑪～⑭を回ります。ブラケット側をあぜ際にし、残耕を少なくして作業します。

- 5 最後に残った⑮～⑯を回り、ほ場から出ます。

8.5 上手な作業のしかた

8.5.1 作業速度と回転速度

トラクタの作業速度とロータリーの回転速度は関係にあります。下表をめやすに作業目的や土地条件に合わせて選択してください。

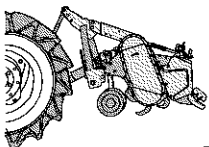
回転速度 (rpm)	300	250	200	150
↑ 速い		⑦	⑤	⑥
↓ 遅い		③	④	
		⑧	②	①
		1.0	2.0	3.0 4.0

← 遅い トラクタ作業速度 (km/h) 速い →

- ① 水田の荒起し作業は、爪軸の回転速度を一番遅くし、作業速度を2～3 km/hにします。
- ② 負荷の大きい強粘土地では、作業速度も遅くします。
- ③ 粘湿度が高く土を抱きやすい状態では、爪軸の回転速度を速めにして耕深を浅めにとり、作業速度を遅くします。
- ④ 畑地の碎土作業は、爪軸の回転速度を2速程度にします。
- ⑤ 畑碎土耕は、爪軸の回転速度を3、4速程度にします。
- ⑥ プラウ耕、スキ耕跡では、作業速度も速くできます。

注 記

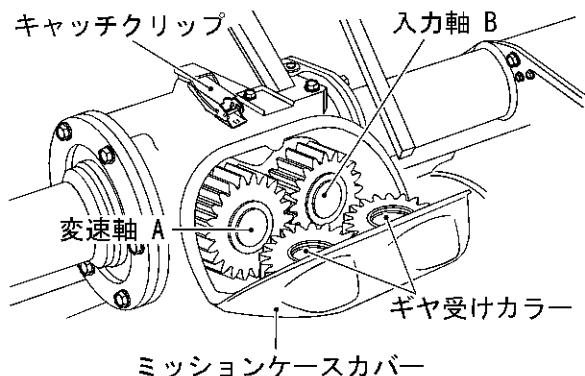
- ・ トラクタの自動水平装置は切って使します。
- ⑦ 転作水田の碎土作業は、爪軸の回転速度を速く、作業速度を遅くして、ていねいに耕します。
 - ⑧ 石の多いほ場では、爪軸の回転速度、作業速度ともに遅くして使します。



8.5.2 耕うん軸回転の変速

1

耕うん軸の回転数は変速ギヤの交換で行います。オプション（別売り）ギヤで、次表の通りの変速ができます。



2

ミッションケースのキャッチクリップを外して、ミッションケースを開きます。中の変速ギヤを入れ替えて変速をします。

注 記

- 交換したギヤは必ずミッションケースカバーにセットしてカバーを閉じてください。（大きいギヤの後に小さいギヤ、小さいギヤの後に大きいギヤをいれてください。）
- 交換したギヤは必ず入れてください。入れないとギヤが損傷します。

◆MXR

標準出荷時組合せ

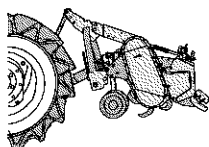
型式	変速	ギヤ組合せ		爪軸回転数
		変速軸 A 部品番号	入力軸 B 部品番号	
MXR (H) PTO 回転数 540rpm	標準	25T 1331109000	18T 1331501000	163rpm
		23T 1331111000	20T 1331503000	197rpm
		20T 1331503000	23T 1331111000	260rpm
		18T 1331501000	25T 1331109000	314rpm

型式	変速	ギヤ組合せ		爪軸回転数
		変速軸 A 部品番号	入力軸 B 部品番号	
MXR (H) PTO 回転数 540rpm	オプション	24T 1331502000	19T 1331110000	179rpm
		22T 1331504000	21T 1172103000	216rpm
		21T 1172103000	22T 1331504000	237rpm
		19T 1331110000	24T 1331502000	286rpm
		17T 1331108000	26T 1331506000	346rpm
		16T 1331505000	27T 1331508000	382rpm
MXR-M PTO 回転数 540rpm	標準	23T 1331111000	20T 1331503000	197rpm
		22T 1331504000	21T 1172103000	216rpm
		21T 1172103000	22T 1331504000	237rpm
		20T 1331503000	23T 1331111000	260rpm
	オプション	25T 1331109000	18T 1331501000	163rpm
		24T 1331502000	19T 1331110000	179rpm
		19T 1331110000	24T 1331502000	286rpm
		18T 1331501000	25T 1331109000	314rpm
		17T 1331108000	26T 1331506000	346rpm
		16T 1331505000	27T 1331508000	382rpm

◆LXR

標準出荷時組合せ

型式	変速	ギヤ組合せ		爪軸回転数
		変速軸 A 部品番号	入力軸 B 部品番号	
LXR LXR-K PTO 回転数 540rpm	標準	27T 1331508000	20T 1331503000	170rpm
		25T 1331109000	22T 1331504000	202rpm
		22T 1331504000	25T 1331109000	261rpm
		20T 1331503000	27T 1331508000	310rpm

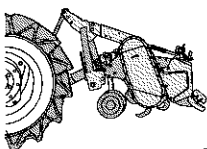


型式	変速	ギヤ組合せ		爪軸回転数
		変速軸 A 部品番号	入力軸 B 部品番号	
LXR LXR-K PTO 回転数 540rpm	オプション	28T 1172501000	19T 1331110000	156rpm
		26T 1331506000	21T 1172103000	185rpm
		24T 1331502000	23T 1331111000	220rpm
		23T 1331111000	24T 1331502000	239rpm
		21T 1172103000	26T 1331506000	284rpm
		19T 1331110000	28T 1172501000	338rpm
		25T 1331109000	22T 1331504000	202rpm
		24T 1331502000	23T 1331111000	220rpm
LXR-M LXR-ME PTO 回転数 540rpm	標準	23T 1331111000	24T 1331502000	239rpm
		22T 1331504000	25T 1331109000	261rpm
		28T 1172501000	19T 1331110000	156rpm
		27T 1331508000	20T 1331503000	170rpm
		26T 1331506000	21T 1172103000	185rpm
		21T 1172103000	26T 1331506000	284rpm
	オプション	20T 1331503000	27T 1331508000	310rpm
		19T 1331110000	28T 1172501000	338rpm
		30T B457101000	17T 1331108000	241rpm
		28T 1172501000	19T 1331110000	288rpm
		32T B457102000	15T 1331507000	199rpm
		31T B457105000	16T 1331505000	219rpm
		29T B457104000	18T 1331501000	264rpm
		27T 1331508000	20T 1331503000	315rpm
		26T 1331506000	21T 1172103000	343rpm

◆DXR

標準出荷時組合せ

型式	変速	ギヤ組合せ		爪軸回転数
		変速軸 A 部品番号	入力軸 B 部品番号	
DXR PTO 回転数 540rpm	標準	29T 1520504000	24T 1520503000	164rpm
		27T 1520506000	26T 1520505000	191rpm
		26T 1520505000	27T 1520506000	206rpm
		24T 1520503000	29T 1520504000	240rpm
		32T 1460120000	21T 1460119000	130rpm
		31T A460109000	22T A460108000	141rpm
	オプション	30T 1460122000	23T 1460121000	152rpm
		28T 1460504000	25T 1460503000	177rpm
		25T 1460503000	28T 1460504000	222rpm
		23T 1460121000	30T 1460122000	259rpm
		22T A460108000	31T A460109000	280rpm
		21T 1460119000	32T 1460120000	303rpm
		17T A460112000	28ⒺT A460113000	327rpm
		16T 1460501000	29ⒺT 1460502000	360rpm
		26T 1520505000	27T 1520506000	206rpm
		29T 1520504000	24T 1520503000	164rpm
		27T 1520506000	26T 1520505000	191rpm
		24T 1520503000	29T 1520504000	240rpm
		30T 1460122000	23T 1460121000	152rpm
		28T 1460504000	25T 1460503000	177rpm
		25T 1460503000	28T 1460504000	222rpm
		23T 1460121000	30T 1420122000	259rpm
		22T A460108000	31T A460109000	280rpm
		21T 1460119000	32T 1460120000	303rpm



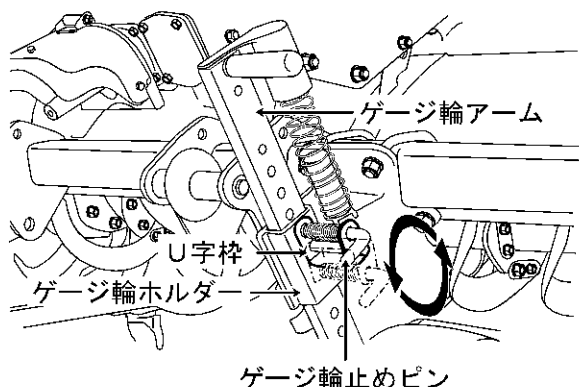
型式	変速	ギヤ組合せ		爪軸回転数
		変速軸 A 部品番号	入力軸 B 部品番号	
DXR-VM PTO 回転数 1000rpm	標準	32T	21T	241rpm
		1460120000	1460119000	
		30T	23T	282rpm
		1460122000	1460121000	
	オプション	30ⒺT	15T	184rpm
		A460111000	A460110000	
		29ⒺT	16T	203rpm
		1460502000	1460501000	
		28ⒺT	17T	223rpm
		A460113000	A460112000	
		31T	22T	261rpm
		A460109000	A460108000	
		29T	24T	304rpm
		1520504000	1520503000	
		28T	25T	328rpm
		1460504000	1460503000	
		27T	26T	354rpm
		1520506000	1520505000	
		26T	27T	382rpm
		1520505000	1520506000	

注 記

- ・ ギヤ歯面 1 箇所に丁数の打刻があります。例) 28T
- ・ 同じ丁数でも、モジュールが異なるものには、丁数の打刻の後にモジュール数を○で囲った打刻を施しています。例) 28ⒺT

8.5.3 作業深さの調整

ゲージ輪止めピンを引き出し、ゲージ輪アームを上下して調整します。



注 記

- ・ ゲージ輪ホルダーには上下 2 箇所の止めピン穴があります。
イラストのように U 字枠を反転させると 15 mm 間隔で調整ができます。
- ・ 左右のゲージ輪は同一穴にセットしてください。
- ・ トラクタ油圧は、ポジションコントロールを使い最下げまで下げてください。

8.5.4 均平板の調節

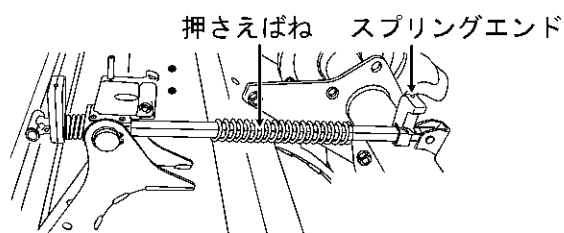
均平板の上下、および押えばねの調節は、碎土性能、土の反転性能、表面の仕上がりに大きく影響します。連結ロットの上のスプリングエンドをスライドさせ均平板の加圧力を調節します。

標準的なスプリングエンドの位置

- ・ 通常作業時は 1 番上の穴
- ・ オート装置使用時は上から 4～6 番目の穴
- ・ 碎土性を上げる時は上から 6～8 番目の穴

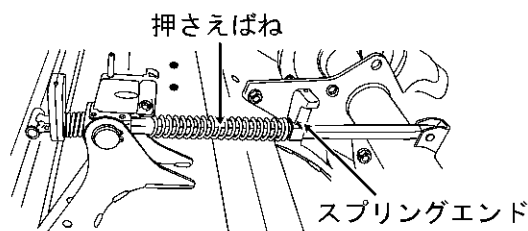
◆一般耕うん

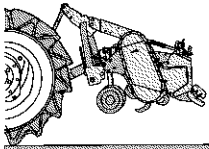
スプリングエンドを上げて押えばねをフリーにし、均平板の重量だけで表面を押えます。



◆オート装置使用時

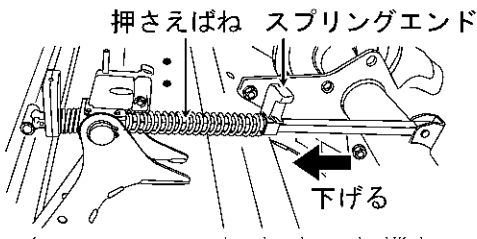
オート装置使用時には、わずかに均平板で表面を押えます。





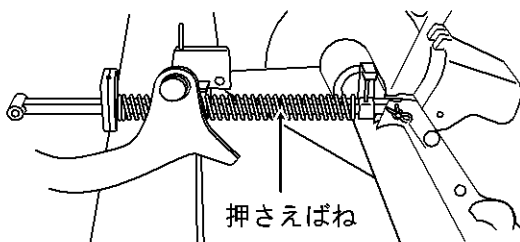
◆畑地の碎土

スプリングエンドを下げて押えばねを効かせ、ばねの力で表面を押えます。



◆石の多いほ場や粘湿田

押えばねをフリーにし、下側のスプリングエンドを下から2～7番目の穴に差しして均平板を表面から浮かせ、均平板の損傷や土溜りを少なくして使用してください。



8.5.5 均平板のはね上げ

爪交換などのメンテナンス作業時に、均平板をはね上げて自動的にロックすることができます。

重要

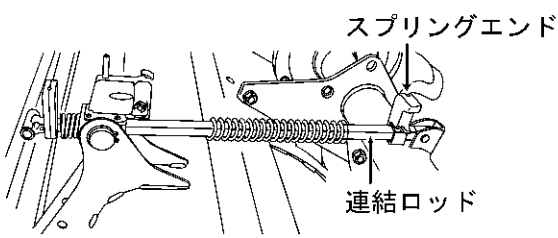
- 均平板をはね上げたままの耕うん作業はさけてください。

ストッパーピンが損傷します。

◆メンテナンス作業時

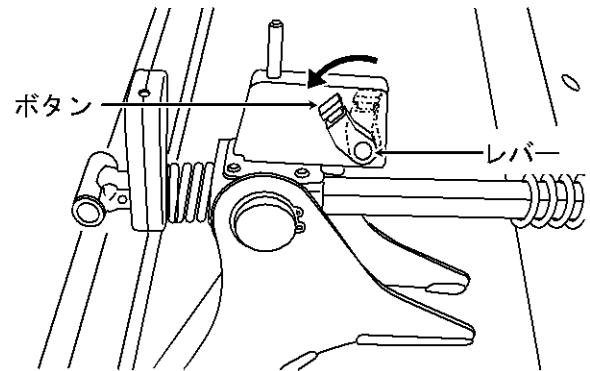
1

スプリングエンドを一番上の穴の位置まで上げておきます。



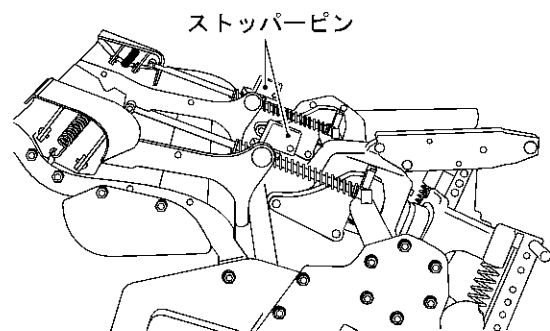
2

レバーのボタンを押し、レバーをロック位置にセットします。



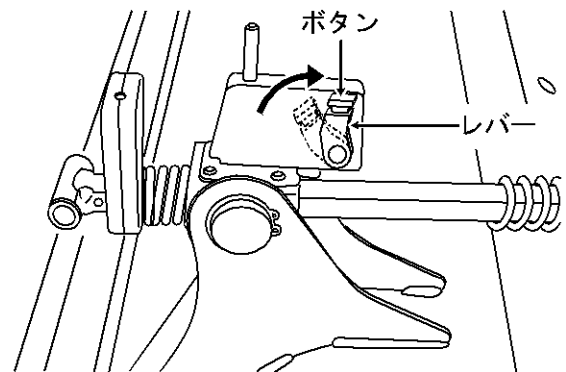
3

均平板を持ち上げると、自動的にストッパーピンでロックされます。



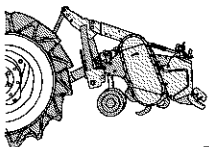
4

均平板を下ろすときは、レバーのボタンを押し、レバーを解除位置にセットします。



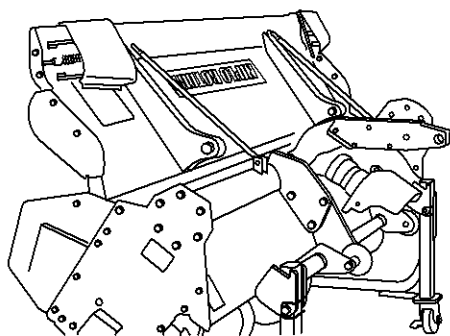
5

均平板を少し持ち上げると、自動的にストッパーピンが抜けます。



6 均平板をゆっくり下ろします。

◆ハイリフト時（均平板をはね上げる時）



⚠ 注意

- 均平板をハイリフトにするときは、必ず2人以上で作業を行ってください。

【守らないと】ケガや傷害事故につながります。

- ・ メンテナンス時よりもっと上げたい、均平板を上げた状態で作業を行いたいときに使用します。
- ・ 各種アタッチメントを取付けするときには、このハイリフト状態にして取付作業を行ってください。

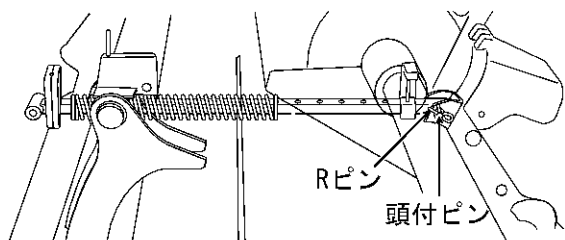
重要

- ・ 均平板をハイリフトするときは、必ずオート装置のリンクを外してください。

オート装置が損傷します。

- ・ ストッパーピンは使用しないでください。
- ストッパーピンが損傷します。

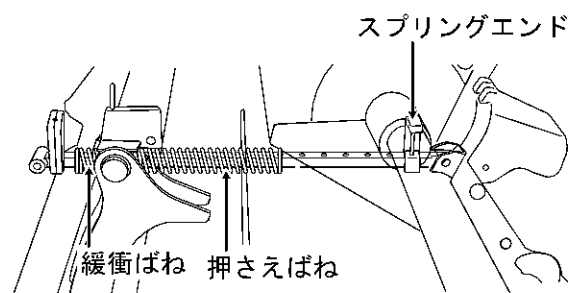
1 上側の R ピンを抜き取り、頭付ピン M10×40 を取外します。



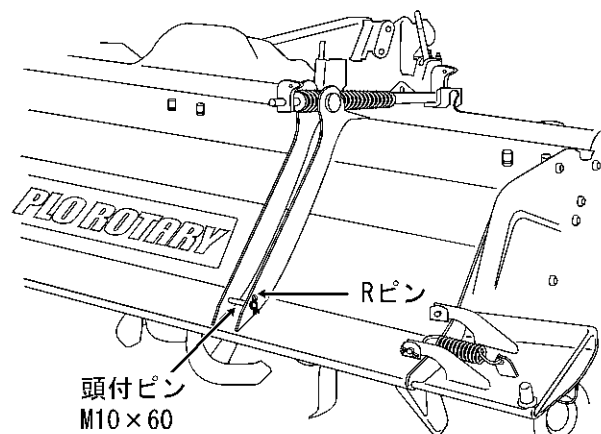
2 スプリングエンドを取外し、押さえばね、緩衝ばねを連結ロットから取外します。

注 記

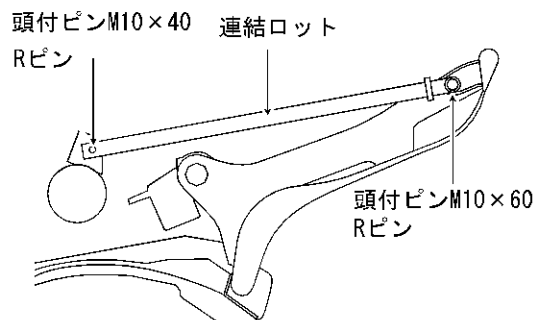
- ・ 取外した部品は、なくさないように保管してください。

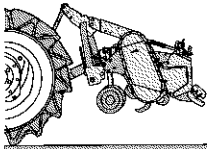


3 下側の R ピンを抜き取り、頭付ピン M10×60 を取外します。



4 連結ロットのみ使って、下イラストのように頭付ピンで両側を固定します。





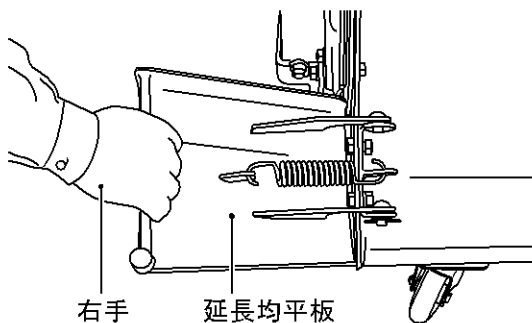
8.5.6 延長均平板の操作

畑地などで継目をならす延長均平板は、次の要領で操作してください。

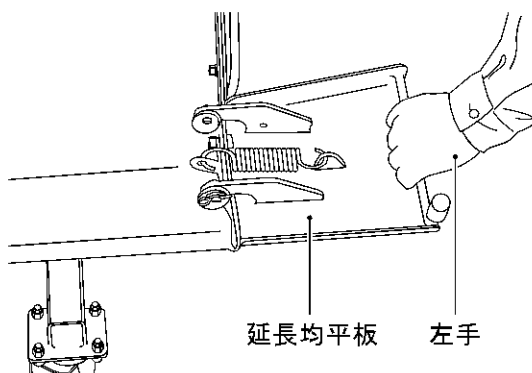
⚠ 注意

- 延長均平板は、次の要領で操作してください。
【守らないと】手をはさみケガの原因になります。

- 1** 後から見て左側の延長均平板は、右手で操作します。

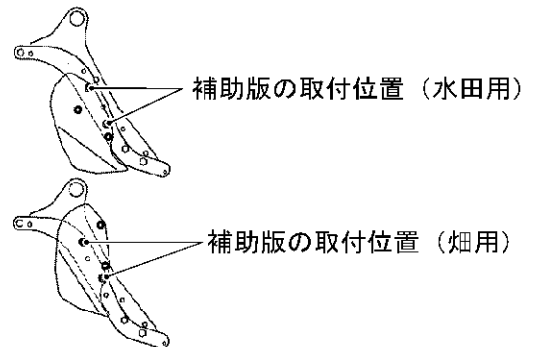


- 2** 後から見て右側の延長均平板は、左手で操作します。



8.5.7 補助側板の調整

補助側板は、出荷状態では畑用の位置になっています。水田用として使用する場合は、水田用の位置に組替えてください。

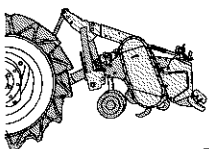


8.5.8 傾斜地での作業

傾斜地では上下方向に作業します。トラクタが流されず、作業がやりやすく仕上がりがきれいです。やむをえず、横傾斜で作業するときは、トラクタの流れを防ぐため、上の方から作業してください。

8.5.9 逆転 PTO について

作業機は、耕うん作業後の土寄せ程度の逆転作業には使用できますが、未耕地耕うんは行わないでください。使用すると作業機の損傷につながります。



9 取外しについて

9.1 取外しの注意事項

⚠ 危険

- 取外したトラクタのPTO 軸カバー、作業機の入力軸カバーを元どおりに取付けてください。
【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れたりしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を取外すときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- トラクタの取扱説明書をよく読んでください。
【守らないと】取外しができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの損傷につながるおそれがあります。

重要

- ジョイントを取外したら、必ず作業機の入力軸に☐入力軸キャップを取付けてください。
作業機の損傷につながるおそれがあります。

9.2 4S/3S シリーズ

1

トラクタのエンジンをかけます。

注 記

- ・ 4S の場合は、続いて手順 5 から行ってください。

2

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを取外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。

3

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

4

ジョイントをトラクタのPTO 軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

重要

- ・ トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。

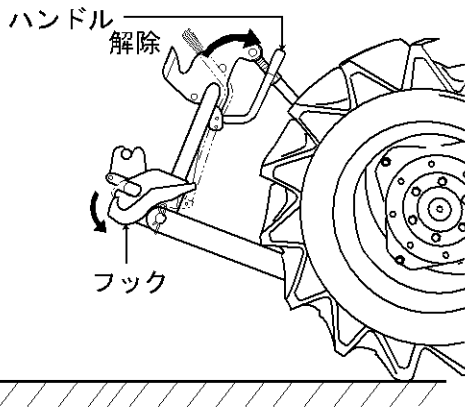
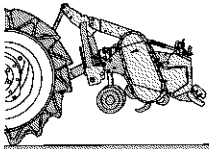
トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

5

カプラのハンドルのロックピンを解除します。

6

カプラのハンドルを引き、フックを解除します。

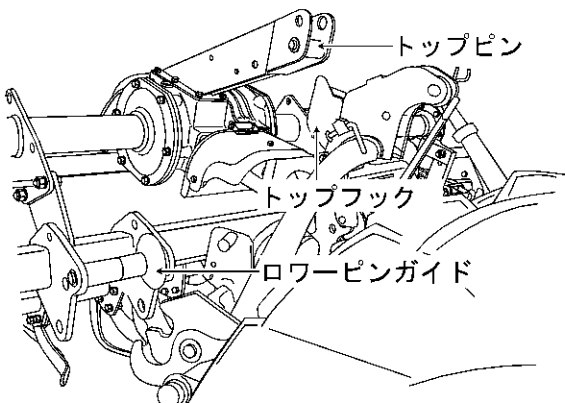


7 トラクタのエンジンをかけます。

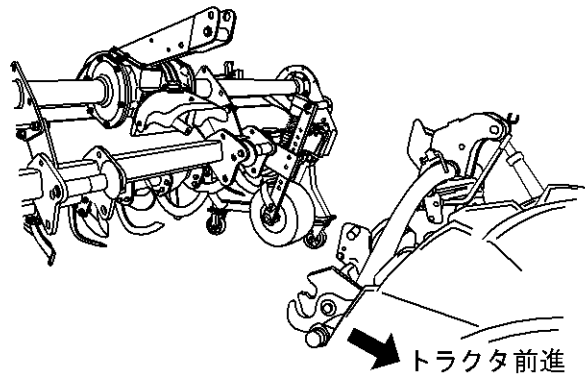
8 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。



9 カプラからローピンガイドが抜け、トップピンからトップフックが外れたのを確認します。



10 トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

9.3 4L/3L シリーズ

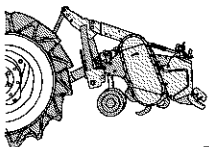
1 トラクタのエンジンをかけます。

注 記

- ・ 4L の場合は、続いて手順 7 から行ってください。

2 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。

3 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。



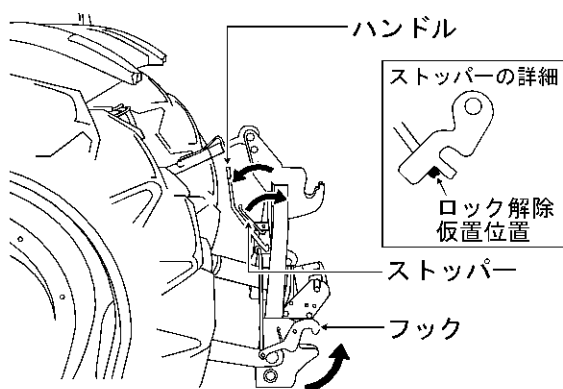
- 4** ジョイントをトラクタのPTO 軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

重要

- ・ トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。

トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

- 5** ストッパーを引き上げてロックを解除し、カプラのハンドルを引き、フックを解除します。

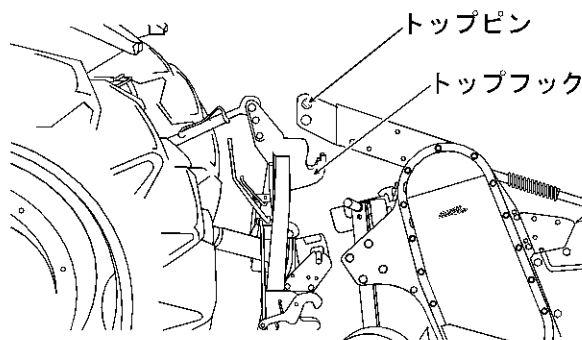


- 6** トラクタのエンジンをかけます。

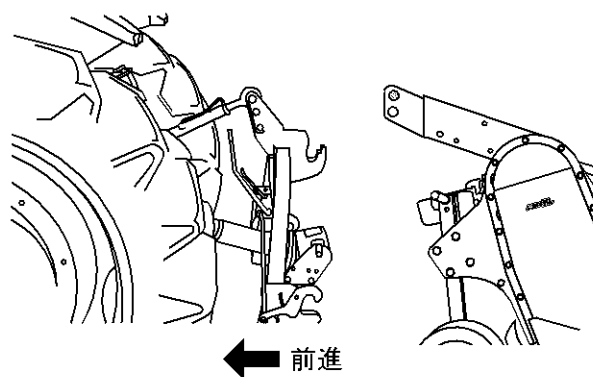
- 7** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。



- 8** カプラからローワーピンガイドが抜け、トップピンからトップフックが外れたのを確認します。



- 9** トラクタをゆっくり前進させます。



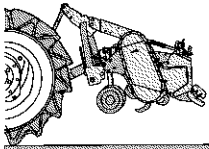
注 記

- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

9.4 3LB シリーズ

- 1** トラクタのエンジンをかけます。

- 2** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを取外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。



3

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

4

ジョイントをトラクタの PTO 軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

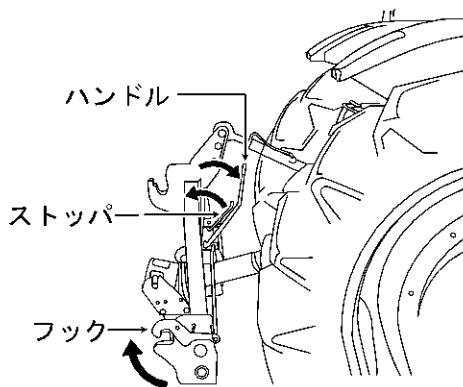
重要

- ・ トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。

トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

5

ストッパーを引き上げてロックを解除し、カブラのハンドルを引いてフックを着脱の状態にします。



6

トラクタのエンジンをかけます。

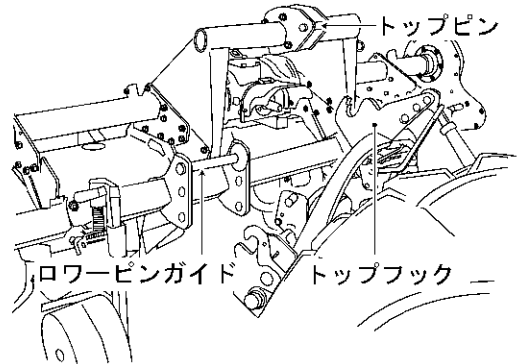
7

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。



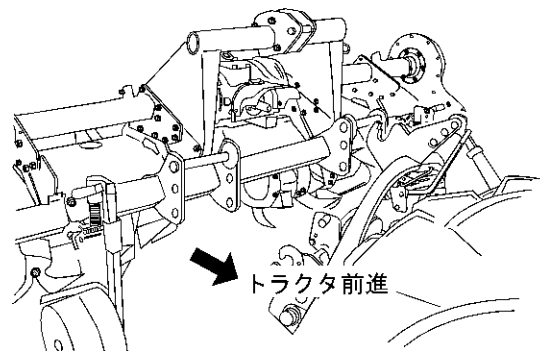
8

カブラからローワーピンガイドが抜け、トップピンからトップフックが外れたのを確認します。



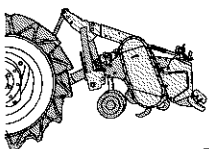
9

トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。



9.5 2L シリーズ

- 1** トラクタのエンジンをかけます。
- 2** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを取外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。
- 3** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。
- 4** ジョイントをトラクタの PTO 軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

重要

- ・ トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。

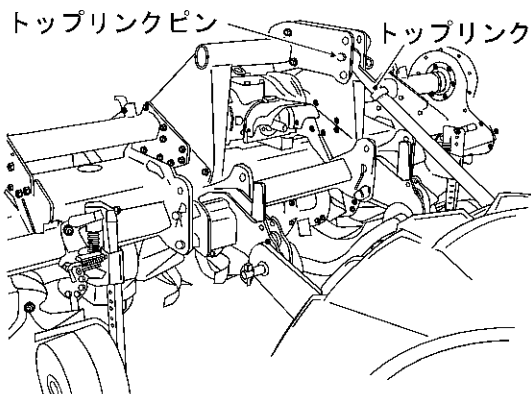
トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

- 5** トラクタのエンジンをかけます。
- 6** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり地面まで下げます。

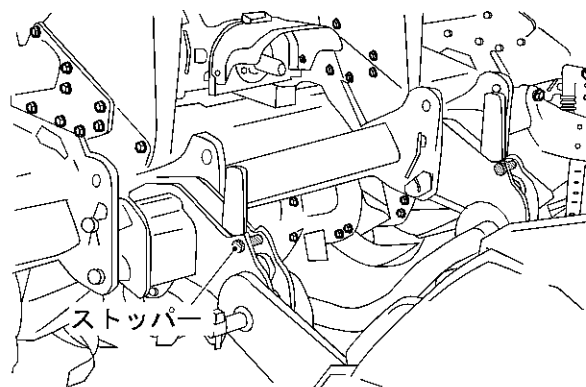


- 7** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

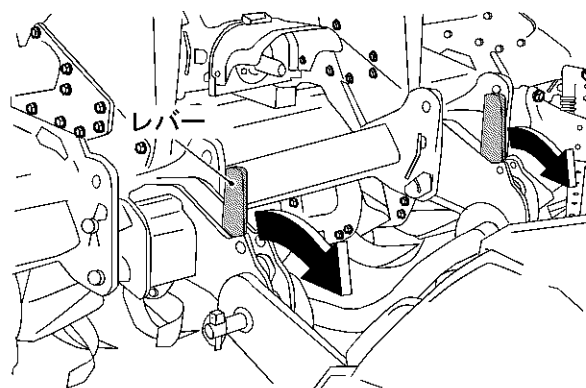
- 8** トップリンクピンを抜き、トラクタのトップリンクを作業機から取外します。

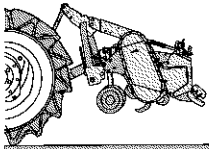


- 9** R ピンを外し、ストッパーを取外します。



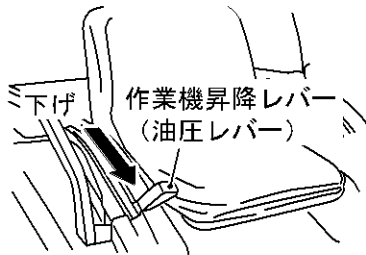
- 10** レバーを前方へ倒します。



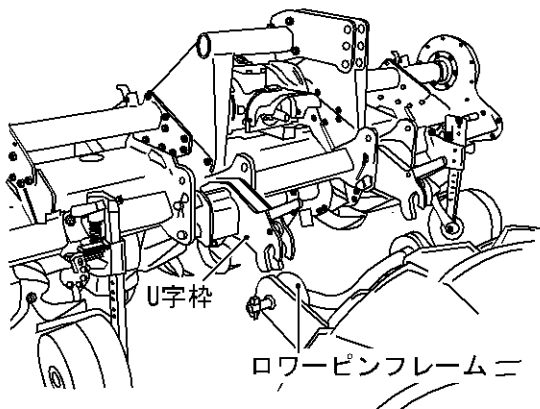


11 トラクタのエンジンをかけます。

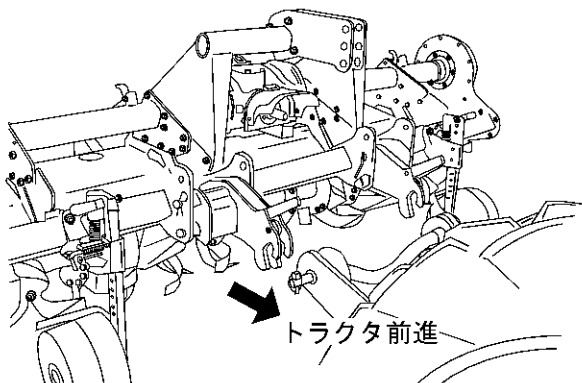
12 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、ローピンフレームをゆっくり下げます。



13 左右のU字枠からローピンフレームが外れます。



14 トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- ・ 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

9.6 1L シリーズ

1 トラクタのエンジンをかけます。

2 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを取外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。

3 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業機が携帯します。

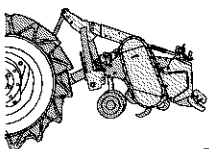
4 ジョイントをトラクタの PTO 軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

重要

- ・ トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。

トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

5 トラクタのエンジンをかけます。

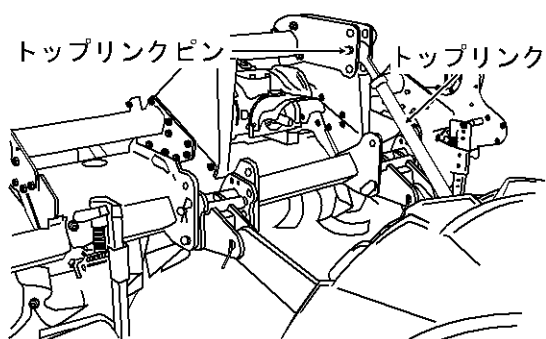


- 6** トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり地面まで下げます。

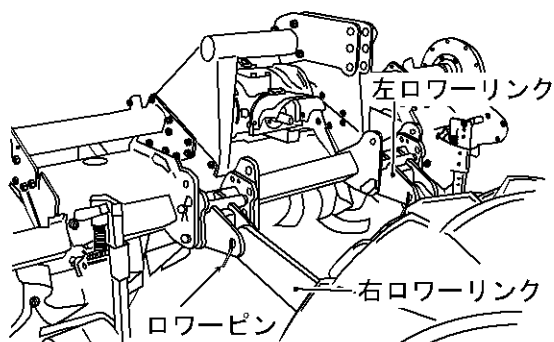


- 7** トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

- 8** トップリンクピンを抜き、トラクタのトップリンクを作業機から取外します。

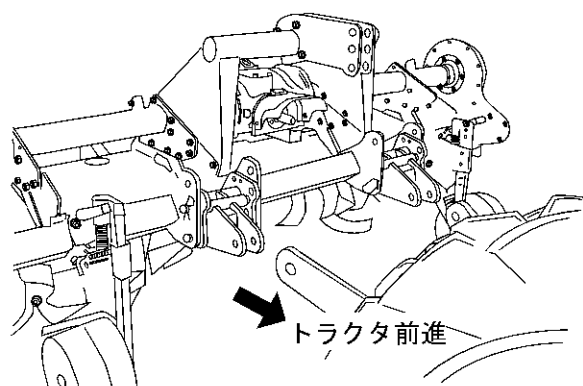


- 9** ローワーピンを抜き、左右のローワーリンクを取外します。



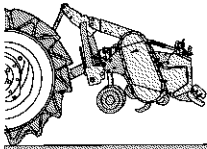
- 10** トラクタのエンジンをかけます。

- 11** トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。



10 保守・点検

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

10.1 保守・点検時の注意事項

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- トラクタの車輪には車止めをしてください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 回転部が止まっていることを確認してから、保守・点検・調整を行ってください。
- 作業機が下がるのを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

- 保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

- 厚手の手袋を着用し、手を保護してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

環境

- オイルを排出するときは、必ず容器に受けてください。地面へのたれ流しや川への廃棄は絶対にしないでください。

使用済みのオイルをむやみに捨てると環境汚染になります。

- 廃油、各種ゴム部品、消耗品などを捨てるときは、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。

むやみに捨てると環境汚染になります。

10.2 ボルト・ナットのゆるみ点検

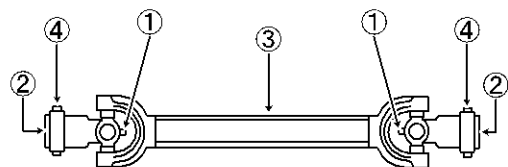
使用時ごとに各部のボルト・ナットを増締めしてください。新品の場合は、使用開始から2時間後に必ず増締めしてください。

10.3 ジョイントの給油

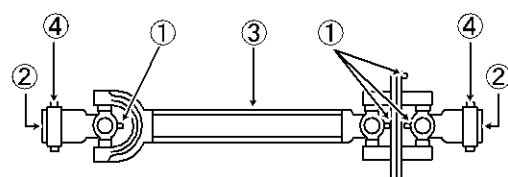
ジョイントの給油は、下表の通り実施してください。

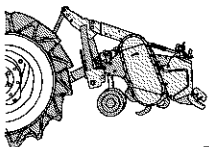
番号	給油箇所	給油時期
①	グリースニップル	使用時ごとにグリースを注入する（2 または 4 箇所）
②	ジョイントスプライン部	使用時ごとにグリースを塗る
③	シャフト	シーズン後にグリースを塗る
④	ロックピン	シーズン後に潤滑油を塗る

◆普通ジョイント

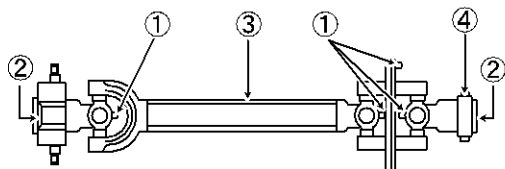


◆広角ジョイント





◆4S/4L ジョイント



注 記

- ・ ジョイントカバーにも、グリースニップルが左右1箇所ずつあります。使用時ごとにグリースを注入してください。

10.4 オイル量の点検と交換

(a) オイル量の点検

チェーンケースを垂直にして、各部のオイル量を点検してください。不足の場合はギヤオイル #90 を補給してください。

(b) オイル交換

工場出荷時に給油してあります。

1 回目の交換時間があるまでは、そのまま使用してください。

給油・オイル交換は、下表の通り実施してください。

◆MXR

給油箇所	潤滑油の種類	油量	交換時間	
			1 回目	2 回目以降
ミッションケース	ギヤオイル #90	2.8 L	30 時間後	250 時間毎
チェーンケース	ギヤオイル #90	2.2 L	30 時間後	250 時間毎
ブラケット側軸受部	ギヤオイル #90	60 cc	30 時間後	250 時間毎

◆LXR

給油箇所	潤滑油の種類	油量	交換時間	
			1 回目	2 回目以降
ミッションケース	ギヤオイル #90	3.5 L	30 時間後	250 時間毎
チェーンケース	ギヤオイル #90	2.2 L	30 時間後	250 時間毎
ブラケット側軸受部	ギヤオイル #90	60 cc	30 時間後	250 時間毎

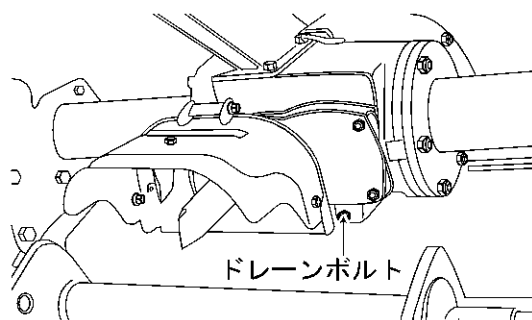
◆DXR

給油箇所	潤滑油の種類	油量	交換時間	
			1 回目	2 回目以降
ミッションケース	ギヤオイル #90	6.0 L	30 時間後	250 時間毎
チェーンケース	ギヤオイル #90	2.8 L	30 時間後	250 時間毎
ブラケット側軸受部	ギヤオイル #90	110 cc	30 時間後	250 時間毎

10.4.1 ミッションケース

1

ドレーンボルトを外して、オイルを排出します。

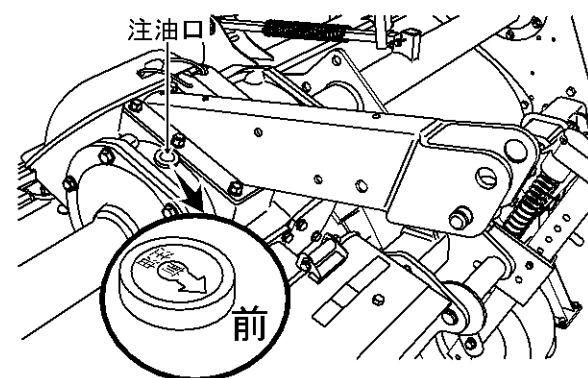


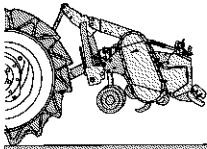
2

ドレーンボルトを取付けます。

3

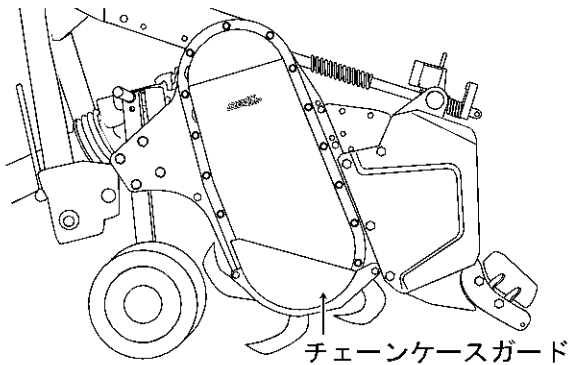
ミッションケース上の注油口から、ギヤオイル #90 を規定量給油します。



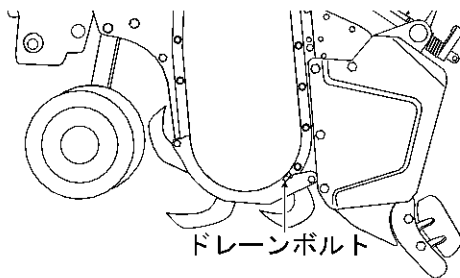


10.4.2 チェーンケース

- 1** チェーンケースガードを外します。

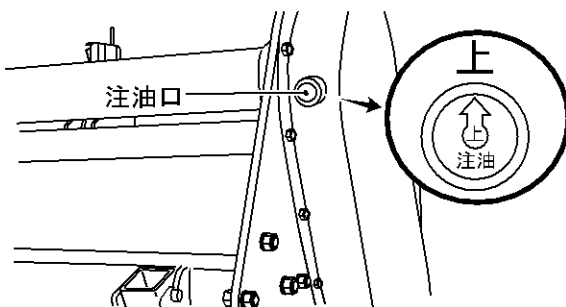


- 2** ドレーンボルトを外して、オイルを排出します。



- 3** ドレーンボルトを取付けます。

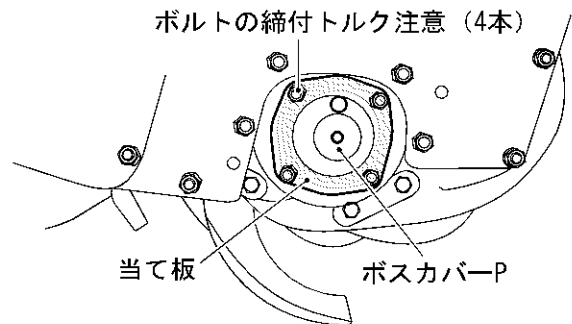
- 4** チェーンケースの注油口から、ギヤオイル #90 を規定量給油します。



10.4.3 ブラケット側軸受部

- 1** ブラケットガードを外します。

- 2** ボスカバーPの丸印の中心までギヤオイルが入っていることを確認します。
注油口までギヤオイルが入っていない場合は、ギヤオイル#90を給油します。



- 3** ブラケットガードを取付けます。

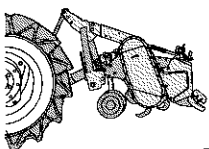
重要

- ・ ボスカバーPのボルトは、 $3 \text{ kg}\cdot\text{m}$ ($25\sim30 \text{ N}\cdot\text{m}$)の締付トルクで締付けください。
- ・ ボスカバーPは手で締付けてください。インパクトレンチは使用しないでください。

ボスカバーPが損傷するおそれがあります。

注 記

- ・ オイルの排出はボスカバーPを外して行ってください。
- ・ ボスカバーPの取付けは、当て板を取付けた上でボルトで固定してください。
- ・ ボスカバーPの取付け時に、ロックタイトなどのネジロック材や樹脂用の溶剤が付着すると割れます。付着した場合は、速やかに水で洗浄してから使用してください。

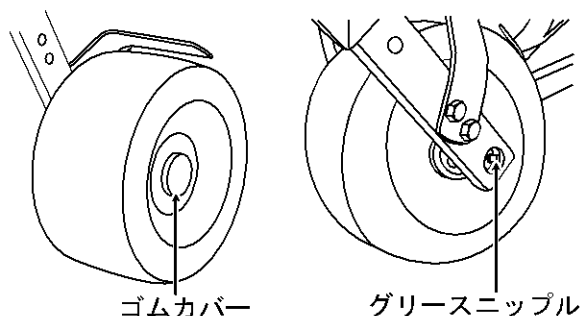


10.5 グリースの補充

作業前または8時間ごとに点検・補充をしてください。

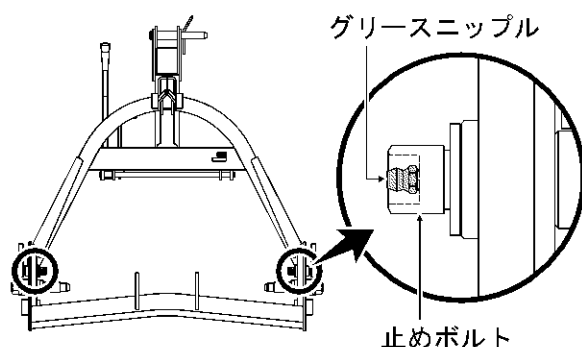
左イラスト：ゴムカバーを外してください。

右イラスト：グリースニップルよりグリースを注入して、ゴムカバー側から古いグリースが出てきたのを確認してください。



◆EL61/EL62/EL63 カプラ (4L/3L/0L シリーズ)

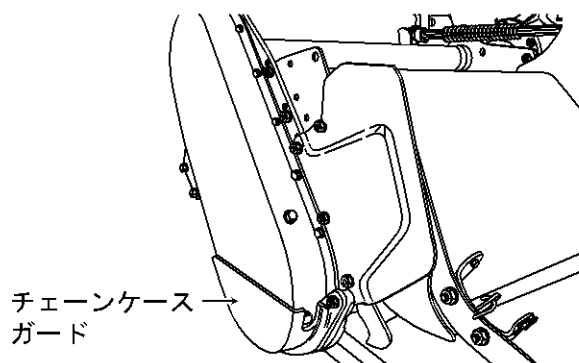
使用時毎に、左右フックの止めボルトのグリースニップルにグリースを補充してください。



10.6 消耗部品の交換

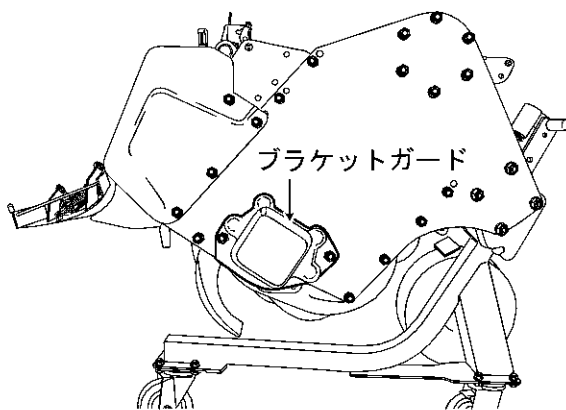
◆チェーンケースガード

交換が遅れるとチェーンケースカバーに削れ穴があき、オイルがもれます。スリ減りを確認したら交換してください。



◆ブラケットガード

ブラケットガードはボスカバーPを保護しています。スリ減りを確認したら交換してください。

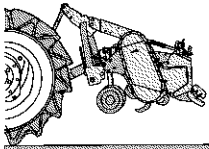


◆フローティングシールの交換要領 (耕うん軸のオイルシール)

ここではブラケット側軸受部で説明します。

重要

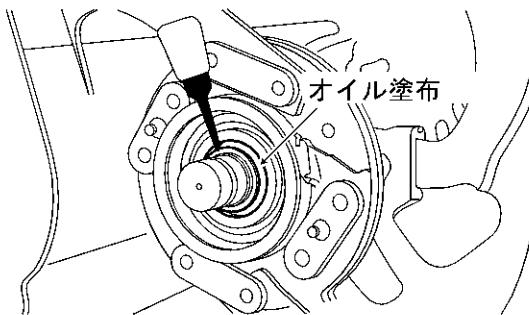
- ・ チェーンケース側、ブラケット側ともに、古いフローティングシールを取外した後、軸部、軸受部の土・泥・ほこり・サビなどを取除き、きれいにしてから交換作業を始めてください。



① 耕うん軸側

作業を始める前に、軸部、軸受部の土・泥・ほこり・サビなどを取除いてください。

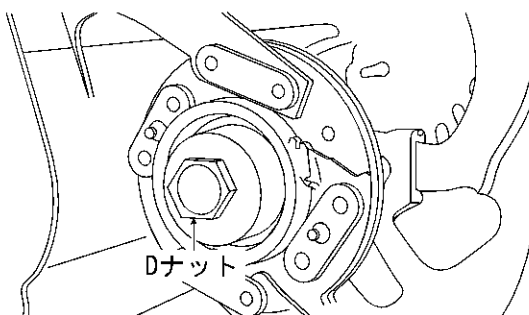
- 1 フローティングシールの入る部分に、オイルを全周に塗ります。



- 2 フローティングシールのほこりなどをふき取り、専用工具にはめ込みます。



- 3 フローティングシールと専用工具を耕うん軸に取付け、Dナットを取付けます。

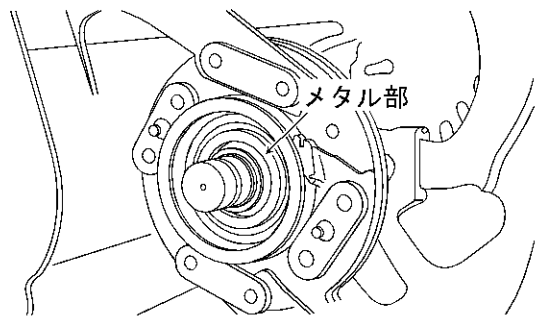


- 4 工具を使って奥までいっぱい締め込んだ後、Dナット、専用工具を外します。

- 5 フローティングシールが水平に入っているか確認します。

注 記

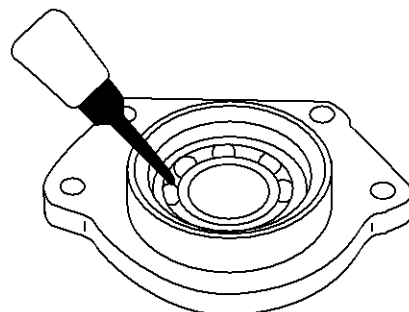
- ・ フローティングシールが水平に入っていない場合は、最初からやり直してください。



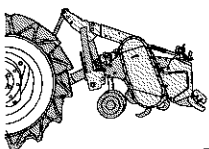
② 右耕うん軸ボス側

作業を始める前に、軸部、軸受部の土・泥・ほこり・サビなどを取除いてください。

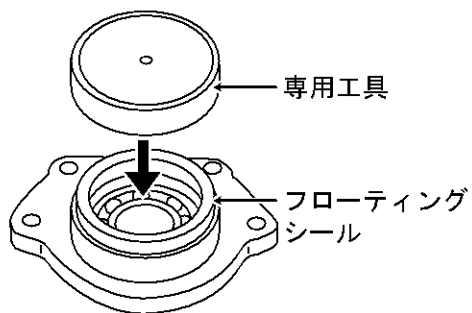
- 1 フローティングシールの入る部分に、オイルを全周に塗ります。



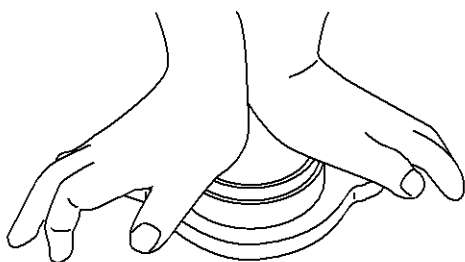
- 2 フローティングシールのほこりなどをふき取り、右耕うん軸ボスに水平にのせます。



3 専用工具を上から水平にのせます。



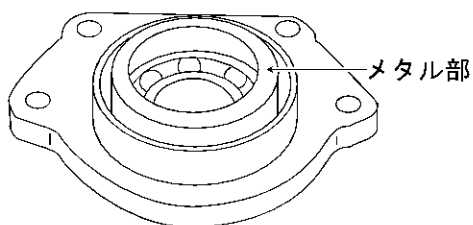
4 両手を使い、左右均等に力を入れて押し込みます。



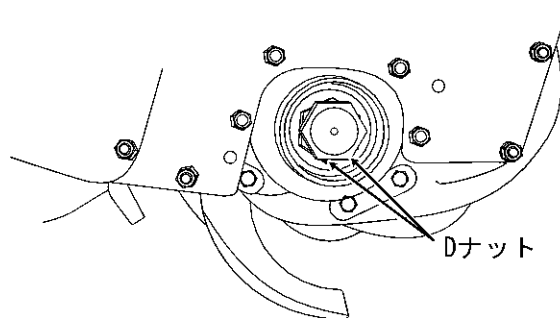
5 フローティングシールが水平に入っているか確認します。

注 記

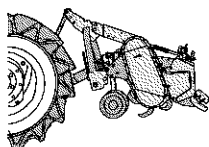
- ・ フローティングシールが水平に入っていない場合は、最初からやり直してください。



6 耕うん軸に右耕うん軸ボスを取付け、Dナット2個で確実に締付けます。



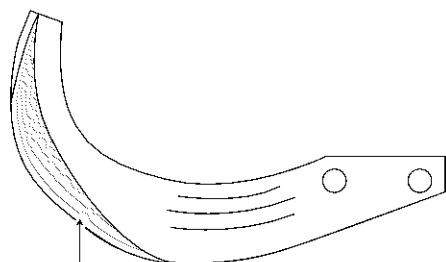
7 ネジ部の油分を十分にとってから、ネジロックを塗布します。



10.7 耕うん爪について

耕うん爪は、摩耗すると土の反転性能や碎土性能に大きく影響します。

特殊合金の溶着加工部分がなくなる前に交換してください。



特殊合金の溶着加工部

⚠ 警告

- 爪を取付けるときは、平らで固い場所を選び、駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にして、エンジンを停止してください。
- 作業機の落下を防止するため、油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故の原因になります。

注 記

- ・ 必ずニプロ純正耕うん爪を使用してください。ニプロ純正耕うん爪以外を装着した場合、保証の対象外となります。
- ・ 爪を交換するときは、均平板をはね上げた状態で行ってください。「8.5.5 均平板のはね上げ」(60～61 ページ) を参照してください。
- ・ 爪の交換は、一度に全部外してしまうと配列を間違えやすくなります。1 本ずつ外して、同じものを取付けてください。

◆標準セット爪の種類と本数

爪にはL 爪・R 爪の2 種類があります。爪の刻印で判別してください。

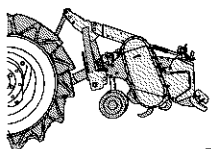
ご購入の際は、次表の爪セットコードを販売店・JA にご連絡ください。

フランジタイプ

作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
MXR1810	A219 903000	A251LG	A199 136000	18	36
		A251RG	A199 137000	18	
MXR1910 MXR2010	A204 903000	A251LG	A199 136000	20	40
		A251RG	A199 137000	20	
MXR2210	A234 903000	A251LG	A199 136000	22	44
		A251RG	A199 137000	22	
MXR2410	A237 903000	A251LG	A199 136000	24	48
		A251RG	A199 137000	24	

作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
LXR2010	B449 902000	BA1LG	B449 118000	20	40
		BA1RG	B449 119000	20	
LXR2210	B451 902000	BA1LG	B449 118000	22	44
		BA1RG	B449 119000	22	
LXR2410	B452 902000	BA1LG	B449 118000	24	48
		BA1RG	B449 119000	24	
LXR2610	B453 902000	BA1LG	B449 118000	26	52
		BA1RG	B449 119000	26	

作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
DXR2210	B451 902000	BA1LG	B449 118000	22	44
		BA1RG	B449 119000	22	
DXR2410	B452 902000	BA1LG	B449 118000	24	48
		BA1RG	B449 119000	24	
DXR2610	B453 902000	BA1LG	B449 118000	26	52
		BA1RG	B449 119000	26	
DXR2810	B544 902000	BA1LG	B449 118000	28	56
		BA1RG	B449 119000	28	



ホルダータイプ

作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
MXR2010H	B042 905000	H141LG	A115 190000	20	44
		H141RG	A115 191000	20	
		A273LG	B009 218000	2	
		A273RG	B009 219000	2	
MXR2210H	B081 905000	H141LG	A115 190000	22	48
		H141RG	A115 191000	22	
		A273LG	B009 218000	2	
		A273RG	B009 219000	2	
MXR2410H	B122 905000	H141LG	A115 190000	24	52
		H141RG	A115 191000	24	
		A273LG	B009 218000	2	
		A273RG	B009 219000	2	

作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
LXR2210H	B791 909000	H142LG	B759 105000	22	48
		H142RG	B759 106000	22	
		A273LG	B009 218000	2	
		A273RG	B009 219000	2	
LXR2410H	B792 909000	H142LG	B759 105000	24	52
		H142RG	B759 106000	24	
		A273LG	B009 218000	2	
		A273RG	B009 219000	2	
LXR2610H	B759 909000	H142LG	B759 105000	26	56
		H142RG	B759 106000	26	
		A273LG	B009 218000	2	
		A273RG	B009 219000	2	
LXR2810K	1894 905000	3351L	1214 202000	34	72
		3351R	1214 203000	34	
		A13L	1491 202000	2	
		A13R	1491 203000	2	
LXR3010K	6425 941000	3351L	1214 202000	37	78
		3351R	1214 203000	37	
		A13L	1491 202000	2	
		A13R	1491 203000	2	
LXR3310K	A412 901000	3351L	1214 202000	41	86
		3351R	1214 203000	41	
		A13L	1491 202000	2	
		A13R	1491 203000	2	

M爪タイプ

作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
MXR1710M	B400 902000	M1LG	B400 105000	21	42
MXR1810M		M1RG	B400 106000	21	
MXR2010M	B402 902000	M1LG	B400 105000	24	48
		M1RG	B400 106000	24	

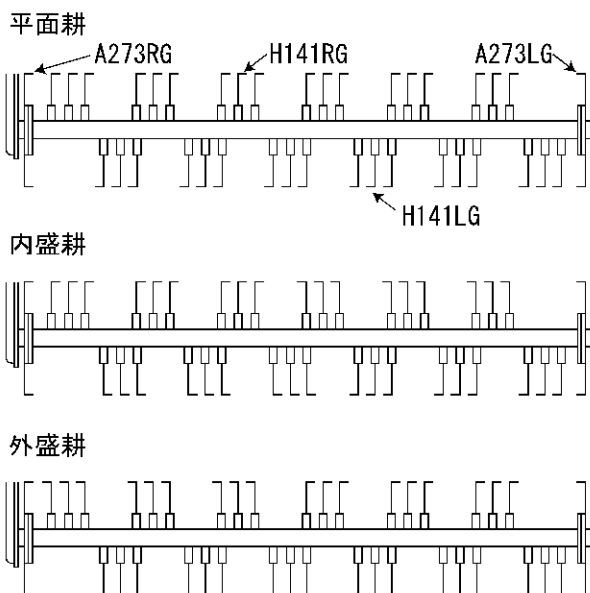
作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
LXR2010M	B455 903000	BM6LG	B454 102000	27	54
		BM6RG	B454 103000	27	
LXR2210M	B456 903000	BM6LG	B454 102000	30	60
		BM6RG	B454 103000	30	
LXR2410VM	B457 903000	BM6LG	B454 102000	33	66
		BM6RG	B454 103000	33	
LXR2610VM	B458 903000	BM6LG	B454 102000	36	72
		BM6RG	B454 103000	36	

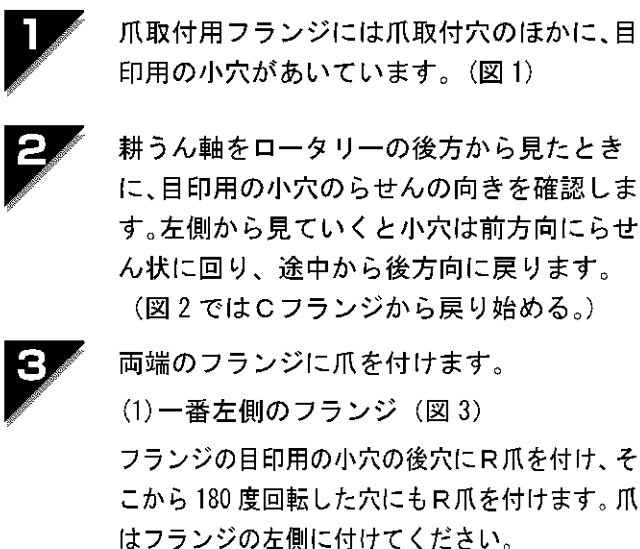
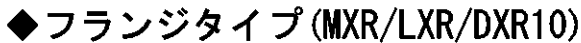
作業機 型式	爪セット コード	爪刻印	単品コード	数量	
					合計
DXR2410VM	B457 903000	BM6LG	B454 102000	33	66
		BM6RG	B454 103000	33	
DXR2610VM	B458 903000	BM6LG	B454 102000	36	72
		BM6RG	B454 103000	36	
DXR2810VM	B548 903000	BM6LG	B454 102000	39	78
		BM6RG	B454 103000	39	

10.8 耕うん爪配列方法

◆ホルダータイプ

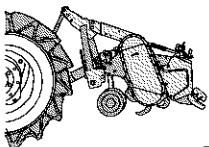
下イラストを参照して配列してください。標準の平面耕では、幅が違ってホルダーの爪取付ナット側に爪の曲り側を合わせると配列ができます。ただし、両端のフランジにはサイド爪がイラストのように付きます。



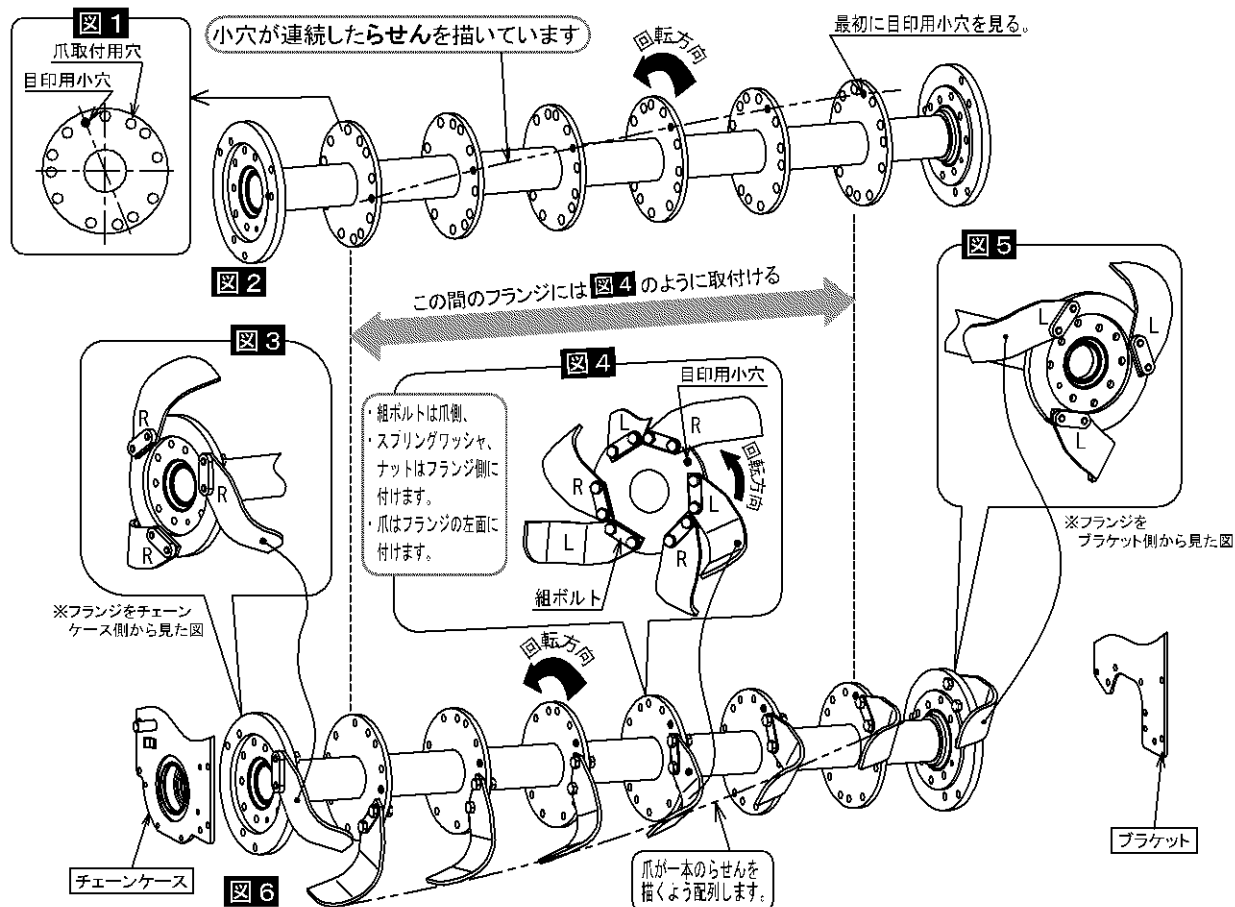


フランジの目印用の小穴の後穴にL爪を付け、そこから180度回転した穴にもL爪を付けます。爪はフランジの右側に付けてください。

78 ●●●



◆M 爪タイプ (MXR/LXR/DXR10)



1

爪取付用フランジには爪取付穴のほかに、目印用の小穴があいています。(図1)

2

耕うん軸をロータリーの後方から見たときに、目印用の小穴のらせんの向きを確認します。左側から見ていくと小穴は前方向にらせん状に回ります(図2)

3

両端のフランジに爪を付けます。

(1) 一番左側のフランジ(図3)
R爪を図の通り3ヶ所付けます。爪はフランジの左面に付けてください。

(2) 一番右側のフランジ(図5)

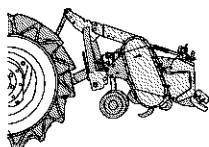
L爪を図の通り3ヶ所付けます。爪はフランジの右面に付けてください。

4

その他のフランジに爪を付けます。目印用小穴の後穴に、L爪を組付けます。(図4)

続いてR爪、L爪と交互に組付けます。

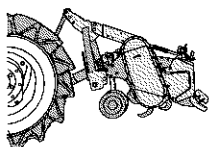
爪は後方から見て、フランジ左面に組付けます。



10.9 点検整備チェックリスト

時間	項目
新品使用始め	① ミッションケースのオイル量点検
	② チェーンケースのオイル量点検
新品使用 2 時間	① ボルト・ナットの増締め
新品使用 30 時間	① ミッションケースのオイル交換
	② チェーンケースのオイル交換
	③ ブラケット軸受部のオイル交換
使用前	① 耕うん爪の取付ボルト増締め
	② ミッションケースのオイル量、オイルもれ点検
	③ チェーンケースのオイル量、オイルもれ点検
	④ ジョイントのグリースニップルへグリース注入
	⑤ 地面から上げて回転させ、異音異常のチェック
使用后	① きれいに洗浄して水分ふきとり
	② ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落チェック
	③ 耕うん爪、ガードなどの摩耗、折れチェック
	④ 入力軸ヘグリースを塗る
	⑤ ジョイント、スプライン部ヘグリースを塗る
	⑥ ジョイント、ロックピンヘ注油
	⑦ 動く部分ヘ注油
シーズン終了後	① ミッションケースのオイル交換、オイルもれチェック
	② チェーンケースのオイル交換、オイルもれチェック
	③ ブラケット軸受部のオイル交換
	④ ジョイントのシャフトヘグリースを塗る
	⑤ 無塗装部ヘサビ止め
	⑥ 消耗部品は早めに交換

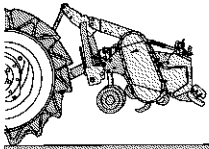
※ 機体の各部の変形、損傷などの異常を見つけたら、速やかに修理してください。
お客様でできない作業項目は、お買い上げいただいた購入先へお問合せください。



10.10 異常と処置一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合は、再使用せずにすぐに次の処置をしてください。

部位	症 状	原 因	処 置
耕うん軸	異音の発生	軸受ベアリングの異常	ベアリング交換
		爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締付
	振動の発生	耕うん軸の曲がり	耕うん軸交換
		耕うん爪の配列間違い	爪配列のチェック
	軸が回らない	チェーンの切れ	チェーン交換
		駆動軸の切れ	駆動軸交換
	オイルもれ	フローティングシールの異常	フローティングシール交換
	残耕ができる	耕うん爪の摩耗、折れ	耕うん爪交換
	土が寄る	耕うん爪の配列間違い	爪配列のチェック
チェーンケース	異音の発生	チェーンタイトナーの損傷	タイトナー交換
		スプロケットの損傷	スプロケットの交換
	オイルもれ	チェーンケースパッキンの切れ	パッキン交換
		チェーンケースカバー締付ボルトのゆるみ	ボルト増締め
	熱の発生	オイル量不足	オイル補給
ミッションケース	異音の発生	ベアリングの異常	ベアリング交換
		ギヤの損傷	ギヤ交換（ベベルギヤの交換は1 セット（組合せ）をお願いします。）
		ベベルギヤのカミ合い異常	シムで調整
	オイルもれ	入力軸オイルシールの異常	オイルシール交換
		O-リングの切れ	O-リング交換
		ミッションケースの締付ボルトのゆるみ	ボルト増締め
	熱の発生	オイル量不足	オイル補給
	オイル異常減少	駆動軸オイルシールの異常	オイルシール交換
ジョイント	異音の発生	グリース量不足	グリース注入
	ジョイント鳴り	ジョイント折れ角が不適切	前後角度姿勢の調整
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	たわむ	シャフトのカミ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ロックピンとヨークの摩耗	すぐに交換



11 格納について

⚠ 注意

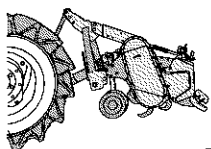
- 雨や風があたりず、平らで固い場所を選んでください。
- ゲージ輪止めピン、連結ロットのスプリングエンドを所定の位置で止め、転倒を防止してください。
【守らないと】作業機の転倒などにより、傷害事故や作業機の損傷につながります。
- カブラをトラクタから取外した場合、取外したカブラを作業機に取付けて格納しないでください。
【守らないと】カブラが落下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

重要

- ・ ジョイントは、ほこりなどの付かない場所に格納してください。

格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 作業機はきれいに清掃し、塗装のできない入力軸・ジョイントのスプラインには、必ずサビ止めのためにグリースを塗ってください。
- (2) 格納はできる限り屋内にしてください。



12 アタッチメント一覧表（オプション）

⚠ 警告

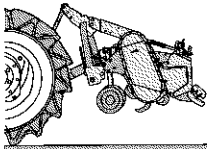
- トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の 25% 以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。
- トラクタの取扱説明書や販売店の指示に従って、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの損傷をまねくおそれがあります。

ロータリーには、次のアタッチメント（別売）がとりそろえてあります。

ご要望に応じてご注文をお願い致します。

分類	品名	型式	用途	1810	1910	2010	2210	2410	2610
畝立溝開	1 畦リッチャー (V 均平板に交換)	R1A	梯形畝立	MXR のみ ○	MXR のみ ○	MXR のみ ○	MXR のみ ○	MXR のみ ○	
	2 畦リッチャー	R2B	丸形畝立	○	○	○	○	○	○
	3 畦リッチャー	R3A	丸形畝立	○	○	○	○	○	○
	4 畦リッチャー	R4A	丸形畝立	○	○	○	○	○	○
	片培土器	KBB	側方畝盛	○	○	○	○	○	○
	サイドディスク	NSD	耕深増大	○	○	○	○	○	○
	片培土溝掘機	KMA	側方溝掘り	○	○	○	○	○	○
	サイドリッチャー	KBF・KBR	畝立、片培土	○	○	○	○	○	○
マルチ	平畦マルチ	MFA-H	野菜全般用	○	○	○	○	○	○
	平高畦マルチ	MFA-HT	スイカ、メロン、 他	○	○	○	○	○	○
	汎用平高マルチ	MMA-3	スイカ、メロン、 ほうれん草、他	○	○	○	○		
施肥播種	搭載型シーダー	UF(A) シーダー	大麦、小麦、稲	○	○	○	○	○	○
	けん引型シーダー	MDR	大豆、小豆、 コーン、麦	○	○	○	○	○	○
	〃	MFR	豆、コーン、麦	○	○	○	○	○	○
	〃	MRX	施肥播種両用	○	○	○	○	○	○
	ロータリーソーワ	RS07	搭載形薬剤散布	○	○	○	○	○	
その他	プラウ爪	PBA	土寄せ	○	○	○	○	○	○
	鎮圧ローラー	JR	同時鎮圧	○	○	○	○	○	○
	成形機	MPT	野菜用畦立	○	○	○	○	○	○



13 保証とサービスについて

13.1 保証について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

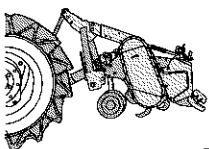
13.2 アフターサービスについて

作業機の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し点検してください。
点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた購入先までご連絡ください。

• 型式名と製造番号	ネームプレートに記載(10 ページを参照)
• ご使用状況	・ 水田ですか？ 畑ですか？ ・ ほ場の条件は石が多いですか？ 強粘土ですか？ ・ トラクタの速度は？ ・ PTO の回転数は？
• どのくらい使用されましたか？	・ 約□□アール または□□時間
• 不具合が発生したときの状況をなるべく、くわしく教えてください。	

13.3 補修部品と供給年限について

- 補修部品は、純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や性能に影響する場合があります。
- この作業機の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期等ご相談させていただく場合があります。



14 用語と解説

アタッチメント

作業機に後付けする製品

オート装置

作業機の均平板の動きをセンサで感知して、トラクタに電気または機械信号で伝え、トラクタの油圧を自動的に作動させ、作業深さを一定に規制する装置

クリーブ(速度)

超低速の作業速度

耕うん爪取付方法

フランジタイプ

耕うん軸の板(フランジ)に、耕うん爪1本に対して、ボルト2本(組ボルトは1個)で取付ける方法

ホルダータイプ

耕うん軸のホルダー(ブラケット)に、耕うん爪を差し込んで、ボルト1本で取付ける方法

耕深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ターンバックル

ねじ機構により胴部を回転させて両端の長さを調整できる装置

ダッシング

耕うん爪の回転でトラクタが前に押され飛び出すこと

チェックチェーン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の一部を吊り下げているリンク

ハイリフト(ニプロロータリー 10シリーズ)

フレームパイプの連結ロット取付位置と、均平板下部の頭付ピンが取付けてある位置を、連結ロットでつなぎ、均平板をはね上げる事(はね上げの方法は、均平板の調整の項参照)

ブラケット側

チェーンケースの反対の軸受側

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

メカニカルロック

機械的に固定する

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロワーリンクと連結しているアーム

リリーフ状態(音)

油圧シリンダが最縮および最長時、これ以上伸び縮みできないときに音が変わったとき

リリーフ弁

油圧装置に設定以上の油の圧力がかかり油圧装置が損傷することを防止する弁

ロワーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の一部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

<http://www.niplo.co.jp>

Niplo 松山株式会社

- 本社 〒386-0497
長野県上田市塩川155
Tel. (0268) 42-7500
Fax. (0268) 42-7556
- 物流センター 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel. (0268) 36-4111
Fax. (0268) 36-3335
- 北海道営業所 〒068-0111
北海道岩見沢市 栗沢町由良194-5
Tel. (0126) 45-4000
Fax. (0126) 45-4516
- 旭川出張所 〒079-8451
北海道旭川市永山北1条8丁目32
Tel. (0166) 46-2505
Fax. (0166) 46-2501
- 帯広出張所 〒082-0004
北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
Tel. (0155) 62-5370
Fax. (0155) 62-5373
- 東北営業所 〒989-6228
宮城県大崎市古川清水三丁目石田24番11
Tel. (0229) 26-5651
Fax. (0229) 26-5655
- 関東営業所 〒329-4411
栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
Tel. (0282) 45-1226
Fax. (0282) 44-0050
- 長野営業所 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel. (0268) 35-0323
Fax. (0268) 36-4787
- 岡山営業所 〒708-1104
岡山県津山市綾部1764-2
Tel. (0868) 29-1180
Fax. (0868) 29-1325
- 九州営業所 〒869-0416
熊本県宇土市松山町1134-10
Tel. (0964) 24-5777
Fax. (0964) 22-6775
- 南九州出張所 〒885-0074
宮崎県都城市甲斐元町3389-1
Tel. (0986) 24-6412
Fax. (0986) 25-7044

